

令和4年度

地域と共にある学校づくり

実践事例集

— 諏訪地区・上伊那地区 —



長野県教育委員会事務局
文化財・生涯学習課

南 信 教 育 事 務 所

目 次

◆ はじめに

◆ 信州型コミュニティスクールの取組事例

◆ 地域と共にある学校づくり実践事例

諏訪地区小学校

<岡谷市>

○ 川岸小	1
○ 神明小	2
○ 小井川小	3
○ 岡谷田中小	4
○ 湊小	5
○ 長地小	6
○ 上の原小	7

<下諏訪町>

○ 下諏訪南小	8
○ 下諏訪北小	9

<諏訪市>

○ 城南小	10
○ 上諏訪小	11
○ 四賀小	12
○ 豊田小	13
○ 中洲小	14
○ 湖南小	15

<茅野市>

○ 永明小	16
○ 米沢小	17
○ 北山小	18
○ 湖東小	19
○ 豊平小	20
○ 玉川小	21
○ 泉野小	22
○ 金沢小	23
○ 宮川小	24

<原村>

○ 原小	25
------	----

<富士見町>

○ 本郷小	26
○ 境小	27
○ 富士見小	28

諏訪地区中学校

<岡谷市>

○ 岡谷西部中	29
○ 岡谷北部中	30
○ 岡谷南部中	31
○ 岡谷東部中	32

<下諏訪町>

○ 下諏訪中	33
○ 下諏訪社中	34

<諏訪市>

○ 上諏訪中	35
--------	----

○ 諏訪中	36
-------	----

○ 諏訪西中	37
--------	----

○ 諏訪南中	38
--------	----

<茅野市>

○ 永明中	39
-------	----

○ 北部中	40
-------	----

○ 長峰中	41
-------	----

○ 東部中	42
-------	----

<原中>

○ 原中	43
------	----

<富士見中>

○ 富士見中	44
--------	----

<県立>

○ 諏訪清陵附属中	45
-----------	----

諏訪地区特別支援学校

○ 諏訪養護	46
--------	----

○ 花田養護	47
--------	----

上伊那地区小学校

<辰野町塩尻市小学校組合立>

○ 両小野小	48
--------	----

<辰野町>

○ 川島小	49
-------	----

○ 辰野西小	50
--------	----

○ 辰野東小	51
--------	----

○ 辰野南小	52
--------	----

<箕輪町>

○ 箕輪中部小	53
---------	----

○ 箕輪北小	54
--------	----

○ 箕輪西小	55
--------	----

○ 箕輪南小	56
--------	----

○ 箕輪東小	57
--------	----

<南箕輪村>

○ 南箕輪小	58
--------	----

○ 南部小	59
-------	----

<伊那市>

○ 伊那小	60
-------	----

○ 伊那東小	61
--------	----

○ 伊那北小	62
--------	----

○ 伊那西小	63
--------	----

○ 西箕輪小	64
--------	----

○ 東春近小	65
--------	----

○ 富県小	66
-------	----

○ 新山小	67
-------	----

○ 美篁小	68
-------	----

○ 手良小	69
-------	----

○ 西春近北小	70
---------	----

○ 西春近南小	71
---------	----

○ 長谷小	72
-------	----

○ 高遠北小	73
--------	----

○ 高遠小	74
-------	----

<宮田村>

○ 宮田小	75
-------	----

<駒ヶ根市>

○ 赤穂小	76
-------	----

○ 赤穂東小	77
--------	----

○ 赤穂南小	78
--------	----

○ 中沢小	79
-------	----

○ 東伊那小	80
--------	----

<飯島町>

○ 飯島小	81
-------	----

○ 七久保小	82
--------	----

<中川村>

○ 中川西小	83
--------	----

○ 中川東小	84
--------	----

上伊那地区中学校

<辰野町>

○ 辰野中	85
-------	----

<箕輪町>

○ 箕輪中	86
-------	----

<南箕輪村>

○ 南箕輪中	87
--------	----

<伊那市>

○ 伊那中	88
-------	----

○ 東部中	89
-------	----

○ 西箕輪中	90
--------	----

○ 春富中	91
-------	----

○ 長谷中	92
-------	----

○ 高遠中	93
-------	----

<宮田村>

○ 宮田中	94
-------	----

<駒ヶ根市>

○ 赤穂中	95
-------	----

○ 東中	96
------	----

<飯島町>

○ 飯島中	97
-------	----

<中川村>

○ 中川中	98
-------	----

上伊那地区特別支援学校

○ 伊那養護	99
--------	----

学校の概要		学校名	岡谷市 立川岸小	学校	学校長	小口 貴一郎	児童生徒数	336 名	
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について									
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について				
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○ 会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある				
		市町村教委		自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)			
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○ 公民館代表		○ PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある			
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の学校職員		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある			
名称	川岸コミュニティスクール運営委員会		[その他の委員]*具体的な役職名を記入 ボランティア代表			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 1 人	
						地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		人	
会議開催数(予定)	8	回	今年度開催日(予定)	【川岸CS部会】5月17日 6月8日:中止 9月1日:中止 (12月21日 開催予定) 【とちっ子ひろば会議】 4月22日 6月15日(書面で開催) 8月24日 (2月21日 開催予定)		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		学校職員(教頭及び教頭以外の職員)	
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		教頭	
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況									
学校教育目標	たくましい子ども 体と心をきたえ明るく元気な子 私もあなたも大切にすること 気づき考え意欲的に学ぶ子 しっかり働き責任を果たす子								
地域と共有された育てたい子どもの姿	川岸の地域を愛し、地域を誇りに思うことができる子 元気にあいさつができ、どんなことにも意欲的に取り組むことができる子 自分に自信を持ち、相手のことも思いやれる優しい子								
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況				
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○
2	学校運営への必要な支援について			○					
3	地域の実情や課題について			○	2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		
5	教職員の任用に関する一般的な要望について			○	4		協働活動に参加したボランティアの人数		149 人
						ボランティア登録者人数		1000 人	
						参加者延べ人数			
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	給食	休み時間	
	清掃		ICT		学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	○
	土日・長期休業教科・体験学習	○	地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(子どもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)	○	遠足・登山	○
	人権教育		国際理解		託児			キャリア教育(職場体験を含む)	
学校・家庭・地域の協働した取組例									
		登下校の見守り(10月14日)		5学年豪雨災害学習(9月30日)		とちっ子ひろば(10月12日)			
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)									
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)									
5学年 豪雨災害学習 川岸地区は、これまでに幾度か豪雨による災害に見舞われてきた。その時の災害を学び教訓とし、これからに生かす目的で、本校では、毎年5学年で豪雨災害学習を行っている。今回は、平成18年の豪雨災害のときに、消防団で救助にあたった方と区長をされていて現対策委員をされている方を講師にお招きして、子どもたちが災害について学習した。まず、教室でパネル等を見ながらお話を聞いた。その後、被害状況のわかる現場に行って、土石流がどの高さまで流れてきたかどこまで流れたかを教えていただいたり、その後でできた砂防堰堤に行ってその役割をお聞きしたりして、見て聞いて学ぶことができた。岡谷市からお借りした災害当時の写真や実際の土石流の高さの残る高架橋の橋桁を見て、子どもたちは、自然災害の恐ろしさや威力を学んだ。また、当時、どのような思いで救助作業をしていたのか話をお聞きすることで、地域に住む人の思いや願いを感じることができた。5年生は、平成18年の災害を知らない世代である。この地域に生きる子どもたちが、川岸の自然と向き合い、防災のために自分たちに何ができるのか考えるきっかけになった。									

学校の概要		学校名	岡谷市	立 神明小	学校	学校長	中澤 俊喜	児童生徒数	323 名								
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について																	
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について												
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある									
		市町村教委		自治会代表		○		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)									
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○			公民館代表		PTA代表		○								
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○		学校長・教頭以外の学校職員		○									
名称		神明小学校運営委員会			[その他の委員]※具体的な役職名を記入 ボランティア代表			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)									
		地域コーディネーター		2		人		地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)									
会議開催数(予定)		2		回		今年度開催日(予定)		6月15日(中止) 1月25日									
		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)			地域住民												
		具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)			旧PTA役員												
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況																	
学校教育目標		つむぐ ～絆・学び・夢～															
地域と共有された育てたい子どもの姿		子どもが主人公の学校をめざし、地域の本物に学び、探究心を育てていく。															
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況												
1		上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○		1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。	○							
2		学校運営への必要な支援について			○		2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。								
3		地域の実情や課題について			○		3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)								
4		子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○		4		協働活動に参加したボランティアの人数	62 人							
5		教職員の任用に関する一般的な要望について			○		参加者延べ人数		825 人								
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り		○		読み聞かせ		○		児童会、生徒会		クラブ、部活動		給食		休み時間	
		清掃		ICT		学習ボランティア		○		総合的な学習の時間支援		○		コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習	
		土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(子どもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)					
		人権教育		国際理解		託児											
		登下校の見守り活動(通年)		読み聞かせボランティア(通年)		神明っ子 はばたき ラボ(通年)											
代表的な協働した活動の取組例																	
(上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)																	
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)																	
○神明っ子 はばたき ラボ 本校では、多くの子どもたちが学童クラブを利用している。学童クラブ利用者に加え、希望のある児童に、月2回ほど水曜日の放課後に「神明っ子 はばたき ラボ」を行っている。コロナ禍で活動が制限されている中ではあるが、本年度コロナによる中止もなく、工作教室・絵画教室など、毎回いろいろな企画で子どもたちを楽しませてくれている。 子どもたちは、異学年の子どもたちと一緒に活動する機会となるので、高学年の子が低学年の子の面倒をみるという場面もしばしばみられる。また、学校職員ではない方に指導していただいているので、社会性を身につけるということにもつながっているように思われる。																	

学校の概要		学校名	岡谷市立 小井川小 学校		学校長	小林 博		児童生徒数	294 名				
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について													
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について							
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○		会議の委員構成				○ ボランティアのリストがある					
				市町村教委		自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)					
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○		公民館代表		PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある					
				地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		学校長・教頭以外の学校職員		ボランティアの方を対象とした研修会がある					
名称		小井川小学校学校運営委員会		[その他の委員]*具体的な役職名を記入 学校評議委員代表 ボランティア団体代表				学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 1 人 地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者) 人			
会議開催数(予定)		3 回		今年度開催日(予定)		第1回 令和4年 5月19日(木) 第2回 令和4年 7月14日(木) 第3回 令和5年 2月17日(金)		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		保護者(PTA)			
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		PTA会長経験者			
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況													
学校教育目標		自ら求めて動く子ども											
地域と共有された育てたい子どもの姿		①子どもたちが がんばれる学校 ②子どもたちが 満足感や達成感を得られる学校 ③学ぶことが 楽しいと思える学校											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況							
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○		2 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○							
2 学校運営への必要な支援について		○		3 地域の実情や課題について		○		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)					
3 地域の実情や課題について		○		4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○		4 協働活動に参加したボランティアの人数		62 人			
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○		5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○		参加者延べ人数		2800 人			
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○											
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り		読み聞かせ		児童会、生徒会		クラブ、部活動		給食		休み時間	
		清掃		ICT		学習ボランティア		総合的な学習の時間支援		コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習	
		土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(子どもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)	
		人権教育		国際理解		託児							
学校・家庭・地域の協働した取組例													
		ラムラム広場での地域交流(毎月)				おいかわっこでの昔の遊び体験(毎月)				えがおまもり隊による見守り活動(通年)			
		代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)											
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)													
<p>・毎年OKMP(おいかわ未来プロジェクト)として、感謝を伝える会を開催しているが、今年は開校150周年記念ということもあり、11月15日の開校記念式典に5つの団体の方を招待し、式典にOKMPを位置づけた。コロナで活動の様子を知らない児童や職員もいるため、活動の紹介を映像にまとめて視聴したり、代表児童による作文発表、校長からの感謝状の贈呈などを行った。えがおまもり隊の方からは、入隊のお誘いもあった。</p> <p>・5月には、市の「ふれあいたいむ」推進の一環として、岡谷市長が登校時間中にえがおまもり隊の方を激励して歩く機会もあった。</p> <p>・7月中旬から12月まで、学校の前の歩道橋改修工事があり、歩道橋が通れなくなり、児童が慣れない横断歩道を使うようになった際には、えがおまもり隊の何人かが横断の支援に入ってくださり、児童の安全確保を手伝ってくださった。</p>													



学校の概要		学校名	岡谷市 立岡谷田中小 学校		学校長	五味 隆		児童生徒数	352 名				
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について													
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について							
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○ 会議の委員構成				○ ボランティアのリストがある							
		市町村教委		○ 自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)							
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表		○ PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある							
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の学校職員		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある							
名称	岡谷田中小コミュニティスクール運営委員会				[その他の委員]*具体的な役職名を記入				学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター	2 人	
									地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)			人	
会議開催数(予定)	3	回	今年度開催日(予定)	5月13日 10月17日 2月15日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		地域住民					
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		元社会教育委員, 元保育園長					
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況													
学校教育目標	深める学び あふれる笑顔 響く歌声												
地域と共有された育てたい子どもの姿	地域を愛する子ども 明るく元気で健やかな子ども 感謝の心と思いやりのある子ども												
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況							
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について				○	1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。				○			
2	学校運営への必要な支援について				○								
3	地域の実情や課題について					2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。				○			
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて					3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)							
5	教職員の任用に関する一般的な要望について					4 協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数	130	人	参加者延べ人数	1100	人
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食		休み時間			
	清掃		ICT		学習ボランティア	○	総合的な学習の時間支援	コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習	○		
	土日・長期休業教科・体験学習	○	地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(子どもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)	遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)			
	人権教育		国際理解		託児								
	学校・家庭・地域の協働した取組例												
		水泳学習監視(7月12日)				クラブ活動講師(10月4日)				家庭科学習支援(9月26日)			
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)													
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)													
27名の方にボランティア登録をしていただき、3学年以上の8学級の水泳学習を支援していただきました。6～7月に、約90時間の計画でスタートしました。3学年以上の学級がクラスごと水泳学習を行うようになって3シーズン目ですが、大プールを1クラスずつ使えることのありがたみを再確認することができました。人とぶつからないように気にしながら学習したり混雑して困ったりすることなく、今シーズンも子どもたちは大プールを存分に使って水泳学習を行うことができました。教職員がプールに入って指導する場合も、プールサイドから監視していただくことで、子どもたちの安全を確認しながら学習することができました。													

学校の概要		学校名	岡谷市	立 湊小	学校	学校長	福永 佐枝子	児童生徒数	92 名				
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について													
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について								
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある					
		市町村教委		自治会代表		○		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)					
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○			公民館代表		PTA代表		○				
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○		学校長・教頭以外の学校職員		○					
湊コミュニティスクール運営委員会		[その他の委員]*具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外に在るか(それぞれの人数を記入)			地域コーディネーター 1 人					
名称		教育振興会理事長・理事 ボランティア団体代表						地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者) 人					
会議開催数(予定)		3 回		今年度開催日(予定)		5月24日(書面開催), 9月9日, 2月2日(予定)		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)					
								地域住民					
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)					
								学校評議員 あそぼう日コーディネーター					
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況													
学校教育目標		やさしい子 … 自己有用感を育む子 思いを聴く かしこい子 … 対話により学びを深める子 思いを聴き合う たくましい子 … 自己肯定感を育む子 思いを伝える											
地域と共有された育てたい子どもの姿		地域で学ぶ良さを実感し、あいさつを通して地域を元気にする学校(貢献しようとするひとづくり)											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況								
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○			1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○				
2 学校運営への必要な支援について		○											
3 地域の実情や課題について		○			2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○				
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○			3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○				
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○			4		協働活動に参加したボランティアの人数		60 人				
							ボランティア登録者人数		650 人				
							参加者延べ人数		650 人				
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り ○		読み聞かせ ○		児童会, 生徒会		クラブ, 部活動		給食		休み時間	
		清掃		ICT		学習ボランティア ○		総合的な学習の時間支援 ○		コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習	
		土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動 ○		子ども食堂(子どもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)	
		人権教育		国際理解		託児							
												新型コロナウイルス感染拡大防止のため現段階では未実施 今後、状況を鑑み実施予定	
		おはよう日(毎週水曜日)		湖の子集会補助(6月30日)								日々の授業支援	
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)													
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)													
【おはよう日】 毎週水曜日の子どもたちが登校する時間帯に、地域ボランティアの皆さんや保護者の皆さんが、通学路の要所におはよう日の旗を立て、あいさつを交わしながら子どもたちの登校の安全確保しながら見届けたり、子どもたちの列に加わって学校まで一緒に歩いてくださったりしている。 子どもたちはボランティアの皆さんに見守られたり、声をかけられたりすることで、安心して登校することができている。地域の皆さんや保護者の皆さんからは、子どもたちの明るいあいさつから元気もらえるとのことご意見をいただいております。地域活性化の一助ともなっている。見守る側と見守られる側、どちらの立場にとっても利する点があり、学校も含めた地域の教育力や活力の向上につながっている。													

学校の概要		学校名	岡谷市	立長地小	学校	校長	櫻井 洋	児童生徒数	512 名	
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について										
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある		
		市町村教委			自治会代表			○ ボランティアの団体がある(組織化されている)		
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○			公民館代表			○ ボランティアと学校の情報交換会がある		
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員			○ 学校長・教頭以外の学校職員			○ ボランティアの方を対象とした研修会がある		
名称	長地コミュニティスクール			[その他の委員]*具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 1 人	
							地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		人	
会議開催数(予定)	3	回	今年度開催日(予定)	5月18日(水)・8月24日(水):新型コロナウイルス感染予防対策のため中止 2月22日(水)			中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		地域住民	
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		放課後子ども教室コーディネーター・学校評議員		
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況										
学校教育目標	問いをもって学び合う長地の子									
地域と共有された育てたい子どもの姿	「自分が好きと言える長地の子」									
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況					
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○		1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○
2	学校運営への必要な支援について			○		2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○
3	地域の実情や課題について			○		3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○		4		協働活動に参加したボランティアの人数		30 人
5	教職員の任用に関する一般的な要望について			○		4		参加者延べ人数		400 人
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	給食	○	休み時間	○
	清掃		ICT		学習ボランティア	○	総合的な学習の時間支援	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習	○
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(子どもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)	遠足・登山	キャリア教育(職場体験を含む)	
	人権教育		国際理解		託児					
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)										
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)										
<p>「おさっちあ」:放課後こどもの居場所づくり事業として、岡谷市教育委員会が主催となり、地域の人々の参画を得て、学習やスポーツ、文化活動、地域住民との交流活動等を行う事業。年間11回の活動を計画しており、ものづくり(段ボール工作、リースづくり等)、岡谷東部中や岡谷南高校との交流などを行っている。おさっちあスタッフとして20名程の地域の方々が無償で、子どもたちの活動に指導・支援にあたり、見守ってくださっている。</p> <p>今年度は、243名(全校の約半数)の児童が「おさっちあ」に参加しているため、地域の方との交流や異学年同士の交流の場として、互いに顔見知りになり、仲良くなる事ができている。おさっちあスタッフの中には、学習ボランティアになってくださる方もおり、授業や行事の際に、児童が気軽に声をかける姿も多く見られる。</p>										

学校の概要		学校名	岡谷市	立上の原小	学校	学校長	金井 直樹	児童生徒数	178 名
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について									
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について				
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○	会議の委員構成			ボランティアのリストがある			
			市町村教委	○	自治会代表	○	ボランティアの団体がある(組織化されている)		
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)			公民館代表		PTA代表	○	ボランティアと学校の情報交換会がある		
			地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	○	学校長・教頭以外の学校職員	○	ボランティアの方を対象とした研修会がある		
名称	上の原コミュニティスクール運営委員会		[その他の委員]※具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)	地域コーディネーター	1	人
			・主任児童委員 ・区長 ・育成会長 ・ボランティア団体の代表者				地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		人
会議開催数(予定)	2	回	今年度開催日(予定)	・5月31日(火) ・2月17日(金)		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)	地域住民		
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)	学校評議員・主任児童委員		
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況									
学校教育目標	誠なる子 明なる子 健なる子 ～郷土を愛し、心豊かでたくましい子ども～								
地域と共有された育てたい子どもの姿	誠なる子……自分にも他人にも誠実な子。己を欺かない子。(みんななかよし) 明なる子……明晰・明察な子。勤勉な子。明朗な子。(すすんで学ぶ) 健なる子……健やかな心、健康な身体を持ち、実践力のある子。<心も身体も健やかに>								
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況				
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○	1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○	
2	学校運営への必要な支援について		○	2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○	
3	地域の実情や課題について		○	3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用できる部屋との兼用でも可)		○	
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○	4		協働活動に参加したボランティアの人数		70	人
5	教職員の任用に関する一般的な要望について			5		参加者延べ人数		30	人
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	給食	休み時間	
	清掃		ICT		学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	新型コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(こどもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)		遠足・登山	キャリア教育(職場体験を含む)
	人権教育		国際理解		託児				
学校・家庭・地域の協働した取組例									
	5年生米作り(脱穀)(10/4)		うえのはらっぱ(放課後子どもの居場所作り事業)(10/5)		ふれあい隊(毎日)				
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)									
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)									
例年子どもたちが楽しみにしている「うえのはらっぱ(放課後子どもの居場所作り事業)」は、新型コロナウイルス感染警戒レベルの上昇に伴い一時期活動を中止したが、10月以降再開した。感染防止のため、100人弱の参加希望児童を4つのグループに分け、活動場所を広く取り、体を動かす活動や工作、ポッチャなどに取り組んでいる。検温や体調のチェックなど、スタッフの皆さんは子どもたちの様子を常に気にかけてながら取り組んでくれている。そのおかげで、子どもたちは目を輝かせて参加し、月2回ほどの取り組みだが、毎回楽しみにしている。縦割りの活動の中で異年齢間の交流が生まれたり、地域の皆さんの温かさに触れ、教室とはまた違った表情や活躍を見せたりしている。スタッフの皆さんにとっても、子どもたちと関わる時間は楽しみであり、張り合いになっていると伝えてくれている。									


学校の概要		学校名	下諏訪町 立下諏訪南小 学校	学校長	田中 直紀	児童生徒数	579 名		
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について									
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○		会議の委員構成		ボランティアのリストがある			
		市町村教委		自治会代表		○ ○ ボランティアの団体がある(組織化されている)			
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○		公民館代表		○ ○ ボランティアと学校の情報交換会がある			
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		PTA代表		○ ○ ボランティアの方を対象とした研修会がある			
		○		学校長・教頭以外の学校職員		○			
名称	なぎがまコミュニティ・スクール			[その他の委員]※具体的な役職名を記入					
				学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)			地域コーディネーター 12 人 地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者) 18 人		
会議開催数(予定)	3	回	今年度開催日(予定)	運営委員会 4/27(ZOOM) 事務局会 9/28 運営委員会 3/8(予定)		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)	地域住民		
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)	元PTA役員		
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況									
学校教育目標	進んでかかわり、ともにやりぬく子ども								
地域と共有された育てたい子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> 主体的な学びづくり 協働的な学びづくり、対話的な学びづくり 失敗を恐れない、粘り強い追究 								
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況					
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○	
2	学校運営への必要な支援について			○	2	地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○	
3	地域の実情や課題について			○	3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)			
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	4	協働活動に参加したボランティアの人数			
5	教職員の任用に関する一般的な要望について					ボランティア登録者人数	88 人		
						参加者延べ人数	約200 人		
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食	休み時間
	清掃		ICT		学習ボランティア	総合的な学習の時間支援		コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(こどもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)		遠足・登山	○ キャリア教育(職場体験を含む)
	人権教育		国際理解		託児				
									
	クラブ活動・将棋(6/21~)		稲刈り・5年生(9/13)		遠足・1年生(10/14)				
代表的な協働した活動の取組例									
(上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)									
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)									
10月14日に行われた1年生の遠足には3名の「少年警察ボランティア」の方々に、交通安全面でサポートしていただいた。「少年警察ボランティア」の皆さんの他、「子ども見守り隊」「更生保護女性会」の皆さんには、毎日登下校時に交通量の多い交差点などに立っていただいたり、交通安全教室や秋のランニング大会でコースに出て、安全確保をしていただいたりしている。また、急な校外学習にも駆けつけていただいて、大変助かっている。これらの活動を通して、子どもたちも顔と名前を覚え、安心して話したり、地域で会ったときも声をかけたりしている。さらに通学路の危険箇所などについての情報をよせていただくこともあり、学校としての素早い対応にもつながっている。このように地域と学校・子どもたちを繋げる大きな役割を果たしている。									

学校の概要		学校名	下諏訪町 立 下諏訪北小 学校	学校長	坂本 真一	児童生徒数	234 名				
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組みについて											
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について							
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○		会議の委員構成		○ ボランティアのリストがある					
		市町村教委		○ 自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)					
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○		公民館代表		○ PTA代表					
		○		PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある					
		○		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○					
		○		学校長・教頭以外の学校職員		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある					
名称	ノース下諏訪ネットワーク			[その他の委員]※具体的な役職名を記入							
				学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)							
				地域コーディネーター		6 人					
				地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		0 人					
会議開催数(予定)	3	回	今年度開催日(予定)	令和4年5月6日 令和4年9月20日 (令和5年2月27日)		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)					
				具体的な役職(その他を選択した場合)は立場・役職を記入)		地域住民					
						元PTA役員					
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況											
学校教育目標	自ら考え 助け合って やり抜く子ども										
地域と共有された育てたい子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> 主体的に学び、公道できる子ども やさしく、たくましい子ども 意欲的に取り組み、がまん強く追究する子ども 身体を鍛え、命を大切に、ふるさとの自然・文化を受け継いでいく子ども 										
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況							
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。					
2	学校運営への必要な支援について			○							
3	地域の実情や課題について			○	2	地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。					
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用可能な部屋との兼用でも可)					
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				4	協働活動に参加したボランティアの人数					
						ボランティア登録者人数	30 人				
						参加者延べ人数	100 人				
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食		休み時間	
	清掃		ICT		学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習	○
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(子どもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)	○	遠足・登山	○	キャリア教育(職場体験を含む)	
	人権教育		国際理解		託児						
	学校・家庭・地域の協働した取組例								読み聞かせ(6月～11月)		登下校の見守りを願う会(見守りは毎日)
										寺子屋やしる(6～3月)	
代表的な協働した活動の取組例											
(上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)											
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)											
<p>・学区内各区の子どもの安全を見守る会の皆様、更生保護女性会、シルバーボランティア、少年警察ボランティアなど、多くの皆様が、各箇所立ち、ほぼ毎日児童の登下校の見守りをしてくださっている。1年間落ち着いて安全に登校ができるように、1年生が自立して歩行・横断できるように、各場面で指導していただき、気になる姿や、良い姿があったときにはお知らせいただいている。コロナ前には年度の初めに「見守りをしてくださる皆様へお願いする集会」、年度の終わりに「見守りをしてくださる皆様に感謝する集会」を行っていた。コロナでしばらくそうした会ができないでいたが、今年度は2年ぶりに来校していただき、児童と対面する形で会を行い、見守りをしてくださる皆様の存在を改めて意識できることができた。また、その会で来校された際に、日常の様子を伝えていただき情報共有した。学校が知らない児童の様子や危険箇所、緊急時の対応方法についての要望などを伝えていただき、児童の安全の確保(危機管理)の面でも大変役立っている。また、地域の方の顔を知ること、地域の方に挨拶すること、見守りに感謝の気持ちをもつことなど、地域の中で暮らす自分について意識を高める良い機会となっている。</p>											



学校の概要		学校名	諏訪市	立城南小	学校	校長	溝口 純永	児童生徒数	447 名																
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について																									
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について																				
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある																	
		市町村教委		自治会代表		○		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)																	
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○			公民館代表		PTA代表		○																
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○		学校長・教頭以外の学校職員		○																	
城南小学校コミュニティスクール運営委員会		[その他の委員]*具体的な役職名を記入			ボランティア代表		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 2 人																
名称							地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		人																
会議開催数(予定)		5 回		今年度開催日(予定)		5月9日 7月7日 10月5日 12月14日 3月17日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)																	
							地域住民																		
							具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)																		
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況																									
学校教育目標		ともそだち〜とも笑顔で学び合い、ともに受け止め、認め合い、ともに未来を見据えて創る子ども〜																							
地域と共有された育てたい子どもの姿		○SSS(スリーエス)「笑・しよう・SHOW」																							
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況																				
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○			1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○																
2 学校運営への必要な支援について		○			2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○																
3 地域の実情や課題について		○			3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○																
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○			4		協働活動に参加したボランティアの人数		50 人																
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○			4		参加者延べ人数		900 人																
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り		○		読み聞かせ		○		児童会、生徒会		クラブ、部活動		給食		○		休み時間		○					
		清掃		○		ICT		○		学習ボランティア		○		総合的な学習の時間支援		○		コロナウイルス対策の消毒・清掃		○		放課後教科・体験学習		○	
		土日・長期休業教科・体験学習		○		地域の伝統文化の継承に係る活動		○		子ども食堂(子どもカフェ)との連携		○		防災学習(避難訓練)		○		遠足・登山		○		キャリア教育(職場体験を含む)		○	
		人権教育		○		国際理解		○		託児		○													
				書写学習支援(R4.6.14)				あいさつ運動(R4.10.5)				城南ふれあい講座(R4.11.8)													
代表的な協働した活動の取組例																									
(上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)																									
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)																									
<p>・今年度より、新しい活動として、朝の「あいさつ運動」が始まった。「挨拶が少し苦手」と感じている城南小の子どもたちのため、5月から月に1回、子どもたちの登校に合わせ、ボランティアの方が挨拶の声掛けやちらし配りをしてくださっている。ボランティアさんの大きな声での挨拶に最初はびっくりした様子の子も多かったが、回数を重ねることで挨拶を通して地域の方との交流を楽しめるようになることに期待している。</p> <p>また、写真は、10月に行われた児童会主催の「あいさつ運動」の時のものである。城南小児童会が企画した世界の言葉で挨拶をする「ワールド挨拶」に、来年度施設分離型小中一貫学校になる諏訪中生徒会の生徒と、コミュニティスクールのボランティアがコラボして、昇降口前で朝の挨拶の声掛けを行った。様々な立場の者が集まって同じ活動をする、大変良い機会となった。</p> <p>こうした活動を続けることで、気持ちのよい挨拶ができるようになってほしいという地域の方の願いは子どもたちにも伝わっていくと思う。</p>																									

学校の概要		学校名	諏訪市立 上諏訪小 学校		学校長	矢島 作朗		児童生徒数	346 名						
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について															
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について									
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○				会議の委員構成				ボランティアのリストがある					
		市町村教委		自治会代表		○		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)							
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○				公民館代表		PTA代表		○					
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		学校長・教頭以外の学校職員		○		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある							
名称		上諏訪コミュニティ				[その他の委員]*具体的な役職名を記入				学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)					
		<ul style="list-style-type: none"> ・市社会教育委員 ・同窓会 ・元PTA会長 ・地元消防団 ・学識経験者 等 				地域コーディネーター		2		人					
会議開催数(予定)		3		回		今年度開催日(予定)				①4月28日(木) ②9月27日(火) ③3月1日(水)【予定】					
						中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)				学校職員(教頭及び教頭以外の職員)					
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)				諏訪市学習支援員					
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況															
学校教育目標		自らを拓き 未来を生きる													
地域と共有された育てたい子どもの姿		地域に生き、地域に育つ子どもたちを、健全にたくましく育てていく													
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況									
1		上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について				○		1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○			
2		学校運営への必要な支援について				○		2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○			
3		地域の実情や課題について				○		3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○			
4		子どもにどんな地域貢献ができるかについて				○		4		協働活動に参加したボランティアの人数		200 人			
5		教職員の任用に関する一般的な要望について				○		参加者延べ人数		700~800 人					
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り		○		読み聞かせ		○		児童会、生徒会		○			
		清掃				ICT				学習ボランティア		○			
		土日・長期休業教科・体験学習				地域の伝統文化の継承に係る活動				子ども食堂(子どもカフェ)との連携		○			
		人権教育				国際理解				託児					
		学校・家庭・地域の協働した取組例													
		かじの葉読み聞かせ(9月16日)		霧ヶ峰で竹ドームを作ろう(8月11日)		おやじ衆によるキャンプファイヤー設置(6月29日)									
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)															
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)															
○PTA活動と上諏訪コミュニティの協働で「上諏訪小御柱」を開催															
＜方法＞															
・PTA主催で「御柱」を開催することを決定。上諏訪コミュニティにも協力を呼びかけ、共に実行委員会を組織。															
＜支援いただいた内容＞															
・曳行の計画 ・柱や道具等の準備 ・子ども木遣隊の練習															
＜成果や効果＞															
・子どもや保護者から参加希望を募った結果、総勢400名以上の参加希望があり、11月23日(祝・水)に行うことになっている。															




学校の概要		学校名	諏訪市	立 四賀小	学校	学校長	赤羽 素乃	児童生徒数	312 名		
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について											
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について						
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある			
		市町村教委		自治会代表		○		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)			
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表			PTA代表		○		○ ボランティアと学校の情報交換会がある		
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○		学校長・教頭以外の学校職員		○		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある	
名称		四賀小学校コミュニティスクール運営委員会			[その他の委員]※具体的な役職名を記入 ・歴代PTA会長 ・スクールカウンセラー ・地域教育経験者 ・民生児童委員 ・ボランティア代表			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 2 人	
会議開催数(予定)		3 回		今年度開催日(予定)		5月18日(水) 9月7日(水) 2月15日(水)		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		地域住民	
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)			
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況											
学校教育目標		志高く 大きな心で 人のために									
地域と共有された育てたい子どもの姿		○学ぶ楽しさや乗り越える楽しさを見いだして生きる子 ○ねばり強くやり抜き、たくましく生きる子 ○心身ともに、清々しく生きる子									
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況						
1		上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○		1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○
2		学校運営への必要な支援について			○		2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○
3		地域の実情や課題について			○		3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○
4		子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○		4		協働活動に参加したボランティアの人数		○
5		教職員の任用に関する一般的な要望について			○		ボランティア登録者人数		80 人		○
						参加者延べ人数		約500 人			
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り		○		読み聞かせ		○		児童会、生徒会		○
	清掃				ICT		○		学習ボランティア		○
	土日・長期休業教科・体験学習				地域の伝統文化の継承に係る活動		○		子ども食堂(こどもカフェ)との連携		○
	人権教育				国際理解				託児		
									クラブ、部活動		○
								給食			
								休み時間			
								総合的な学習の時間支援		○	
								コロナウイルス対策の消毒・清掃		○	
								防災学習(避難訓練)		○	
								遠足・登山		○	
								キャリア教育(職場体験を含む)		○	
学校・家庭・地域の協働した取組例											
	歯科ボランティア講習会(6月17日)		読み聞かせ(7月5日)		1年遠足(10月18日)						
	代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)										
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)											
1年遠足 ・7名のボランティアさんに参加していただいた。歩く道中に話を咲かせながら、子どもたちの安全を見守っていただいた。 ・足長神社では建てられたばかりの「御柱」を見ながら、諏訪地区の御柱祭りについてお話をさせていただき、地域の学習を行うことができた。 ・流れ解散となったが、それぞれの地区の下校時の見守りも兼ねて、最後まで1年生との交流をしながら参加していただいた。 ・「とても楽しかった。かわいい1年生と一緒に歩いて良かった。」と感想を寄せてくださった。また、1年生も「いろいろなことを教えてくれて楽しかった。」と話しており、一緒に活動することの良さや地域の一員であることを共有することができた。地域に心を寄せる子どもたちの育ちにつながる活動であった。											

学校の概要		学校名	諏訪市 立 豊田小 学校	学校長	山崎章光	児童生徒数	333 名			
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について										
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について						
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○		会議の委員構成		○ ボランティアのリストがある				
				市町村教委		自治会代表				
				公民館代表		PTA代表				
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の学校職員				
				○		○				
				ボランティアと学校の情報交換会がある		ボランティアの方を対象とした研修会がある				
名称	チーム豊田運営委員会			[その他の委員]※具体的な役職名を記入		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)				
						地域コーディネーター	2 人			
					地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		人			
会議開催数(予定)	3	回	今年度開催日(予定)	第1回 4月18日 第2回 8月31日 第3回 1月26日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)				
					地域住民					
					具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)					
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況										
学校教育目標	よく学び よく遊び 心身ともに健やかな子ども									
地域と共有された育てたい子どもの姿	地域のこゝもの・人に触れ、その良さに気づき、地域を愛する子ども。									
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況						
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。	○		
2	学校運営への必要な支援について			○						
3	地域の実情や課題について			○	2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。	○		
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)	○		
5	教職員の任用に関する一般的な要望について			○	4		協働活動に参加したボランティアの人数	85 人		
						ボランティア登録者人数		350 人		
						参加者延べ人数				
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食	休み時間	
	清掃		ICT		学習ボランティア	○	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習
	土日・長期休業教科・体験学習	○	地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(子どもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山	キャリア教育(職場体験を含む)
	人権教育		国際理解		託児					
										
<p>市場で競りを見学(6月11日)希望者参加</p> <p>読み聞かせ(毎週木曜日)全クラス</p> <p>1年生見守り下校(入学式翌日から)</p>										
代表的な協働した活動の取組例										
(上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)										
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)										
<p>【内容】とよだっ子未来探検隊の発足日にサツマイモの苗植え(秋に収穫・焼き芋の予定)と諏訪市公設地方卸売市場の見学を行った。</p> <p>【場所】見学地:公設地方卸売市場(学校より徒歩5分)／サツマイモ植え:学校の畑(地域よりお借りしている)</p> <p>【メンバー】運営:とよだっ子未来探検隊(地域住民主催)・PTA・学校職員／参加者:参加を希望する児童・児童の家族</p> <p>【成果や効果】</p> <p>地域の児童と幅広い世代の大人と一緒に同じ活動に取り組むことができ「人に触れる」活動となっている。児童から見ると祖父母の世代が中心に運営を行っているが、父母世代の大人もこれを吸収し、次世代のCSIに関わっていく大人を育てることにもつながっている。児童は地域の大人と一緒に活動することで、慣れない作業や力のいる作業にも安心して取り組むことができる。また、地域の見学を通して地域を知り地域で働く人を知ることができる。一緒に取り組んだ喜びを大人と共有する体験を通して、地域を愛する子どもたちの姿が具現化される活動である。</p>										

学校の概要		学校名	諏訪市 立 中洲小 学校	学校長	村瀬 裕美	児童生徒数	623 名				
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について											
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について							
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		会議の委員構成		○ ボランティアのリストがある							
		市町村教委	○	自治会代表	○	○ ボランティアの団体がある(組織化されている)					
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表	○	PTA代表	○	ボランティアと学校の情報交換会がある					
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	○	学校長・教頭以外の学校職員	○	ボランティアの方を対象とした研修会がある					
名称	中洲小学校学校運営協議会			[その他の委員]*具体的な役職名を記入		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)					
				地区育成会長 同窓会長 地区老人クラブ代表 主任児童委員		地域コーディネーター	1 人				
会議開催数(予定)		4 回	今年度開催日(予定)	5月24日 8月22日 12月5日 2月7日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)	公民館職員(公民館長・公民館主事)				
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)					
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況											
学校教育目標	たくましく 心温かな中洲の子										
地域と共有された育てたい子どもの姿	ふるさと中洲に誇りと愛着を持つ子ども										
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況							
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。	○			
2	学校運営への必要な支援について			○							
3	地域の実情や課題について			○	2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。	○			
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)				
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				4		協働活動に参加したボランティアの人数	120 人			
							ボランティア登録者人数	870 人			
							参加者延べ人数				
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食	○	休み時間	
	清掃		ICT	○	学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習	
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(子どもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)	○	遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)	○
	人権教育	○	国際理解		託児						
学校・家庭・地域の協働した取組例											
		中洲クラブ(ものづくり部会)		地域学習(学習支援部会)		交通安全教室(安全教育部会)					
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)											
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)											
地域学習 2年生が生活科の学習で自分たちが住んでいるところにはどんなものがあるのか、どんなところなのか地域を知るために地域探検を行った。学習支援部会のボランティアの協力を得て、行く先々で見ただけでなく、説明を聞くことができた。 学校の近くにある中洲公民館や八立神社に行って、コミュニティ・スクールコーディネーターの先生から古御柱のことや公民館の使い方についてのお話を聞いた。また、神宮寺探検では、学習支援部会の方々から新しく建った御柱や上社、足湯、博物館を案内していただき、地域の中にある中心的な場所を訪れることができた。上社本宮の地元でありながら、コロナ禍で御柱祭に参加できなかった子どもが多い中で、改めてボランティアさんから説明をしていただきながら見学したことで、地元の伝統文化にふれ、自分たちが住んでいるところがどんなところなのか知ることができた。											

学校の概要		学校名	諏訪市	立 湖南小	学校	学校長	伊藤 靖徳	児童生徒数	276 名		
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について											
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について						
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある			
		市町村教委		自治会代表		○		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)			
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○		PTA代表		○		○ ボランティアと学校の情報交換会がある			
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○		○		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある			
名称	湖南小学校コミュニティスクール運営委員会			[その他の委員]*具体的な役職名を記入 ・学校支援ボランティア代表 ・主任児童委員 ・保護司・民生委員			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 2 人		
			地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)						人		
会議開催数(予定)	10	回	今年度開催日(予定)	4月8日、5月11日、6月9日、7月13日、10月14日、11月17日、12月22日、1月25日、2月22日、3月23日			中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		地域住民		
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)			
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況											
学校教育目標	湖南で学び、未来を創る子ども										
地域と共有された育てたい子どもの姿	①自分の力で課題に立ち向かう湖南の子 ②相手を認め大切にできる湖南の子 ③ふるさとを知り誇りに思う湖南の子										
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況						
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1			学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○	
2	学校運営への必要な支援について			○	2			地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。			
3	地域の実情や課題について				3			ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○	
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	4			協働活動に参加したボランティアの人数		115 人	
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				5			ボランティア登録者人数		70 人	
								参加者延べ人数			
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食	○	休み時間	
	清掃		ICT		学習ボランティア	○	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	○	放課後教科・体験学習
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(子どもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)	○	遠足・登山	○	キャリア教育(職場体験を含む)
	人権教育		国際理解		託児						
学校・家庭・地域の協働した取組例											
		活動名 挨拶運動(毎週水曜日)		活動名 美化作業(5/16)		活動名 5年田植え(5/18)					
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)											
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)											
田んぼボランティアの皆さんと湖南小学校5年生が米づくりを行った。田植えから稲刈り、脱穀など一連の活動を田んぼボランティアの皆さんに教えて頂きながら、お米を作ることができた。成果としては、体験と田んぼボランティアの皆さんの具体的なお話をお聞きすることで、田んぼや農業に興味を持って親しみが湧いてきた児童が多い。自分たちで作ったお米という思いが大きく持てるようになった。											

学校の概要		学校名	茅野市 立 永明小 学校			学校長	飯嶋 政泰		児童生徒数	542 名		
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について												
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について						
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○ 会議の委員構成				○ ボランティアのリストがある						
		市町村教委		自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)						
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表		PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある						
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		学校長・教頭以外の学校職員		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある						
名称	永明小学校運営協議会		[その他の委員]*具体的な役職名を記入 地域住民 前PTA役員				学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター		2 人	
							地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)				0 人	
会議開催数(予定)	6 回	今年度開催日(予定)	・4月14日 ・11月10日	・6月16日 ・1月26日	・9月1日 ・2月2日	中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		地域住民				
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		学校運営協議会理事				
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況												
学校教育目標	ともに拓く～なかよく・かしこく・たくましく～											
地域と共有された育てたい子どもの姿	<input type="checkbox"/> 豊かな学び、確かな学びを身につけ、のびのびと表現できるかしこく、はつらつとした子ども <input type="checkbox"/> やさしく思いやりがある、友となかよくできる子ども <input type="checkbox"/> はつらつとした心と元気な体で生活する豊かさたくましさをもった子ども											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況						
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について					○	1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。					○
2	学校運営への必要な支援について					○						
3	地域の実情や課題について					○	2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。					○
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて					○	3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)					○
5	教職員の任用に関する一般的な要望について					○	4 協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数	140 人		
								参加者延べ人数	320 人			
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	○	クラブ、部活動	○	給食		休み時間	
	清掃		ICT	○	学習ボランティア	○	総合的な学習の時間支援	○	コロナウィルス対策の消毒・清掃	○	放課後教科・体験学習	
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(こどもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山	○	キャリア教育(職場体験を含む)	
	人権教育	○	国際理解		託児							
	学校・家庭・地域の協働した取組例											
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)												
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)												
<p><内容>5年生のキャンプで飯ごう炊さんの火を自分たちでおこすお手伝いをしていただいた。</p> <p><場所>キャンプ場は茅野市の青少年自然の森にて</p> <p><誰と>永明小学校運営協議会 学校支援コーディネーターのYさん</p> <p><成果>子どもたちは自分たちが飯ごう炊さんで使用する火を、マッチなどを使わず、自分たちの力だけで灯すことができた。学校支援コーディネーターのYさんは5年生が低学年の頃から、様々な学校支援のなかでかかわってきており、火おこし体験も低学年の頃から何度も経験してきたので、火をおこすのに早いグループでは10分もしないうちに炎を灯すことができた。Yさんが子どものことをよく理解しており、子どもたちが使用しやすいように子どもサイズの自作の道具を子どもの人数分用意して下さっている。「Yさんが3年の時に教えてくれたからYさんのおかげで自分たちの力で火をおこすことができました。」と学校職員ではない地域のプロの方から本物を学ぶことができています。教職員もYさんをはじめ地域の方々からその道のプロの技だけでなく生き方も実感し地域の方との関わりを大切に幅広い学習を展開できています。</p>												

学校の概要		学校名	茅野市立米沢小学校	学校長	小口 政英	児童生徒数	223 名
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について							
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について			
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○		会議の委員構成		○ ボランティアのリストがある	
				市町村教委		○	
				自治会代表		○	
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○		公民館代表		○	
				PTA代表		○	
				地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○	
				学校長・教頭以外の学校職員		○	
米沢小コミュニティスクール委員会		○		[その他の委員]※具体的な役職名を記入		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)	
名称				民生児童委員協議会会長 育成会、学校評議員 ボランティア代表 保育園長		地域コーディネーター 2 人	
						地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者) 0 人	
会議開催数(予定)		6 回		今年度開催日(予定)		5月10日 6月15日 7月15日 9月1日(中止) 12月22日 2月7日 (計画は6回であったが、9月1日は感染症の状況により中止)	
						中心的なコーディネーターの立場(リストより選択) 地域住民	
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入) こども館運営委員会委員長	
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況							
学校教育目標		ひとりできる みんなとできる					
地域と共有された育てたい子どもの姿		○自ら考え判断し、進んで学習に取り組む子ども ○やさしく思いやりのある子ども ○めあてをもって最後までやりぬく子ども					
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況			
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○		1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○	
2 学校運営への必要な支援について		○		2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○	
3 地域の実情や課題について		○		3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○	
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○		4 協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 60 人 参加者延べ人数 300 人	
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○					
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り ○		読み聞かせ ○		児童会、生徒会	
		清掃		ICT		学習ボランティア ○	
		土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(こどもカフェ)との連携	
		人権教育		国際理解		託児	
		クラブ、部活動 ○		給食		休み時間	
		総合的な学習の時間支援 ○		コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習	
		防災学習(避難訓練)		遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)	
学校・家庭・地域の協働した取組例							
		読書ボランティア読み聞かせ(月1回) お話の部屋(10/25/27)		ふれあい教室(6/9,7/7・14,10/6・27,11/4)		縄文科学習(9/27,10/3,11/4)	
代表的な協働した活動の取組例							
(上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)							
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)							
読書ボランティアの方の読み聞かせを感染症対策を講じながら、毎月第3水曜日にすべての教室で読み聞かせを行っていただいていた。経験豊富なボランティアの方々が、読み聞かせや紙芝居、中には語りで行ってくださる方もいて、子どもたちは大変興味を持ってお話の世界に引き込まれ聴き入っている。ボランティアの方々の読み聞かせに触れることで本への関心を高めることができた。感染症警戒レベルが下がった秋の読書旬間では、ボランティアの皆さんが、お話の部屋を企画、準備してくださった。感染症対策のため学級の枠を超えて児童を集めるのではなく、各教室を訪問して読み聞かせを行っていただいた。語り、紙芝居、指人形劇など様々な工夫を凝らして企画して下さい、子どもたちは飽きること無くずっとお話に引き込まれていた。終わったあとに、楽しかった話について子ども同士で自然に話し始める姿も見られ、直接語りかけていただいたり、読み聞かせていただいたりしたことで、子どもたちの心に残るお話会となったと考えられる。							

学校の概要		学校名	茅野市 立北山小		学校	学校長	小口 かおり		児童生徒数	127 名					
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について															
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について									
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○				会議の委員構成				○		ボランティアのリストがある			
		市町村教委				自治会代表		○		○		ボランティアの団体がある(組織化されている)			
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○		公民館代表		○		PTA代表		○		○		ボランティアと学校の情報交換会がある	
		○		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○		学校長・教頭以外の学校職員		○		○		ボランティアの方を対象とした研修会がある	
名称		北山小コミュニティスクール運営委員会				[その他の委員]※具体的な役職名を記入				学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外に在るか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター		1 人	
						<ul style="list-style-type: none"> 北山地区コミュニティセンター所長 主任児童委員、民生児童委員 地域ボランティア代表 地区子ども館運営委員長 						地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		0 人	
会議開催数(予定)		4 回		今年度開催日(予定)		5月10日、6月24日、11月28日、2月16日				中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		地域住民			
										具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)					
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況															
学校教育目標		純朴にして たくましい子ども ～北山を愛し、北山に誇りを持つ子どもの育成～													
地域と共有された育てたい子どもの姿		地域に生まれ、地域と共に成長し、地域を愛することができる素直で豊かな心を持つ。 人に学ぶ・地域に学ぶ・自然に学ぶ ふるさと「北山」に学ぶ。 どんなことにも前向きに粘り強く取り組む。													
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況									
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○		1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。				○					
2 学校運営への必要な支援について		○		2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。				○					
3 地域の実情や課題について		○		3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)				○					
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○		4		協働活動に参加したボランティアの人数				32 人					
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○		5		参加者延べ人数				150 人					
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り ○		読み聞かせ ○		児童会、生徒会 ○		クラブ、部活動 ○		給食		休み時間			
		清掃		ICT		学習ボランティア ○		総合的な学習の時間支援 ○		コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習			
		土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動 ○		子ども食堂(子どもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む) ○			
		人権教育 ○		国際理解 ○		託児									
															
		春の遠足・学有林作業(5. 2)				伝統野菜「糸萱かぼちゃ」の種まき(5. 17)				地域の人から学ぶ国際理解(9. 6)					
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)															
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)															
<p>地域の伝統野菜である「糸萱かぼちゃ」の栽培に挑戦した。地域の「糸萱かぼちゃ保存会」の皆様から長野県諏訪農業農村支援センターを通じて取り組みへのお誘いがあり、4年生が取り組むことになった。栽培場所については、「湯川ひまわり会」という地域の農業団体に相談したところ、会員の方の畑を快く貸していただけることになった。児童たちは、各団体の皆様からの支援を受けながら土作りから始まり、畝づくり、種まきなど必要な作業を全て体験しながら、無事に収穫することができた。</p> <p>児童たちは地域の皆様がたくさん質問をしたり、話を聞いたりしながら活動に取り組むことができ、地域の自然環境や自然に関わる人々の姿、地域で大切にしている伝統を理解し、大切にしていきたいという願いを持つことができた。</p> <p>単年度の活動として終わらせてしまうのではなく、来年度以降も4学年の取り組み(総合的な学習の時間)として位置づけて、地域を知る・学ぶ活動の一環として取り組んでいく。</p>															




学校の概要		学校名	茅野市 立 湖東小 学校	学校長	植松 満幸	児童生徒数	215 名
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について							
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について			
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○		会議の委員構成		○ ボランティアのリストがある	
				市町村教委		○	
				自治会代表		○	
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○		公民館代表		○	
				PTA代表		○	
				地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○	
				学校長・教頭以外の学校職員		○	
湖東小コミュニティスクール運営委員会		[その他の委員]※具体的な役職名を記入		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外に在るか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 2 人	
名称		<ul style="list-style-type: none"> 主任児童委員 民生児童委員 読み聞かせボランティア代表 学校医 わくわく講座代表 		地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		0 人	
会議開催数(予定)		4 回		今年度開催日(予定)		令和4年5月16日(月) 令和4年10月6日(木) 令和4年11月28日(月) 令和5年2月16日(木)	
				中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		地域住民	
				具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		歴代PTA会長会会長	
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況							
学校教育目標		元気な子 考える子 やさしい子					
地域と共有された育てたい子どもの姿		「元気な子」・よく遊び、健康でたくましい子 ・すすんであいさつができる子 ・豊かに表現できる子(歌声・言葉) ・見通しをもって自主的に行動できる子 「考える子」・自分の考えをもち自分で判断できる子 ・思いや考えを伝え合い共に学び合う子 ・主体的に粘り強く取り組む子 ・地域の人とふれあい視野を広められる子 「やさしい子」・友達とよさや違いを認め合える子 ・自分も友達のことも大切にすること ・思いやりの心をもち相手に寄り添える子 ・よりよいものを求めようとする子					
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況			
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○		1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○	
2 学校運営への必要な支援について		○		2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○	
3 地域の実情や課題について		○		3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○	
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○		4 協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 66 人	
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○				参加者延べ人数 500 人	
地域学校協働活動の概要		○		読み聞かせ		○	
登下校の見守り		○		児童会、生徒会		○	
清掃		○		学習ボランティア		○	
土日・長期休業教科・体験学習		○		子ども食堂(子どもカフェ)との連携		○	
人権教育		○		託児		○	
ICT		○		クラブ、部活動		○	
地域の伝統文化の継承に係る活動		○		総合的な学習の時間支援		○	
国際理解		○		防災学習(避難訓練)		○	
給食		○		給食		○	
休み時間		○		遠足・登山		○	
放課後教科・体験学習		○		キャリア教育(職場体験を含む)		○	
学校・家庭・地域の協働した取組例							
わくわく講座・生け花(6/28 9/27 10/18 11/10)		湖東たまてばこ(読み聞かせ)(6/7 7/12 10/11等)		湖東コミュニティスクールの取り組み ・SNSを利用した情報の迅速な共有(写真は田植え:苗が不足したが、すぐに手配できた)			
代表的な協働した活動の取組例							
(上の写真の3つの取組の中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)							
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取組み、どのような成果や効果があったか)							
●湖東コミュニティスクールの取組み							
(1) SNSの活用							
5年で田植えをした際、苗が不足する事態となった。コミュニティスクールで開設しているLINEグループで呼びかけたところ、その日のうちに苗を田に持って来てくださった方がいて、大変ありがたかった。通学時の防犯ボランティアを募集したところ、参加して下さる方がすぐに見つかり、人数が増えた。							
(2) 投書箱「You Say ポスト」のお返事号に寄稿いただく方の幅が広がった。子ども達から寄せられた質問に対して、学校職員だけでなく保護者や地域の方など立場が異なる大人が回答することで、子どもも大人も多様な考えに触れることができるようになった。							




学校の概要		学校名	茅野市	立豊平小	学校	校長	宮坂 均	児童生徒数	211 名		
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について											
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について						
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある			
		市町村教委		自治会代表		○		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)			
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○			公民館代表		○		○ ボランティアと学校の情報交換会がある		
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○		PTA代表		○			
		○			学校長・教頭以外の学校職員		○		ボランティアの方を対象とした研修会がある		
名称		豊平コミュニティ・スクール			[その他の委員]*具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外に在るか(それぞれの人数を記入)			
					<ul style="list-style-type: none"> ・区長 ・育成会長 ・民生児童委員 ・歴代PTA役員 ・PTA担当職員 			地域コーディネーター	2 人		
								地域学校協働活動推進員(教育委員会委員の委嘱を受けた者)	0 人		
会議開催数(予定)		5	回	今年度開催日(予定)	4月22日(コロナ対応で中止)		6月21日(学校評議員会と合同開催)		9月9日(コロナ対応で中止)		
				12月14日	2月24日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		地域住民		
							具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		前コミュニティセンター所長		
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況											
学校教育目標		「よく考えて めあてをもってひとり歩きのできる子ども」 「こたわろう ふんばろう いたわりあおう ひびきあおう」									
地域と共有された育てたい子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> ・「ひと」「こと」「もの」から地域に学び、ふるさと豊平への誇りと愛着のもてる子ども ・自分のめあてに向けて粘り強く取り組み、のり越えていくたくましい子ども ・友達の話に耳を傾け、友達の気持ちに寄り添う心優しい子ども ・毎日、元気に登校し、進んであいさつする子ども 									
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況						
1		上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○		1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		
2		学校運営への必要な支援について			○		2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		
3		地域の実情や課題について			○		3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用可能な部屋との兼用でも可)		
4		子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○		4		協働活動に参加したボランティアの人数		
5		教職員の任用に関する一般的な要望について			○		ボランティア登録者人数		約100 人		
							参加者延べ人数		約200 人		
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食	休み時間	
		清掃	○	ICT	○	学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習	
		土日・長期休業教科・体験学習	○	地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(こどもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)	○	遠足・登山	○	キャリア教育(職場体験を含む)
		人権教育	○	国際理解	○	託児	○				
学校・家庭・地域の協働した取組例											
		将棋オオセロクラブ(7月5日)			オオムラサキの飼育活動(7月13日)			地域探検(10月20日)			
		代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)									
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)											
学校運営委員の環境部会部員の方に協力いただき、オオムラサキ(蝶)の飼育について教えていただいたり、通年を通して学校のオオムラサキ飼育小屋の中のオオムラサキの世話をさせていただいている。											
7月には、3年生にオオムラサキの生育について教室で教えていただいたり、実際に飼育小屋で実物を見て、今はどういう状態なのか、今後どのような世話をしていけばいいのかを教えていただいている。											
興味を持った3年生児童数名は、地域で行っているオオムラサキの観察会に出かけていくなど、興味関心の幅が広がっている。											
また、オオムラサキの成長を楽しみにし、様子を日々気にする姿が増えている。											

学校の概要		学校名	茅野市 立 玉川小 学校	学校長	小林 俊男	児童生徒数	686 名			
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について										
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について						
運営委員会(信州型コミュニティスクール)	○	会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある					
		市町村教委		自治会代表	○	○ ボランティアの団体がある(組織化されている)				
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表		PTA代表	○	○ ボランティアと学校の情報交換会がある				
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	○	学校長・教頭以外の学校職員	○	ボランティアの方を対象とした研修会がある				
名称	玉川小学校コミュニティスクール運営委員会	[その他の委員]*具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)	地域コーディネーター	2 人			
		地域住民、ボランティア代表、コミュニティセンター所長、保護司、主任児童委員、民生児童委員				地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		人		
会議開催数(予定)	3 回	今年度開催日(予定)	6月1日 1月13日 3月2日	中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)	その他					
				具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)	コミュニティセンター所長					
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況										
学校教育目標	今も未来もwell-beingを味わう子ども									
地域と共有された育てたい子どもの姿	(1)自己決定し、自分らしく学ぶ子ども (2)利他的に行動するやさしい子ども (3)困ったことを他と協働し乗り越えたい子ども									
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況						
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について	○	1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。	○					
2	学校運営への必要な支援について	○	2	地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。	○					
3	地域の実情や課題について	○	3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)	○					
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて	○	4	協働活動に参加したボランティアの人数	62 人	ボランティア登録者人数				
5	教職員の任用に関する一般的な要望について	○	4	参加者延べ人数	261 人	参加者延べ人数				
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	給食	○	休み時間	
	清掃		ICT		学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習	
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(こどもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)		遠足・登山	○	キャリア教育(職場体験を含む)
	人権教育		国際理解		託児					
	学校・家庭・地域の協働した取組例									
	読み聞かせ(ボランティア火・木/Zoom月・金)		米作り(5~11月)		キャッサバ栽培(4~2月)					
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)										
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)										
4年4部の総合的な学習の時間では、南米原産の植物キャッサバ栽培に取り組んでいる。昨年度も4年生の1クラスで取り組み、2年続けて、給食に野菜を提供する地域の「じゃがいもの会」の皆さんに協力していただいている。本年度は、肥料についての相談に乗っていただいたり、畝づくりや苗植えに3名の会員の方が来て指導してくださったり、虫の駆除に有機薬剤を噴霧してくださったりした。また、子どもたちが畑の草取りや水やりをする際、給食の食材を届けにこられた会員の方と会い、日常的に交流をしている。今後は、キャッサバを収穫し、販売をする計画を立てている。収益をどう生かすかは未定だが、募金等の案を検討中である。昨年度は、お世話になったじゃがいもの会の皆さんや栄養士の先生、玉川コミュニティ所長さん等をお招きし、お礼の会を開催した。会の中では、今までの過程を発表したり、タピオカドリンク等をつくって飲んだりした。今年度のお礼の会開催については、これからクラスで検討していく。キャッサバ栽培を通して、子どもたちは地域との交流や国際教育、食育など幅広い学びをしている。										

学校の概要		学校名	茅野市	立 泉野小	学校	学校長	下平 香代子	児童生徒数	95 名									
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について																		
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について													
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある										
					市町村教委		自治会代表		○									
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○			公民館代表		PTA代表		○									
					地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		学校長・教頭以外の学校職員		○									
名称		泉野小学校コミュニティスクール運営委員会			[その他の委員]※具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外に在るか(それぞれの人数を記入)										
					地区コミュニティセンター長 民生児童委員地区会長 主任児童委員 財産区議長 保護司 交通安全指導員			地域コーディネーター 1 人										
								地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者) 0 人										
会議開催数(予定)		4 回		今年度開催日(予定)		5月19日(木) 9月2日(金)・・・中止 11月22日(火) 2月1日(水)		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)										
								地域住民										
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)										
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況																		
学校教育目標		いずこにあっても泉野人(いずみのびと)として愛され信頼され尊敬される生涯学習者としての資質の基礎を養う ～スローガン： ひとりが輝く みんなで輝く～																
地域と共有された育てたい子どもの姿		(知)自分の考えをもち、伝え合い、共に学び合う子ども (体)運動に親しみ、健康な生活をおくることができる子ども (徳)友達とよさや違いを認め合い、相手を思いやり、進んであいさつする子ども (地域)に学ぶ泉野のひと・もの・ことを通して生き方を学び、ふるさと泉野を愛する子ども																
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況													
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○			1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○									
2 学校運営への必要な支援について		○			2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○									
3 地域の実情や課題について		○			3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○									
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○			4		協働活動に参加したボランティアの人数		30 人									
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○			5		参加者延べ人数		120 人									
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り		○	読み聞かせ		○	児童会、生徒会		クラブ、部活動	給食		休み時間					
		清掃			ICT			学習ボランティア		○	総合的な学習の時間支援		○	コロナウイルス対策の消毒・清掃		○		
		土日・長期休業教科・体験学習			地域の伝統文化の継承に係る活動		○	子ども食堂(子どもカフェ)との連携			防災学習(避難訓練)		遠足・登山		○	キャリア教育(職場体験を含む)		○
		人権教育		○	国際理解			託児										
学校・家庭・地域の協働した取組例																		
		見守り隊の方による防犯講話(7月15日)				槻木廻り舞台「秋の会」(10月1日)				読みか聞かせボランティア(毎月)								
		代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)																
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)																		
槻木廻り舞台「秋の会」について 廻り舞台実行委員会・地区コミュニティ運営協議会・ふる里づくり推進協議会・泉野地区区長会が主催し、泉野小学校・泉野保育園・槻木区の共催で行われた槻木廻り舞台「秋の会」。地域の方々の「廻り舞台で小学生に発表させてあげたい」との思いと、児童の「表現する場」や地域の方とのつながりを大事にしたいという学校側の願いを共有し、今年度は、3年ぶりに廻り舞台を会場に実施することができた。小学生の発表時間を長く設定したり、コロナ禍に応じた一般席の設置を考えたりするなど、小学生を中心に考えての実施となった。また、実行委員有志の方々がボランティアとして準備・運営に協力してくださったり、民謡の指導や伴奏づくり指導など、児童が関わられるような取り組みや指導をしてくださったりして、1～3年生にとっては初めての、4～6年生にとっては久しぶりの、廻り舞台での発表を行うことができた。 児童は、廻り舞台での発表に向けて、よりよい発表になるよう一人ひとりめあてをもち、発表原稿や必要な小道具などを作ったり、互いの発表を見合い、アドバイスし合ったりするなど、個々の課題解決に向けて、主体的に考え、活動し、追究することができた。																		

学校の概要		学校名	茅野市	立金沢小	学校	学校長	三澤 ゆり	児童生徒数	109 名	
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について										
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある		
		市町村教委		自治会代表		○		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)		
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○		PTA代表		○		○ ボランティアと学校の情報交換会がある		
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○		○		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある		
名称	金沢小学校コミュニティスクール運営協議会			[その他の委員]*具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 1 人	
				金沢地区体育協会会長 教育委員 民生主任児童委員 区長会長			地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		人	
会議開催数(予定)	5	回	今年度開催日(予定)	4月15日 8月31日(中止) 6月8日 12月14日(予定) 2月22日(予定)		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		地域住民		
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		全金沢地区運営協議会会長		
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況										
学校教育目標	深く豊かな心を持ち、自らやり向く子ども 重点目標 歌声の響く学校									
地域と共有された育てたい子どもの姿	1 自分を表現し、相手を思い、ともに高め合う子ども 2 自ら探求し、やり抜く子ども 3 金沢の良さを実感し、大切に、自らも地域に貢献し、地域に心を寄せる子ども									
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況					
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○		1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○
2	学校運営への必要な支援について			○		2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○
3	地域の実情や課題について			○		3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○		4		協働活動に参加したボランティアの人数		20 人
5	教職員の任用に関する一般的な要望について			○		4		参加者延べ人数		30 人
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食	休み時間	
	清掃		ICT		学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習	
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(子どもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)		遠足・登山	キャリア教育(職場体験を含む)	
	人権教育		国際理解		託児					
学校・家庭・地域の協働した取組例										
		1年生 七夕飾りづくり 7/5			5年生 稲作 5/20			6年生 縄文・市民科 7/11		
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)										
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)										
<p>・6年生縄文市民科の学習で川でつった魚の調理を支援していただいた。火おこしのやり方などについてもご指導いただき、いにしえの人々の暮らしにも思いを寄せることができた。</p> <p>・コロナ禍の厳しい状況のあいまを縫って、授業支援を中心に積極的に支援を進めていただいた。学校生活において様々な活動に制約がかかる中支援していただいたことで、教職員のボランティアの皆様との連携に対する感謝の気持ちなどが高まってきている。特に総合的な学習の時間や生活科の時間の活動などにおいて、地域とのつながりを大切に位置付けた学習も進められるようになってきている。</p>										

学校の概要		学校名	茅野市 立 宮川小 学校	学校長	古畑 祐二	児童生徒数	683 名				
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について											
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について							
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○		会議の委員構成		○ ボランティアのリストがある					
		市町村教委		自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)					
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○		公民館代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある					
		○		PTA代表		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある					
		○		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○					
		○		学校長・教頭以外の学校職員		○					
名称	宮川小学校コミュニティスクール			[その他の委員]※具体的な役職名を記入							
				民生児童委員							
				学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 1 人					
						地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者) 0 人					
会議開催数(予定)	5	回	今年度開催日(予定)	4/28 7/11 11/30 12/14 2/24	中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		地域住民				
				具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		民生児童委員					
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況											
学校教育目標		きたえよう自分を！はぐくもう豊かな心と友情を！ 1人ひとりのちがいが輝く宮川小学校「協働・創造・寛容」									
地域と共有された育てたい子どもの姿		「元気よくあいさつができる宮川の子」 ・1人ひとりの個性が輝く ・1人ひとりが未来に夢をもてる ・地域に愛情をもてる									
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況							
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。	○			
2	学校運営への必要な支援について			○	2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。	○			
3	地域の実情や課題について			○	3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)	○			
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	4		協働活動に参加したボランティアの人数	70 人			
5	教職員の任用に関する一般的な要望について			○	4		参加者延べ人数	30 人			
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食	○	休み時間	○
	清掃	○	ICT	○	学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	○	放課後教科・体験学習	○
	土日・長期休業教科・体験学習	○	地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(子どもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)	○	遠足・登山	○	キャリア教育(職場体験を含む)	○
	人権教育	○	国際理解	○	託児		○		○		○
	学校・家庭・地域の協働した取組例										
			おはなしプレゼント(7/1)			5年米づくり(5/23～10/1)			宮川ドリームゼミ(10/28)		
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)											
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)											
「宮川ドリームゼミ」(創立150周年記念事業の一環) ・地域にある事業所等の協力を得て、校内において子どもたちの体験学習「宮川ドリームゼミ」を実施した。 ・協力いただいた事業所等は、消防署・トレーニングジム・銀行・ギター工房・建築会社・精密加工業等で33業種であった。 ・各講座(各業種)の講師の方から専門的な知識や技術を教えていただいたり実際に体験をしたりして、「働く楽しさ」「働きたい」を伝えていただいた。 ・子どもたちにとっては、将来への夢や希望を抱く一助となる取り組みとなった。											




学校の概要		学校名	原村	立原小	学校	学校長	今井 志保	児童生徒数	416 名									
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について																		
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について													
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある										
		市町村教委		自治会代表		○		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)										
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○			公民館代表		PTA代表		○									
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○		学校長・教頭以外の学校職員		○										
学校応援団		[その他の委員]*具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター		1 人									
名称							地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		0 人									
会議開催数(予定)		6	回	今年度開催日(予定)		5月31日(火)、7月1日(金)、10月27日(木)、11月29日(火)、1月24日(火)、1月26日(木)		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)										
							地域住民											
							具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)											
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況																		
学校教育目標		原小の3心「自主の心(かしこい子)、友愛の心(やさしい子)、けやきの心(たくましい子)」																
地域と共有された育てたい子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> ・自主の心(引き出そう! 学びに向かう力) ・友愛の心(つながろう! 交流の輪) ・けやきの心(みがこう! 心技体) 																
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況													
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○			1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○									
2 学校運営への必要な支援について		○			2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○									
3 地域の実情や課題について		○			3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○									
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○			4		協働活動に参加したボランティアの人数		100 人									
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○			5		ボランティア登録者人数		60 人									
							参加者延べ人数											
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り		○	読み聞かせ		○	児童会、生徒会		クラブ、部活動	○	給食		○	休み時間			
		清掃			ICT		○	学習ボランティア		○	総合的な学習の時間支援		○	コロナウイルス対策の消毒・清掃		○	放課後教科・体験学習	
		土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		○	子ども食堂(子どもカフェ)との連携		○	防災学習(避難訓練)		○	遠足・登山		○	キャリア教育(職場体験を含む)		
		人権教育		国際理解			託児											
																		
		学習ボランティアによる活動支援(随時)		クラブ活動への学習支援(5月～10月)		読み聞かせによる読書活動支援(通年)												
代表的な協働した活動の取組例																		
(上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)																		
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)																		
<ul style="list-style-type: none"> ・学習ボランティアによる支援は、算数や家庭科の授業で、個別対応が必要な児童に学習支援をしていただいている。また、5年生の「米づくり」の活動では、地域コーディネーターの方に、田植えから精米までの一連の行程について助言していただきながら、担任と一緒に米作りの指導をしていただいている。 ・クラブ活動への支援は、本年度は合計6回のクラブ活動を実施。開設した11クラブ中、図工、フェルト、囲碁・将棋、ハーブ菓草の4クラブにおいて地域講師の方から学習支援をしていただいている。地域講師の方には、子どもの実態に応じた活動を準備していただき、楽しく活動を支えていただいている。 ・読み聞かせによる読書活動支援は、地域ボランティア「カントリーマム」の方による本の読み聞かせを、5月から毎月1回ずつ計11回実施(本年度は、コロナ禍で1回中止)。学校担当とカントリーマム代表の方とで連絡を取り合っており、ボランティアの方が交代で来校し、毎回全学年級に1人ずつ入って朝の読み聞かせをしてくださっている。 																		

学校の概要		学校名	富士見町	立本郷小	学校	学校長	井口 博司	児童生徒数	178 名		
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について											
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について						
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○ 会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある						
		市町村教委		自治会代表			○ ボランティアの団体がある(組織化されている)				
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表		PTA代表			○ ボランティアと学校の情報交換会がある				
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の学校職員			ボランティアの方を対象とした研修会がある				
名称	あみがさラボ運営委員会		[その他の委員]*具体的な役職名を記入 学校評議員が兼任している			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター	1 人		
								地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)	1 人		
会議開催数(予定)	3	回	今年度開催日(予定)	5月27日 11月16日 2月15日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		社会福祉協議会職員			
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)					
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況											
学校教育目標	よく学び よく遊ぶ つよい子										
地域と共有された育てたい子どもの姿	○人とのつながりを大切にできる子ども ○あいさつのできる子ども ○他喜力あふれる子ども										
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況						
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。					
2	学校運営への必要な支援について			○							
3	地域の実情や課題について			○	2	地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。					
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)					
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				4	協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数	24 人		
								参加者延べ人数	38 人		
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食	休み時間		
	清掃		ICT		学習ボランティア	○	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習	
	土日・長期休業教科・体験学習	○	地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(子どもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山	○	キャリア教育(職場体験を含む)
	人権教育		国際理解		託児						
学校・家庭・地域の協働した取組例											
	立場川を美しくする会下見(7月2日)		九九の聞きとり(10月14日～21日)		クラブ活動(6月16日～10月27日)						
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)											
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)											
2年生算数「九九の聞きとり」 九九を覚えてきた2年生が、ドリルタイムの時間(15分間)に来校していただいた地域の方に九九を唱えて聞いてもらった。「九九認定証」を担当が用意し、1のだから9のだから「スラスラ」「20秒以内」「15秒以内」を順に唱えるのと逆から唱えるのをそれぞれクリアしたらサインを書いてもらうようになっていた。子ども達は覚えてきた九九を地域の方に聞いてもらい、クリアしてはサインを書いてもらっていた。毎回5名ほど来校していただいたため、子ども達も聞いてもらうために長い時間並んで待つこともなく、いろんな方に聞いていただくことで意欲が増し、九九の定着に大きな効果が見られた。また、地域の方も子ども達を褒めてくださり、子ども達はそれが励みになりさらに意欲的に覚えようとしていた。											

学校の概要		学校名	富士見町立 境小 学校		校長	藤森 斉		児童生徒数	109 名				
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について													
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について							
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○ 会議の委員構成				○ ボランティアのリストがある							
		市町村教委		○ 自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)							
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表		○ PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある							
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の学校職員		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある							
名称		押立ふれあい協会の会				[その他の委員]*具体的な役職名を記入		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 3 人			
						・地域住民 ・学区内保育園長 ・学区区内福祉施設長 ・同窓会長		地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		0 人			
会議開催数(予定)		3 回		今年度開催日(予定)		5月25日(水) 7月13日(水) 2月15日(水)		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		地域住民			
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)							
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況													
学校教育目標		「学び合ってみんなと生きる未来を創造しよう」 問いをもつ 友と粘り強く追究する 感謝する											
地域と共有された育てたい子どもの姿		問いをもつ ①事象や対象に自分なりの疑問や課題意識をもつ姿 友と粘り強く追究する ②友達と理由や根拠をもとに説明し合い、粘り強く追究していく姿 感謝する ③相手を敬ったり感謝したりして心通わせる姿。											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況							
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○		1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。				○			
2 学校運営への必要な支援について		○		2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。				○			
3 地域の実情や課題について		○		3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)				○			
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○		4		協働活動に参加したボランティアの人数				ボランティア登録者人数 50 人			
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○		5		参加者延べ人数				25 人			
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り ○		読み聞かせ ○		児童会、生徒会 ○		クラブ、部活動 ○		給食		休み時間	
		清掃		ICT		学習ボランティア		総合的な学習の時間支援 ○		コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習	
		土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動 ○		子ども食堂(子どもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山 ○		キャリア教育(職場体験を含む) ○	
		人権教育		国際理解		託児							
学校・家庭・地域の協働した取組例													
		押立ふれあい交流会(年7回)				縄文クラブ(年6回)				西岳登山(ガイド)			
		代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)											
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)													
【押立ふれあい交流会】 地域の方々にご来校いただき学校の様子を知ってもらうとともに、お話を聞かせていただいたり、子どもたちといっしょに活動(遊び・工作・伝統文化の継承など)したりしている。これらの活動を通して、地域のみなさんと児童相互に顔を覚え、ふれあう楽しさや温かさを感じるとともに、子どもたちが地域の方々やお年寄りのみなさんの知恵からいろいろなことを学べるようにしている。全学年が1回ずつ、以下のような内容で交流している。 3年(5月25日・水)ジャガイモ植え 6年(6月15日・水)ポッチャの体験 2年(6月29日・水)紙ひこうきづくり 1年(9月28日・水)コマづくり 4年(11月2日・水)マレットゴルフ 5年(11月30日・水)お正月飾り・お手玉づくり ・1月18日(水)に一年間の交流や見守り隊(登下校の見守り)の方々に感謝の気持ちを伝える会を計画している。													




学校の概要		学校名	富士見町	立 富士見小	学校	学校長	植松 航一郎	児童生徒数	418 名	
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について										
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある		
		市町村教委		自治会代表		○		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)		
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表			PTA代表			○		
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○		学校長・教頭以外の学校職員		○		
名称	富士見小学校運営委員会			[その他の委員]*具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 2 人	
				元PTA会長、元教員					地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者) 1 人	
会議開催数(予定)	3	回	今年度開催日(予定)	6月25日、11月22日、2月22日			中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		その他	
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		地域連携推進支援主事		
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況										
学校教育目標	ふ ふるさと・友を大切に育む子(協働性の育成) じ 自分を高める子(論理性の定着) み 未来へはばたく子(可能性の生成)									
地域と共有された育てたい子どもの姿	「ありがとう」を交わし合い、他者を思いやる子(→協働性) 「なぜならば」と根拠を確かにして、他者に説明する子(→論理性) 「それならば」と探究的な見方・考え方を活用した発展的追究に、期待感を膨らめる子(→可能性)									
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況					
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○		1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○
2	学校運営への必要な支援について			○						
3	地域の実情や課題について			○		2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○		3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		
5	教職員の任用に関する一般的な要望について			○		4		協働活動に参加したボランティアの人数		30 人
								ボランティア登録者人数		25 人
								参加者延べ人数		
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食	休み時間	
	清掃		ICT		学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習	
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(子どもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)		遠足・登山	キャリア教育(職場体験を含む)	○
	人権教育	○	国際理解		託児					
	学校・家庭・地域の協働した取組例									
		米作り(5月～10月)		カゴメとのひまわりプロジェクト(5月～2月)		ゆめ広場プロジェクト(9月21日)				
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)										
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)										
<p>・5年1部では「豊かな富士見小学校のさとやま」を年間通しての総合的な学習の時間テーマとして活動に取り組んできています。児童が富士見小の森で遊ぶ中から、休日や帰宅後に利用している「ゆめひろば富士見」について関心を持った。令和2年度の6年生が取り組んでいた「みんなが楽しめるゆめひろば富士見にしよう」の思いを引き継ぎ「ゆめひろば富士見プロジェクト」を立ち上げた。まずは、実際にゆめひろば富士見にクラスみんなで行き、思う存分楽しんだ。その後、役場からゆめひろば富士見の企画から携わった職員を招き、ゆめひろば富士見のコンセプトの話を聞いた。ひろばの形状が「すり鉢状」になっているのは「多様な遊びを想像して欲しい」というねがいを聞き、子どもたちは改めてその価値に気づいていった。現在管理をしている生涯学習課スポーツ係と一緒に大規模なゆめひろば富士見アンケートの実施に向けて協働的に活動に取り組んできています。</p> <p>・アンケートの結果を統計的に処理するために専門家の意見を聞くなど、教科等横断的な学びに取り組みながら、最終的には、行政のトップである町長へ提言することで、子どもが社会参画していく学びへと深めていきたいと、取組を進めている。</p>										

学校の概要		学校名	岡谷市 立 岡谷西部中 学校		学校長	松澤 和憲		児童生徒数	170 名				
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について													
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について							
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○ 会議の委員構成				○ ボランティアのリストがある							
		市町村教委		自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)							
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表		PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある							
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		学校長・教頭以外の学校職員		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある							
名称		川岸コミュニティスクール				[その他の委員]※具体的な役職名を記入		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 1 人			
		ボランティア代表						地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		0 人			
会議開催数(予定)		2 回		今年度開催日(予定)		5月17日(運営委員会) 9月1日(安全部会)		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		学校職員(教頭及び教頭以外の職員)			
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		教務主任(地域連携係)					
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況													
学校教育目標		自立を育み 共に生きる 自立 自他を大事に、自ら考え、判断し、責任をもって行動する生徒 共生 多様性を認め合い、他者の考えに学び、自分の考えを広げたり、深めたりする生徒											
地域と共有された育てたい子どもの姿		・川岸の地域を愛し、地域を誇りに思うことができる子、元気にあいさつができ、どんなことにも意欲的に取り組むことができる子、自分に自信を持ち、相手のことも思いやれる優しい子 ・「地域」を素材とした探究的な活動の実践											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況							
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○				1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○					
2 学校運営への必要な支援について		○											
3 地域の実情や課題について		○				2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○					
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて						3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)							
5 教職員の任用に関する一般的な要望について						4 協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 64 人		参加者延べ人数 1010 人			
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り ○		読み聞かせ		児童会、生徒会 ○		クラブ、部活動		給食		休み時間	
		清掃 ○		ICT		学習ボランティア		総合的な学習の時間支援 ○		コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習	
		土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(こどもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む) ○	
		人権教育		国際理解		託児							
		学校・家庭・地域の協働した取組例											
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)													
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)													
<ul style="list-style-type: none"> ・ツツジのご指導は何年も継続されていて、だんだんと挿し木が上手になったり、教えていただきたい内容にも広がりが出てきた。 ・夏休みの職員地域研修は2年目となった。御柱の年ということで地域の社を訪ねた。昨年度の生徒の清掃活動時にお話をしてくださった方に依頼し、職員向けに講話をお願いした。普段は見ることのできない内部まで拝観し、説明をいただき、職員が「知る」楽しみを実体験できた。 ・全般に、昨年度よりも授業等に関して地域の方に「お願い」することが増えていて、つながりができてきたおかげだと考えられる。普段、校内に勤めているだけでは気づけないことがたくさんあるとわかりかけているところである。今後、更に職員が実際に地域のひと・もの・こととつながることで、教材化のヒントを得たり、広がりが生まれやすくなる可能性を感じた。特に「ひと」と出会うことは大きな力になる。 													

学校の概要		学校名	岡谷市	立岡谷北部中	学校	校長	牛山 高彦	児童生徒数	328 名	
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について										
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○			会議の委員構成			ボランティアのリストがある		
		市町村教委		自治会代表		○		ボランティアの団体がある(組織化されている)		
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表			PTA代表			○		ボランティアと学校の情報交換会がある
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		学校長・教頭以外の学校職員			○		ボランティアの方を対象とした研修会がある	
名称	健康でさわやかな北中生を育てる地域の会			[その他の委員]*具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 1 人	
							地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者) 0 人			
会議開催数(予定)	3	回	今年度開催日(予定)	5月30日(月) 10月18日(火) 2月3日(金)			中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		その他	
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		旧PTA役員		
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況										
学校教育目標	校是 自主・和敬 思いやりをもって友と協働する生徒 自己決定する生徒 向上心をもって取り組む生徒									
地域と共有された育てたい子どもの姿	仲間の個性、立場を大切に心合わせて取り組む生徒 課題に気づき、自ら決定し進んで実現しようとする生徒 自ら目標をもち、実現に努力する生徒									
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況					
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○		1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○
2	学校運営への必要な支援について			○						
3	地域の実情や課題について			○		2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○		3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		
5	教職員の任用に関する一般的な要望について			○		4		協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 0 人 参加者延べ人数 30 人
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	読み聞かせ	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食	休み時間			
	清掃	ICT	学習ボランティア	総合的な学習の時間支援		コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習	○		
	土日・長期休業教科・体験学習	地域の伝統文化の継承に係る活動	子ども食堂(子どもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)	○	遠足・登山	キャリア教育(職場体験を含む)	○		
	人権教育	国際理解	託児							
	学校・家庭・地域の協働した取組例									
		楽器に触れよう講座(6/24)		防災・減災講座(9/9)		公園緑地計画講座(7/25)				
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)										
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)										
総合的な学習の時間の一部を使って、全校一斉の講座制を行った。生徒が、自分の興味・関心に沿ってテーマを決め、地域に関わる内容や地域の方を講師に迎えての学習を行った。楽器に触れよう講座では講師の指導を受けてボディパーカッションで合奏を行ったり、塩ビパイプを作ってフルート状の笛を製作して演奏したりした。御諏訪太鼓講座では地域に伝わる御諏訪太鼓の会の方を講師に迎え、演奏方法や動きについて指導していただいた。防災・減災講座では岡谷市の危機管理室の方を講師に迎え、防災・減災に関わる岡谷市の取り組みについて現地視察を交えてお話していただいた。公園緑地計画講座では、岡谷市の土木課の方を迎えて、市内の公園や緑地が多くの方が訪れたいものになるように考え、模型をつかってアイデアを具現化していった。生徒それぞれが興味を持ったテーマについて学習に取り組んだことから、意欲的に活動に取り組む姿が多く見られ、生徒たちが工夫しながら学習を進めることができた。										

学校の概要		学校名	岡谷市 立 岡谷南部中 学校		学校長	守屋 守		児童生徒数	228 名			
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について												
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について						
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○		会議の委員構成				○ ボランティアのリストがある				
				市町村教委		自治会代表		○		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)		
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)				公民館代表		PTA代表		○		○ ボランティアと学校の情報交換会がある		
				地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○		○		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある		
名称	岡谷南部中学校コミュニティスクール運営委員会			[その他の委員]※具体的な役職名を記入				学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター	1 人	
				地域の民生児童委員代表 ボランティア代表 地域の保護司代表						地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)	0 人	
会議開催数(予定)	3	回	今年度開催日(予定)	5/24(火) 11/11(金) 2/13(月)				中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		地域住民		
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		民生児童委員		
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況												
学校教育目標	一人ひとりが誠実を貫く											
地域と共有された育てたい子どもの姿	①姿で示す積極的な地域貢献 ②「三つの姿」(あいさつ、歌声、清掃)を意識した生徒会活動の充実											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況						
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○		1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。				○
2	学校運営への必要な支援について			○		2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。				○
3	地域の実情や課題について			○		3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋でも可)				○
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○		4		協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数	120 人	
5	教職員の任用に関する一般的な要望について			○		5				参加者延べ人数	180 人	
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	○	クラブ、部活動	○	給食		休み時間	
	清掃	○	ICT		学習ボランティア		総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習	
	土日・長期休業教科・体験学習	○	地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(こどもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)	○	遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)	
	人権教育		国際理解		託児							
	学校・家庭・地域の協働した取組例											
	予備登山(7月7日)			岡谷太鼓(9月29日)			強歩大会(10月25日)					
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)												
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)												
2学年の総合的な学習の時間に「平成18年豪雨災害」を教訓とした防災学習を行っている。6月に豪雨災害当時区長だった小口廣明さん(現学校支援コーディネーター)にご来校いただき、豪雨災害当時の地域の様子や中学生など人々の活動についてお話を聞いた。7月7日の八ヶ岳登山に向けた予備登山では、小口さんにご同行いただき、学校のウラにある「西山」の災害現場に行った。砂防堰堤などで当時のお話を小口さんから聞いた生徒は、改めて日頃から災害に備えておくこと、中学生としての地域への貢献について考えることができた。												

学校の概要		学校名	岡谷市 立 岡谷東部中 学校		学校長	山田 典史		児童生徒数	473 名											
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について																				
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について														
運営委員会(信州型コミュニティスクール)			○			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある											
			市町村教委			自治会代表			○ ○ ボランティアの団体がある(組織化されている)											
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)			○			公民館代表			PTA代表			○ ボランティアと学校の情報交換会がある								
			地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員			○			学校長・教頭以外の学校職員			○ ボランティアの方を対象とした研修会がある								
名称	岡谷東部中学校学校運営委員会					[その他の委員]※具体的な役職名を記入					学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター		7 人					
						・スポーツ少年団常任委員 ・少年警察ボランティア							地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		0 人					
会議開催数(予定)	3		今年度開催日(予定)	・6月22日(水)、10月26日(水)、2月22日(水)					中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		その他									
									具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		元PTA会長									
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況																				
学校教育目標	未来を拓き、共に自立する生徒																			
地域と共有された育てたい子どもの姿	地域の方と関わり、ふるさと岡谷の良さを再発見し、将来の自分を見つめる																			
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況														
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について					○					1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。							
2	学校運営への必要な支援について					○														
3	地域の実情や課題について					○					2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。							
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて										3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)							
5	教職員の任用に関する一般的な要望について										4		4		協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数		50 人	
															参加者延べ人数		40 人			
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り		○		読み聞かせ		児童会、生徒会		クラブ、部活動		給食		休み時間							
	清掃		○		ICT		学習ボランティア		総合的な学習の時間支援		○		新型コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習		○			
	土日・長期休業教科・体験学習		○		地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(こどもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		○		遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)		○			
	人権教育				国際理解		託児													
学校・家庭・地域の協働した取組例																				
		横河川清掃(7月26日)				子ども未来塾(5月～10月)				職場体験学習(7月20日、21日)										
代表的な協働した活動の取組例																				
(上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)																				
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)																				
・未来塾では、中学2年生を対象に苦手教科の克服、学習意欲の向上、家庭学習の定着を目的とした補充的な教科学習を行っている。地域の方が講師となり、部活動のない水曜日の放課後、ICTを活用した学習支援を、5月から10月にかけて、全6回(数学3回、英語3回)、夏休み期間中に全4回(数英どちらでも)1回の時間を90分で実施している。参加生徒については、希望者で毎回10～20名ほど参加して取り組んでいる。講師の先生方が、毎回4～5名ほどで対応していただけるため、個別に丁寧にご指導いただくことができ、生徒たちの満足度も高い。また、1年生の復習から現在学習している単元まで幅広く学習できるため、自分の課題に向けて意欲的に取り組むことができている。																				

学校の概要		学校名	下諏訪町	立	下諏訪中	学校	学校長	中澤 隆一	児童生徒数	309 名					
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について															
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について									
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○				会議の委員構成			○		ボランティアのリストがある				
		市町村教委		○		自治会代表		○		○	ボランティアの団体がある(組織化されている)				
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)						公民館代表		○		PTA代表		○		ボランティアと学校の情報交換会がある	
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○		学校長・教頭以外の学校職員		○				ボランティアの方を対象とした研修会がある			
名称		なぎがまCS		【その他の委員】※具体的な役職名を記入				学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター		15 人			
				人権擁護委員、少年警察ボランティア、民生児童委員、青少年健全育成会長						地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		0 人			
会議開催数(予定)		3 回		今年度開催日(予定)		・第1回:4月27日(水) ・第2回:9月28日(水) ・第3回:3月に実施の予定				中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		地域住民			
										具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		元下諏訪南小学校PTA会長			
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況															
学校教育目標		なぎがま精神・開拓精神													
地域と共有された育てたい子どもの姿		・目標・課題を定め、よりよいものを目指して粘り強く探求する生徒 ・他を思いやり、「誰かのために」自分を生かそうとする生徒													
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況									
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○		1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。			○						
2 学校運営への必要な支援について		○		2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。			○						
3 地域の実情や課題について		○		3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)			○						
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○		4		協働活動に参加したボランティアの人数			ボランティア登録者人数 30 人						
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○		5		参加者延べ人数			25 人						
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り		読み聞かせ		○		児童会、生徒会		クラブ、部活動		給食		休み時間	
		清掃		ICT		○		学習ボランティア		総合的な学習の時間支援		コロナウィルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習	
		土日・長期休業教科・体験学習		○		地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(こどもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)	
		人権教育		国際理解		託児									
学校・家庭・地域の協働した取組例															
		諏訪湖清掃(5月29日)			読み聞かせ(6月8日)			学習ボランティア(11月予定・写真はR3)							
代表的な協働した活動の取組例															
(上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)															
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)															
○ 諏訪湖ロータリークラブの皆さんから、3年ぶりにお声がけがあり、諏訪湖清掃を実施することができた。3年生の有志20余名が自主的に参加し、諏訪湖畔のゴミ拾いを行った。当日は早朝から、赤彦記念館より諏訪市方面に歩きゴミ拾いを行った。生徒たちは、環境美化に努めることへの関心を高めるとともに、地域のボランティア団体の姿から、地域に貢献することの大切さを感じることができた。															

学校の概要		学校名	下諏訪町	立 下諏訪社中	学校	学校長	若林 和仁	児童生徒数	153 名	
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について										
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある		
		市町村教委	○	自治会代表	○	ボランティアの団体がある(組織化されている)				
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表			PTA代表	○	○ ボランティアと学校の情報交換会がある			
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	○	学校長・教頭以外の学校職員	○	○ ボランティアの方を対象とした研修会がある				
名称	ノース下諏訪ネットワーク		[その他の委員]※具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター	6 人	
			地域ボランティア(町防災士、町読み聞かせボランティア)元PTA役員					地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)	0 人	
会議開催数(予定)	3	回	今年度開催日(予定)			令和4年5月6日、令和4年9月12日、令和5年2月27日		中心のコーディネーターの立場(リストより選択)		
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		地域住民		
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況										
学校教育目標	教育目標 「強く、賢く、頼もしく」 強く…心を、体を、関係を鍛える 賢く…学び、考え、判断する力を培う 頼もしく…自主自立、助け合いの精神を育む									
地域と共有された育てたい子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> ・夢・あこがれを抱き、チャレンジし続ける生徒の育成。 ・自分の考えを発信する力や共同して問題を解決する力の育成。 ・課題に真剣に取り組んだり地域活動に積極的に取組んだりする生徒の良さを伸ばす。 									
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況					
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。			○	
2	学校運営への必要な支援について			○	2	地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。			○	
3	地域の実情や課題について			○	3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)			○	
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	4	協働活動に参加したボランティアの人数			○	
5	教職員の任用に関する一般的な要望について			○	5	ボランティア登録者人数			29 人	
						参加者延べ人数			80 人	
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	○	クラブ、部活動	給食	休み時間	
	清掃		ICT		学習ボランティア	○	総合的な学習の時間支援	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習	
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(こどもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)	○	遠足・登山	キャリア教育(職場体験を含む)
	人権教育		国際理解		託児					
学校・家庭・地域の協働した取組例										
	よのなか科 金融教育(6月6日)		読み聞かせ(6月から12月まで月1回)		寺子屋やしろ(毎週水曜日放課後)					
代表的な協働した活動の取組例										
(上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)										
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)										
「よのなか科」とは、地域の課題、これからの生徒たちにとって大切な課題を取り上げ、専門的な立場から情報を提供していただき、自分の生き方について考える時間として毎年行っています。今年は、1学年防災学習、2学年薬物乱用防止教育、3学年金融教育を行いました。どの学年でも保護者が参加することができます。3年の金融教育では地域で消費生活アドバイザーをされている方が講師となって「一歩前進！賢い消費者への道」と題した講演会を行いました。身近な話題を取り上げながら様々なお金にまつわるトラブルを例にして考えを深めました。成人年齢が引き上げられた今、自分事として考える生徒が多く、家庭でも話題にすることができました。										

学校の概要		学校名	諏訪市 立 上諏訪中 学校	学校長	牛越 雅紀	児童生徒数	166 名		
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について									
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)	○	会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある				
		市町村教委		自治会代表		ボランティアの団体がある(組織化されている)			
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表		PTA代表	○	○ ボランティアと学校の情報交換会がある			
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	○	学校長・教頭以外の学校職員	○	ボランティアの方を対象とした研修会がある			
名称	上諏訪中学校学校運営委員会			[その他の委員]※具体的な役職名を記入		地域コーディネーター	1 人		
				同窓会長、同窓会役員、主任児童委員、読み聞かせの会代表、もと社会教育委員		地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)	人		
会議開催数(予定)	3	回	今年度開催日(予定)	5月27日、10月4日、2月20日	中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)	地域住民			
					具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)	主任児童員			
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況									
学校教育目標	自らを拓き 未来を生きる								
地域と共有された育てたい子どもの姿	生徒が地域の方々と共に学ぶ活動を推進し、自分のふるさとに誇りを抱き大切にしようとする心情を養う。さらに、そのことが上諏訪中学校区の地域の活性化につながることを目指す。								
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況					
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○		
2	学校運営への必要な支援について			○					
3	地域の実情や課題について			○	2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○		
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○		
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				4 協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 15 人 参加者延べ人数 70 人		
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食	休み時間	
	清掃	ICT		学習ボランティア	総合的な学習の時間支援		コロナウイルス対策の消毒・清掃	○	放課後教科・体験学習
	土日・長期休業教科・体験学習	地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(こどもカフェ)との連携	○	防災学習(避難訓練)			キャリア教育(職場体験を含む)
	人権教育	国際理解		託児					
	学校・家庭・地域の協働した取組例								
	子ども食堂でのボランティア(7/10他)		諏訪湖清掃(5/29,9/4)		ボランティアの方による読み聞かせ(毎月1回)				
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)									
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)									
この「子ども食堂」は、学区内のお寺を会場として月1回行われている。経緯は、現在本校の地域コーディネーターから声がかかり、本校の生徒へボランティアが呼びかけられ、3年前より参加している。仕事内容としては、子ども食堂の会場準備に始まり、来る方々の受付、屋台の運営、子どもの相手、お弁当などの配布など、多岐にわたる。大人の地域スタッフの皆さんに仕事を教わったり、同じくボランティア活動に参加している地域の短大生と共に働いたりすることを通して、人とつながる楽しさ、地域に貢献する喜びを味わっている。 初期の頃は、校友会(生徒会)の3年役員が中心となって参加していたが、ここ1年は、有志で参加する生徒が増えてきた。一度参加した生徒が他の生徒を誘ったり、小学校の頃は訪れる側だった生徒が、スタッフとして参加したりと、様々なつながりが生まれてきている。参加する生徒の姿を地域の方にも認めていただき、別の場面で温かなお声がけをいただいている。									

学校の概要		学校名	諏訪市	立	諏訪中	学校	学校長	根橋 ほなみ	児童生徒数	253 名			
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について													
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について							
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○				会議の委員構成							
		市町村教委		自治会代表		○		ボランティアのリストがある					
学校運営協議会(コミュニティスクール)		公民館代表		PTA代表		○		ボランティアの団体がある(組織化されている)					
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○		学校長・教頭以外の学校職員		○					
								ボランティアと学校の情報交換会がある					
諏訪中学校信州型CS運営委員会		[その他の委員]※具体的な役職名を記入						ボランティアの方を対象とした研修会がある					
名称		市社会教育委員 元PTA役員 ボランティア代表 地域住民				学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター		1 人			
								地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		人			
会議開催数(予定)		3	回	今年度開催日(予定)	5月20日 9月20日 2月28日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		その他				
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		保健福祉事務所			
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況													
学校教育目標		明るく、元気で、たのしい 人間性豊かな生徒の育成											
地域と共有された育てたい子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> ・地域で活躍する人材の育成 ・地域活動への積極的な参加 ・自己有用感が持てる地域貢献活動 											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況							
1		上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について				○		1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。	○		
2		学校運営への必要な支援について				○		2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。	○		
3		地域の実情や課題について				○		3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用できる部屋との兼用でも可)	○		
4		子どもにどんな地域貢献ができるかについて				○		4		協働活動に参加したボランティアの人数	○		
5		教職員の任用に関する一般的な要望について				○		33		ボランティア登録者人数	人		
								45		参加者延べ人数	人		
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り		読み聞かせ		○		児童会、生徒会		○			
		清掃		ICT		○		学習ボランティア		○			
		土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(こどもカフェ)との連携		総合的な学習の時間支援		○			
		人権教育		国際理解		託児		防災学習(避難訓練)		○			
								給食		休み時間			
								給食		放課後教科・体験学習			
								給食		キャリア教育(職場体験を含む)			
								給食					
学校・家庭・地域の協働した取組例													
		夏休み学習(期間中全5回)				花壇づくり(7月28日)				小学校と連携した読み聞かせボランティア(11月4日)			
		代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取組の中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)											
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取組み、どのような成果や効果があったか)													
○ 本年度第1回CS運営委員会において、委員より小中連携での読み聞かせボランティアや学習支援などを通して小中の交流ができないかと提案がありました。例年行っている学習支援部の方々の支援によって行われる夏休み学習会では、地元高校から高校3年生が学習支援に加わり、学区の小学校の夏休み学習会には中学生が小学生への学習支援として加わりました。また、本校では読み聞かせボランティア「Senの風」の皆さんによる読み聞かせを継続してきており、読み聞かせの楽しさを味わってきた図書委員会の生徒が同小学校で読み聞かせを実施しました。この際には「Senの風」の方に、年齢に応じた選書をしていただきました。来年度から施設分離型小中一貫校としてスタートするにあたり、これらの活動は今後の取組の核となる活動となりそうです。読み聞かせでは、小学生は目を輝かせてお話を聞いてくれて、生徒たちも「楽しんで聞いてくれてうれしかった」「もっと練習して、また読み聞かせをしたい」と感想を持ちました。 生徒にとって、ボランティアの方との関わりの中で、何かをしてもらうだけでなく、ボランティアの方々から学び、学んだことを実践に活かす活動へと発展することができました。ボランティアの皆さんには、今後も生徒と地域をつなげるための関わりをお願いしながら、中学生としてできる関わりを広がっていきたいと思います。													

学校の概要		学校名	諏訪市	立 諏訪西中	学校	学校長	宮尾 昭広	児童生徒数	306 名	
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について										
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○ 会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある					
		市町村教委		自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)				
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○ 公民館代表		○ PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある				
		○ 地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の学校職員		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある				
名称	諏訪西中学校コミュニティスクール運営委員会			[その他の委員]*具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター	2 人
				・安全協会代表 ・主任児童委員代表 ・同窓会長					地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)	人
会議開催数(予定)	3	回	今年度開催日(予定)	5/18(中止), 9/21, 2/13			中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		地域住民	
							具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)			
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況										
学校教育目標	社会の中で、私もみんなも「幸せ」になる									
地域と共有された育てたい子どもの姿	①自らできる ②見通しをもって計画的に行動する ③自他を価値ある存在として認める ④色々な人の立場で考える ⑤感情をコントロールすることができる ⑥善悪を踏まえ建設的に主張、行動する ⑦信頼できる情報や知識を集め、使いこなす ⑧意見の対立や理解の相違を解決する ⑨コミュニケーションを大切に、他と協働する									
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況					
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○		1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		
2	学校運営への必要な支援について			○		2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		
3	地域の実情や課題について			○		3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○		4		協働活動に参加したボランティアの人数		
5	教職員の任用に関する一般的な要望について			○		ボランティア登録者人数		30 人		
						参加者延べ人数		33 人		
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	給食	休み時間			
	清掃	ICT	○	学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習			
	土日・長期休業教科・体験学習	地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(子どもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)	遠足・登山	キャリア教育(職場体験を含む)	○		
	人権教育	国際理解	○	託児						
学校・家庭・地域の協働した取組例						写真				
		読み聞かせ(7月15日)		職場体験(10月26・27日)		活動名(日付)				
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)										
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)										
読み聞かせボランティアについては、年6回計画し、5月(1回)、7月(2回)、10月(1回)までは1日中止したものの、予定通り実施した。通常は教室で机を後ろに寄せ、生徒は床に座って、読み手に近づいて囲むようにして聞き、読み手も椅子に座って行すが、感染対策のため、席に着いたまま、読み手は立って行っている。図書館司書との情報も交換され、生徒も図書館へ足を運んでいる。 地域の企業である原田商店で、カリンの加工を体験しました。										

学校の概要		学校名	諏訪市 立 諏訪南中 学校	学校長	矢野 勝彦	児童生徒数	441 名			
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について										
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について						
運営委員会(信州型コミュニティスクール)	○	会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある					
		市町村教委		自治会代表		ボランティアの団体がある(組織化されている)				
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)	○	公民館代表		PTA代表	○	ボランティアと学校の情報交換会がある				
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	○	学校長・教頭以外の学校職員	○	ボランティアの方を対象とした研修会がある				
名称	諏訪南中学校学校運営委員会			[その他の委員]※具体的な役職名を記入 地域代表者(同窓会長、元PTA会長等) 社会教育委員		地域コーディネーター	2 人			
				学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)		地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)	人			
会議開催数(予定)	4 回	今年度開催日(予定)	5月13日 7月7日 10月1日 1月18日	中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		地域住民				
				具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)						
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況										
学校教育目標	「感謝・協調・創造」～夢叶うまで挑戦～									
地域と共有された育てたい子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> 自分を支えてくれる全ての人やものごとに「ありがとうございます」と素直に思う生徒 友のよさに学び、互いに高め合う生徒 自分のよさや可能性を引き出し、どんな場面でもそれらを活用しようとする生徒 									
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況						
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について	○	1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。	○					
2	学校運営への必要な支援について	○								
3	地域の実情や課題について	○	2	地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。	○					
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて	○	3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)	○					
5	教職員の任用に関する一般的な要望について	○	4	協働活動に参加したボランティアの人数	ボランティア登録者人数	12 人				
					参加者延べ人数	60 人				
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	○	クラブ、部活動	○	給食		休み時間
	清掃	ICT		学習ボランティア		総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習
	土日・長期休業教科・体験学習	地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(子どもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)
	人権教育	国際理解		託児						
学校・家庭・地域の協働した取組例										
	かりんの消毒(4月23日・6月16日)			かりん袋がけ(7月2日)			かりんの収穫(10月6日)			
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)										
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)										
<ul style="list-style-type: none"> ・4月23日(土)am6:00...第1回消毒作業、6月16日(木)am6:00...第2回消毒作業 どちらも関指導員さんの指導を受けて、1時間程で終了(6名程で実施) ・7月2日(土)am6:00...かりん(マルメロ)袋がけ作業 諏訪南中学校の北側～西側に植えられている約40本(39本?)のかりん(マルメロ)の袋がけ作業を行う。「かりんの会」の岩波会長さんや関指導員さん、CSコーディネーター(学校運営委員)の馬淵さん・實吉さんを中心として、今年は生徒・保護者・職員有志、地域のボランティア参加の方々、さらに本校かりんの木の植樹に関係の深い市議会議員さんにもお声がけさせていただいて、総勢70～80名程で作業を行った。関指導員さんから袋がけのやり方やコツを教えてくださいながらの作業となったが、初めはなかなか上手くできなかった生徒たちや初めて作業をする方々も徐々にスムーズに行えるようになっていった。予想以上の参加者により作業時間も1時間半程で終わることができた。 ・10月6日(木)6校時終了後～放課後 3年の生徒および職員、約150名程でかりんの収穫作業を行う。1時間程の作業で、加工・食品用として120kgの収穫。良い出来映えだったが、台風等で袋が予想以上に外れ、きず物が多くなり残念だった。 ※かりんは市木であり、本校で大切にしている木でもある。今後継続し育成していくためにも、生徒・学校・地域等が協力して管理していく必要がある。そこで、今年度は昨年度の反省から「かりんの会」を設立。地域ボランティアさんや生徒・保護者とも連携できたので、さらに今後につなげていきたい。収穫後のかりんは給食でおしゃれなジャムに変身。味のみならず、彩りや香りもよく、存分に堪能できた。来年度は、ものづくり科や食育としても、さらに発展させていきたいと考えている。 										



学校の概要		学校名	茅野市	立 永明中	学校	学校長	矢崎 知広	児童生徒数	351 名				
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について													
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について								
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○ 会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある								
		市町村教委		自治会代表		ボランティアの団体がある(組織化されている)							
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○ 公民館代表		○ PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある							
		○ 地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の学校職員		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある							
名称		永中コミュニティスクール運営委員会			[その他の委員]*具体的な役職名を記入		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 1 人				
					主任児童委員 民生児童委員 学校評議員		地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		人				
					人権擁護委員 同窓会役員 元教育委員								
会議開催数(予定)		6 回	今年度開催日(予定)		4月27日 6月9日 7月8日 10月7日 12月19日 3月3日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		地域住民				
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		同窓会顧問					
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況													
学校教育目標		自らの生活を 誠実に たくましく生きる											
地域と共有された育てたい子どもの姿		・自律した生徒 ～自ら課題や挑戦することがらを見出して、解決の方法を考え、判断し行動を起こすことができる～ ・地域の人やもの、技等との触れ合いやさまざまな体験を通して、より深く学び、地域の魅力を実感することのできる生徒											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況								
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○			1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○						
2 学校運営への必要な支援について		○											
3 地域の実情や課題について					2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。								
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○			3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○						
5 教職員の任用に関する一般的な要望について					4 協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 30 人		参加者延べ人数 50 人				
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り		読み聞かせ ○		児童会、生徒会 ○		クラブ、部活動 ○		給食		休み時間	
		清掃		ICT		学習ボランティア ○		総合的な学習の時間支援 ○		コロナウイルス対策の消毒・清掃 ○		放課後教科・体験学習 ○	
		土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動 ○		子ども食堂(子どもカフェ)との連携 ○		防災学習(避難訓練)		遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む) ○	
		人権教育		国際理解		託児							
								(昨年度の写真)					
		1 学年永明寺山整備作業(10/28)		家庭科ミシン実習ボランティア(7月)		企業説明会ブース展(12/2予定)							
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)													
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)													
家庭科におけるミシン実習(写真中)において、地域ボランティア6名の方に指導補助に入っていただいた。家庭科担当職員から要望があったため、運営委員会において話題にしたところ、地域講師の方を紹介していただき1学年3学級(各2時間ずつ)でご指導いただいた。実習中、生徒はうまくいかない場面ですぐに地域講師の方にアドバイスをしてもらうことができ、技能を高めることができた。家庭科担当職員は、「複数の地域講師のお陰で全体指導も個別支援も効率的に行うことができ、安全面でも安心できた」と語っている。また、地域指導者の皆さんは、「先生方の役に立ててよかった」「普段はあまり機会がないが、中学生と交流することができて新鮮だった」と感想をいただいた。													

学校の概要		学校名	茅野市	立	北部中	学校	学校長	北澤 孝郎	児童生徒数	291 名		
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について												
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について						
運営委員会(信州型コミュニティスクール)	○	会議の委員構成				○ ボランティアのリストがある						
		市町村教委		自治会代表	○	○ ボランティアの団体がある(組織化されている)						
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表	○	PTA代表	○	○ ボランティアと学校の情報交換がある						
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	○	学校長・教頭以外の学校職員	○	○ ボランティアの方を対象とした研修会がある						
名称	茅野市型コミュニティスクール 北部中学校運営委員会				[その他の委員]※具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター	1 人	
	主任児童委員 民生児童委員(各地区代表) 学校評議員(各地区) PTA役員 ボランティアの方							地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)			人	
会議開催数(予定)	4	回	今年度開催日(予定)	5月11日(水) 中止 学校評議員会, 正副支援部長会 実施 9月 2日(金) 中止 学校評議員会, 正副支援部長会 実施 12月16日(金) 9月17日(金)	中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)			地域住民				
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)						
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況												
学校教育目標	夢に向かってたくましく生きぬく生徒											
地域と共有された育てたい子どもの姿	地域の良さと課題を見つめ、地域づくりの主役である意識を高める子どもたち											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況						
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について				○	1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。			○			
2	学校運営への必要な支援について				○							
3	地域の実情や課題について				○	2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。			○			
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて				○	3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用できる部屋との兼用でも可)						
5	教職員の任用に関する一般的な要望について					4 協働活動に参加したボランティアの人数			ボランティア登録者人数	40 人		
								参加者延べ人数	100 人			
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	給食	休み時間				
	清掃	○	ICT		学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習			
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(こどもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)		遠足・登山	○	キャリア教育(職場体験を含む)		
	人権教育		国際理解		託児							
学校・家庭・地域の協働した取組例												
	よみきかせ(月1回実施)				環境整備(植木剪定)・PTA作業(6/19)				通学路点検(10/5)			
	代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)											
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)												
通学路点検と下校の見守り 民生児童委員の皆さんを中心に、登下校の際の生徒の安全・安心のために「ふらっと見守り」をお願いしている。特に危険な箇所については、毎日付き添って登校していただいたり、巡視をしていただいている。通学路点検にも、コーディネーター、PTA会長(副コーディネーター)に参加していただいた。 学校、保護者、地域がそれぞれの立場で行っていることを共通理解するとともに、今後の連携について考えるきっかけとなった。												

学校の概要		学校名	茅野市	立長峰中	学校	宮澤 宏	児童生徒数	369 名	
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について									
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について				
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○ 会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある				
		市町村教委		自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)			
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表		PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある			
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		学校長・教頭以外の学校職員		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある			
名称	長中CS運営委員会		[その他の委員]*具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター	1 人
			・民生児童委員会長 ・主任児童委員 ・コミュニティセンター長 ・学校評議員					地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)	人
会議開催数(予定)	4	回	今年度開催日(予定)	5月20日 7月8日 10月20日 1月24日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		地域住民	
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)			
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況									
学校教育目標	『開拓精神』 『気づき』 『考え』 『実行する』 子ども								
地域と共有された育てたい子どもの姿	・地域の「もの」「ひと」「こと」と積極的にかかわり、社会への関心を高め、「気づき」を基に「考え」「実行する(行動できる)」生徒。								
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況				
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○
2	学校運営への必要な支援について			○					
3	地域の実情や課題について			○	2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		
5	教職員の任用に関する一般的な要望について			○	4		協働活動に参加したボランティアの人数		10 人
						ボランティア登録者人数		31 人	
						参加者延べ人数			
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食	休み時間
	清掃	○	ICT	○	学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習
	土日・長期休業教科・体験学習	○	地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(子どもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)	○	遠足・登山	キャリア教育(職場体験を含む)
	人権教育	○	国際理解	○	託児				
<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>介護体験学習(6月23日)</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>職場体験学習(8月)</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>読み聞かせ(10月20日)</p> </div> </div>									
代表的な協働した活動の取組例									
(上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)									
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)									
2年生を対象に、家庭科の授業の中で介護学習を行った。コロナ禍の中で、ソーシャルディスタンスの必要があることから、実施時期を考慮した。社会福祉協議会の職員をお招きし、高齢者体験プログラムを行い、高齢者の気持ちを寄り添うことの大切さを学んだ。座学のみで学習する場合と違い、より深く高齢者の気持ちを理解することができ、実践的な学習を進めることができた。生徒からも、「転んだらなかなか起き上がれないんだなと思った。」「や「歩くのがとのかく大変だった。杖がないと倒れてしまいそうだった。おじいちゃんおばあちゃんの足腰が痛い気持ちがとでもわかった。」「本当に目はこれしか見えてないと思うと、日常生活どんな風に過ごしているか気になる。」など、体験を通じたからこそ感想が多く見られた。また、学習のまとめとしては、「これから高齢者と会った時は、気を遣ってあげたいと思った。お年寄りは毎日こんな感じで生活しているのがすごいと思った。高齢者の気持ちを味わえてよかったです。」や「高齢者には、てを貸してあげたり、優しい対応をしてあげたいなと思った。歩くのがゆっくりだけど、ちゃんとペースを合わせてあげるのいいと思った。身体は不自由だけど楽しいだぞというのを、実際に自分が年を取ったら感じられるのいいなと思った。疑似体験をしてみて、高齢者の気持ちがわかったので、大変そうだなと思ったら、察してあげたいと思った。」など、この学習を通して生徒の心情の変化が見られた。									




学校の概要		学校名	茅野市 立 東部中 学校	学校長	濱 喜一郎	児童生徒数	394 名					
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について												
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について								
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○ 会議の委員構成			ボランティアのリストがある							
		市町村教委		自治会代表	○	○ ボランティアの団体がある(組織化されている)						
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表	○	PTA代表	○	○ ボランティアと学校の情報交換会がある						
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	○	学校長・教頭以外の学校職員	○	ボランティアの方を対象とした研修会がある						
名称	東部中学校学校運営委員会			[その他の委員]*具体的な役職名を記入		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれ的人数を記入)						
				学校関係者 同窓会 主任民生児童員		地域コーディネーター	1 人					
						地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)	0 人					
会議開催数(予定)	3 回	今年度開催日(予定)	5月24日 12月19日 2月16日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		地域住民					
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)						
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況												
学校教育目標	【学校教育目標】豊かな人間性と創造性を培う教育 『開拓』:自己実現を目指し、進んで創造し実践しよう。『敬愛』:自他の人格を尊重し、互いに認め合う敬愛の心を持とう。 『連帯』:互いに協力し、高め合える人間関係をつくろう。『感動』:美しさに共感する豊かな感性を養おう。											
地域と共有された育てたい子どもの姿	郷土愛(市民性)の育成 ○コミュニティスクールを通して、地域の人材の協力を得た学び。キャリア教育・生き方教育 ○「地域笑顔満開プロジェクト」による地域とのつながりと地域への発信。主体的な地域との関わり ○地域を知り、地域のために出来ることを考える総合的な学習の時間。(縄文・市民科) ○地域コミュニティへの主体的な協力。(玉川ケヤキフェス・榎木廻り舞台・各種ボランティア) ○リモートを活用した地域との交流。 ○地域と協働した情報の発信。											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況								
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。						
2	学校運営への必要な支援について											
3	地域の実情や課題について			○	2	地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。						
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)						
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				4	協働活動に参加したボランティアの人数	ボランティア登録者人数 15 人 参加者延べ人数 15 人					
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	○	クラブ、部活動	○	給食		休み時間	
	清掃		ICT		学習ボランティア		総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習	
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(こどもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)	○
	人権教育		国際理解		託児							
	学校・家庭・地域の協働した取組例											
	でいらぼっちの会読み聞かせ(通年)			地域講師を招いて6月18日・10月7日			保育園との交流(6月29日)					
代表的な協働した活動の取組例												
(上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)												
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)												
6月18日 1学年総合的な学習の時間に「地域を知る」をテーマに①諏訪の食～セロリや寒天のルーツ、製造方法、調理法～②諏訪の自然～八ヶ岳の成り立ち 八ヶ岳の魅力～③諏訪祭り～御柱、御柱に携わる思い～④泉野の伝統～廻り舞台・穴倉の歴史～の4つの講座講演をいただき、10月7日には「茅野で働く人から学ぶ」をテーマに①食品～仕事のやりがい、クレーム対応、商品の仕入れ先の探し方～②医療～なぜ医師の道を選んだのか、人の生死に関わることへの思い～③ものづくり～仕事のやりがい、職人を選んだわけ～④飲食～接客業に関わる思い～⑤教育・人材育成～保育士の楽しさ、保育士になる方法～⑥食品～地元産業をいかして大切にいくか～⑦福祉～訪問デイサービスの具体的な仕事内容～⑧観光～仕事のモチベーションは何か～の8つの講座に分かれて講義及び質疑応答を行った。地域講師の方に来校していただき講義のみならず一問一答を繰り返す中で、より深く地域を知り、地域で働く人を知ることできた。地域の人と触れ合い茅野市のこれから働くことの意義を知り、郷土愛を育むことができた。												

学校の概要		学校名	原村	立原中	学校	校長	古清水 巖	児童生徒数	206 名	
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について										
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○ 会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある					
		市町村教委		○ 自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)				
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表		PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある				
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の学校職員		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある				
名称	原中学校コミュニティスクール運営委員会			[その他の委員]※具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター	1 人
							地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)			人
会議開催数(予定)	2	回	今年度開催日(予定)	5月16日(月) 1月20日(金)			中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		地域住民	
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)				
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況										
学校教育目標	地域とともにある原中学校 自主 連帯 創造 誠実									
地域と共有された育てたい子どもの姿	原村のよさを知り、地域の方とふれあいながら、自らの育ちを実感する生徒									
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況					
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。			○		
2	学校運営への必要な支援について			○						
3	地域の実情や課題について			○	2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。			○		
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)					
5	教職員の任用に関する一般的な要望について			○	4 協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数	100	人	
							参加者延べ人数	30	人	
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	給食	休み時間			
	清掃	ICT	○	学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習		
	土日・長期休業教科・体験学習	地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(子どもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)		遠足・登山	○ キャリア教育(職場体験を含む)		
	人権教育	国際理解		託児						
	学校・家庭・地域の協働した取組例									
		「学校応援団ミーティング」(4月～)		「八ヶ岳中央農業実践大学校」での農林業体験(1学年)(7月)		「マイ農園」経営者によるワイン用ぶどうの栽培・収穫・仕込み指導(3学年)(6月～)				
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)										
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)										
原村学(キャリア教育)の推進 原村のよさを知り、地域の方々とふれあいながら、自らの育ちを実感する生徒の育成を目標に、「地域を知る」→「地域で学ぶ」→「地域と生きる・自己を見つめる」をテーマに、3年間を貫く学習活動を位置付けている。地域の方に働きかけたり、働きかけられながら問題解決を図る活動は生徒のキャリア形成に影響を与えている。その学習活動の中で、ふるさとのよさや課題を見だし、そんなふるさとと「私」はこれからどうあるか、そういった視点で生き方を考えられる生徒が今年も育っている。										

学校の概要		学校名	富士見町	立 富士見中	学校	学校長	塩崎 正昭	児童生徒数	374 名		
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について											
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について						
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある			
		市町村教委			自治会代表			○ ボランティアの団体がある(組織化されている)			
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○			公民館代表			○ ボランティアと学校の情報交換会がある			
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員			○ 学校長・教頭以外の学校職員			ボランティアの方を対象とした研修会がある			
名称	富士見中学校運営委員会			[その他の委員]*具体的な役職名を記入 ボランティア代表 同窓会役員 社協職員			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 1 人		
							地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者) 1 人				
会議開催数(予定)	3	回	今年度開催日(予定)	5月30日(月) 11月16日(水) 2月28日(火)			中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		教育委員会職員		
							具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		地域連携推進支援主事		
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況											
学校教育目標	・つながりを深める人間性の伸長 ・可能性を引き出す知性の育成 ・明日を切り拓く感性の醸成										
地域と共有された育てたい子どもの姿	生徒が「自分から」考える姿、行動する姿 ・自分から他者や社会につながる姿 ・自分から学びを他者や社会とつなげる姿 ・自分から他者や社会を見つめなおす姿										
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況						
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1			学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○	
2	学校運営への必要な支援について			○	2			地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。			
3	地域の実情や課題について			○	3			ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)			
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	4			協働活動に参加したボランティアの人数		45 人	
5	教職員の任用に関する一般的な要望について			○	4			参加者延べ人数		約30 人	
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	○	クラブ、部活動	給食	休み時間		
	清掃		ICT	○	学習ボランティア	○	総合的な学習の時間支援	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習	○	
	土日・長期休業教科・体験学習	○	地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(子どもカフェ)との連携	○	防災学習(避難訓練)	遠足・登山	キャリア教育(職場体験を含む)	○	
	人権教育		国際理解		託児						
	学校・家庭・地域の協働した取組例										
				夕学・朝学(通年)			なるには教育(7月12日)			富士見中応援団(5~9月)	
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)											
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)											
【内容】 「富士見中応援団～皆で学校を豊かにしよう～」(3年 総合的な学習の時間) 「学校を住みよくしたい」という思いで集まった生徒たちが、学校のためにできることを自ら解決しようと取り組んだ。その中の1つとして、足を乗せるスペースが狭く滑りやすかった、テニスコートに向かう階段を修理することにした。地元の工務店に協力を依頼し、階段の設計、既設階段の解体、新規階段と手すりの設置を、工務店の皆さんとともに行った。 【どこで・誰と】・校内において ・地元の工務店の皆さんと 【成果】～子どもの姿から～ 校内の仲間がどこで困っているかをもとに取る組む内容を決めた。また、実際に階段を工事する場面でも、使う人の立場に心を寄せて設計や組み立てを行った。常に「今後使う誰かのために」といった相手を思いやる心を醸成することにつながった。地元の大人である工務店の方々と一緒に活動したことで、町内の方々とのつながりの大切さを実感した。											

学校の概要		学校名	長野県諏訪清陵中 学校			学校長	小口 雄策		児童生徒数	238 名					
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について															
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について									
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○		会議の委員構成				ボランティアのリストがある							
				市町村教委		自治会代表		ボランティアの団体がある(組織化されている)							
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)				公民館代表		PTA代表		○		ボランティアと学校の情報交換会がある					
				地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		学校長・教頭以外の学校職員		○		ボランティアの方を対象とした研修会がある					
名称		学校評議員会		[その他の委員]*具体的な役職名を記入				学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 1 人					
				学校評議員				地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		0 人					
会議開催数(予定)		2 回		今年度開催日(予定)				7月14日 第2回は今後日程調整		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)					
								学校職員(教頭及び教頭以外の職員)		進路指導部主任					
								具体的な役職(他を選択した場合は立場・役職を記入)							
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況															
学校教育目標		①明治28年以來の伝統に培われた「高い学力」「広い視野」「強い意志」を基礎に、21世紀の社会に貢献できる優れた人材を育成する。 ②生活全般を通して多様な経験を積む機会を設け、豊かな人間性や公共性、社会性を育む。													
地域と共有された育てたい子どもの姿		「高い学力」「広い視野」「強い意志」を備えた21世紀の社会に貢献できる骨太なリーダーの育成													
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況									
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○		1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。				○							
2 学校運営への必要な支援について				2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。											
3 地域の実情や課題について				3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)											
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて				4 協働活動に参加したボランティアの人数				ボランティア登録者人数		なし 人					
5 教職員の任用に関する一般的な要望について								参加者延べ人数		約200 人					
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り		読み聞かせ		児童会、生徒会		クラブ、部活動		給食		休み時間			
		清掃		ICT		学習ボランティア		総合的な学習の時間支援		○		コロナウイルス対策の消毒・清掃			
		○		地域での伝統文化の継承に係る活動		○		子ども食堂(子どもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山		○	
		土日・長期休業教科・体験学習		○		国際理解		託児							
		人権教育													
学校・家庭・地域の協働した取組例															
		「ドリームの会」による消毒作業(通年)		土曜講座【SUWA小型ロケット】(10月1日)		キャリアウィーク(7月26日)									
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)															
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)															
地域のボランティア団体「ドリームの会」の皆さんに、校内の消毒作業を通年実施していただき3年目となる。学校としては感染症対策の観点から非常にありがたい活動であるとともに、ドリームの会からは「生徒さんからの挨拶が嬉しい」「元気をもらっています」などの声をいただいている。今の活動を発展させ、ドリームの会の皆さんとの交流企画や、ボランティア活動に取り組む生き方に学ぶ機会なども設けていきたい。															

学校の概要		学校名	長野県諏訪養護		学校	学校長	中原 直樹		児童生徒数	186 名		
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について												
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について						
運営委員会(信州型コミュニティスクール)			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある						
			市町村教委		自治会代表				ボランティアの団体がある(組織化されている)			
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)			公民館代表		PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある					
			地域コーディネーターや 地域学校協働活動推進員		学校長・教頭以外の 学校職員				ボランティアの方を対象とした研修会がある			
名称	学校評議員会			[その他の委員]*具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体 や地域との連携調整を行う コーディネーター等が学校 職員以外にいますか(それぞ れの人数を記入)		地域コーディネーター	人		
									地域学校協働活 動推進員(教育 委員会の委嘱を 受けた者)	人		
会議 開催数 (予定)	2	回	今年度 開催日 (予定)	12月、2月			中心的なコーディネーター の立場(リストより選択)					
						具体的な役職(他をを選択し た場合は立場・役職を記入)						
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況												
学校教育目標		げんき(健康な体)・なかよく(豊かな心)・ぐんぐんと(主体的な学び) ～その子らしく、その子のもてる力を発揮できるようになってほしい～										
地域と共有され た育てたい子 どもの姿		諏訪圏域内外の地域の人材や資源を活かし、子どもたちの学習への動機づけや学習の成果を評価する役割を担っていただく ことで、広く人とかかわりがもてる子どもになってほしい。										
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況						
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について					1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子ども の姿」が共有されている。					
2	学校運営への必要な支援について					2	地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有 できている。					
3	地域の実情や課題について					3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。 (専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)					
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて					4	協働活動に参加したボランティアの 人数					
5	教職員の任用に関する一般的な要望について					ボランティア 登録者人数			人			
						参加者延べ 人数			人			
地域学校 協働活動の 概要	登下校の見守り		読み聞かせ		児童会、生徒会		クラブ、部活動		給食		休み時間	
	清掃		ICT		学習ボランティア		総合的な学習の 時間支援		○ コロナウイルス対策 の消毒・清掃		放課後教科・ 体験学習	
	土日・長期休業 教科・体験学習		地域の伝統文化の 継承に係る活動		子ども食堂(子ども カフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山		キャリア教育(職場 体験を含む)	
	人権教育		国際理解		託児							
	学校・家庭・ 地域の協働した取 組例											
		小学部 富士見小交流(6/15、7/7)		中学部 オンライン職場見学(8/25)		高等部 作業班交流(10/6)						
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)												
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)												
【高等部木工班(1年生～3年生)の地域の方との交流】 ・木工班の資材を提供していただいている、富士見町の細川木材さんに行き、従業員の方から様々な木の加工について学ばせていただいた。 木材から製品に仕上げるまでは、様々な工程があるが、一つ一つの工程を丁寧に仕上げることにより、お客様を意識した製品作りになることを 体感しながら学ぶことができた。												

学校の概要		学校名	長野県	花田養護 学校	学校長	瀬志本 進	児童生徒数	89 名
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について								
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について			
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		会議の委員構成			ボランティアのリストがある			
		市町村教委		自治会代表	ボランティアの団体がある(組織化されている)			
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表		PTA代表	ボランティアと学校の情報交換会がある			
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	学校長・教頭以外の学校職員		ボランティアの方を対象とした研修会がある			
名称	学校評議員会				[その他の委員]※具体的な役職名を記入		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)	
					地域コーディネーター		人	
						地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		人
会議開催数(予定)	2	回	今年度開催日(予定)	令和4年6月16日(木) 令和5年2月14日(火) 予定		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況								
学校教育目標	一人一人の児童生徒が「ともに生き、ともに学ぶ」中で自己の可能性が広がるよう支援し、生きる力をはぐくむ。							
地域と共有された育てたい子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> 人のかかわりを楽しみ、望ましい人間関係を構築する力。 自ら社会参加していこうという気持ち。 							
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況			
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について				1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		
2	学校運営への必要な支援について							
3	地域の実情や課題について				2	地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて				3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				4	協働活動に参加したボランティアの人数	ボランティア登録者人数	人
						参加者延べ人数	0	人
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	読み聞かせ	児童会、生徒会	クラブ、部活動	給食	休み時間		
	清掃	ICT	学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習		
	土日・長期休業教科・体験学習	地域の伝統文化の継承に係る活動	子ども食堂(こどもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)	遠足・登山	キャリア教育(職場体験を含む)		
	人権教育	国際理解	託児					
	学校・家庭・地域の協働した取組例							
		小学部:下諏訪北小交(6月29日)		中学部:2グループ諏訪湖遠足(6月29日)		高等部:富士見高原リゾートin花田(6月1日)		
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)								
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)								
○高等部では今年度も富士見高原リゾートでの活動を、「富士見高原リゾートin花田」と題して学校の校庭で再現しました。富士見高原リゾートの皆様には、長年にわたり交流を続けていただいています。花田養護学校の生徒の様子をよく理解していただいているお陰で、生徒たちが楽しめる最適な環境を校庭に整えていただきました。富士見高原と同じような環境の中で、十分に体験活動を行うことができました。								
○中学部の2グループは今年度の諏訪湖遠足で、下諏訪町漕艇協会の協力を得て、町のローイングパークからモーターボートに乗せていただく体験をしました。湖上に出るのは生徒たちにとって生まれて初めての体験でした。生徒の安全を第一に考え、支えてくださった協会の皆様へ感謝です。								
○小学部・中学部が主の交流となる下諏訪町の皆様は児童生徒の障がいや個性について理解を深め、積極的に関わろうとしてくださっています。小学部の「下諏訪北小交流」、中学部の「下諏訪社中交流」、同じく中学部の「御田町おかみさん交流」は児童生徒のニーズに沿った活動を一緒に考えてくださり、とてもありがたいです。								
・医療的な面で郊外に出ることが難しい生徒や、学校と信濃医療福祉センターでの生活が主となっている生徒にとって、外部の方々と触れ合ったり、普段できない活動を経験したりすることができたことが大きな成果です。								




学校の概要		学校名	辰野町塩尻市小学校組合 立 両小野小		学校	学校長	小柳津由紀		児童生徒数	113 名		
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について												
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について						
運営委員会(信州型コミュニティスクール)			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある						
			市町村教委		自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)					
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)			公民館代表		PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある					
			地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		学校長・教頭以外の学校職員		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある					
名称	両小野学園運営協議会		[その他の委員]*具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外に在るか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター		1 人		
			地域代表:地区振興会長 区長 主任児童委員 学識経験者:元教育長 元教育委員 行政職員:保育園長 校長 教頭 教務主任					地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		0 人		
会議開催数(予定)	4	回	今年度開催日(予定) 4月26日 8月19日 11月29日 2月24日			中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		地域住民				
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		コミュニティ・スクールコーディネーター				
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況												
学校教育目標	(1)命を大切にしよう (2)知恵を出しやりぬこう (3)仲よく助け合おう											
地域と共有された育てたい子どもの姿	両小野学園のねがう園児・児童・生徒のすがた ふるさと「たのめの里」を知り、共に愛し、「たのめの里」に貢献できる子ども～輝く「あいさつ」・響き合う「歌声」・深まる「学び合い」～											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況						
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について					○	1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。			○
2	学校運営への必要な支援について					○						
3	地域の実情や課題について					○	2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。			○
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて						3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)			○
5	教職員の任用に関する一般的な要望について						4		協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数	46 人
									参加者延べ人数		233 人	
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食		休み時間	○	
	清掃		ICT		学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習		
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(子どもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)		遠足・登山	○	キャリア教育(職場体験を含む)		
	人権教育	○	国際理解		託児							
学校・家庭・地域の協働した取組例												
	クラブ活動「昔の遊びクラブ」(7/7)		4年 たのめの里の川や水(8/29)			5年 米づくり「稲刈り」(10/4)						
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)												
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)												
<p>地域のひと、もの、ことに学ぶクラブ活動</p> <p>本校のクラブ活動は、「地域に伝わる遊びやものづくり、地域の方との交流を通して、自分の育った地域の良さを感じること」、「縦のつながりの中で、さまざまな活動を行うことを通して、豊かな感性を育むこと」を目的とし、「たこづくり」「太鼓」「百人一首」「木工」「昔の遊び」「ふるさと料理」「手芸」の7つのクラブ全て11名の学校支援ボランティアの方々に指導していただき、年間4回、2時間ずつの計8時間行っている。</p> <p>クラブのまとめでは、「昔の遊びをいろいろと教えてくれてありがとうございました。ボランティアさんと一緒に作った竹とんぼ、大事にしています。今でもとばしています！」など、児童と学校支援ボランティアの方々とのあたたかい心のつながりが感じられる作文もあり、クラブで取り組んだ地域に関わる内容はもちろんであるが、こうした心と心のつながりが「地域を愛する心」の育成につながっていると感じている。また、指導に関わってくださった学校支援ボランティアの方々も、「子どもたちと触れ合う中で、やりがいや生きがいを感じる」と話してくださっている。</p>												

学校の概要		学校名	辰野町 立 川島小 学校			学校長	牧野 孝裕		児童生徒数	11 名			
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について													
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について							
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○ 会議の委員構成				○ ボランティアのリストがある							
		市町村教委		自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)							
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表		PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある							
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の学校職員		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある							
名称		学校支援ボランティア運営委員会				[その他の委員]※具体的な役職名を記入		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 1 人			
						学校評議員 民生児童委員 子育て支援マスター 人権擁護委員 営農組合長 育成会長		地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		0 人			
会議開催数(予定)		2 回		今年度開催日(予定)		5月16日(書面実施) 10月6日(規模を縮小して実施)		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		地域住民			
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)					
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況													
学校教育目標		かしこく わになって しなやかに まっすぐぞだつ 〜いそむ わくわくすることを かがやく自分を みつけ みがき みとめあう〜											
地域と共有された育てたい子どもの姿		かがやくための確かな力(各教科・領域)をもつ 「めあて」(課題)を持って自力で解決する 新しいこと・難しいことにもトライする											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況							
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○				1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○					
2 学校運営への必要な支援について		○				2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。							
3 地域の実情や課題について		○				3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)							
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて						4 協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 87 人		参加者延べ人数 45 人			
5 教職員の任用に関する一般的な要望について													
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り ○		読み聞かせ		児童会、生徒会		クラブ、部活動 ○		給食 ○		休み時間	
		清掃 ○		ICT		学習ボランティア		総合的な学習の時間支援 ○		コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習	
		土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動 ○		子ども食堂(こどもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)	
		人権教育 ○		国際理解		託児							
													
		野菜作り<そば蒔き>(7月20日)				御柱お話し会(9月27日)				草木染め(6月30日、9月8日)			
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)													
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)													
総合的な学習の時間では様々な野菜、そばを育てた。そばづくりでは地域の営農組合の方に協力していただき、種蒔き、収穫などの指導をしていただいた。食べ物を作る大変さや収穫の喜びを実感する学びの場となった。また、活動を通して地域の方と親しみ、中には育て得た作物を学校給食に提供してくださっている方がいることも知り、地域の方が身近な存在となった。収穫したそばは、地域のそばの会の方に指導をお願いし、そば打ち会を開く予定である。 今年度は地区の御柱の年であり、横川地区を挙げて御柱に取り組みしていた。学校では御柱実行委員長と相談し、実行委員の方を招いて御柱の学習や木遣り体験を行った。地域の伝統文化を知り、地域に愛着を持つ大切な機会となった。 本年度の新たな取り組みとして全校で草木染めに挑戦した。地域で草木染めに取り組んでいる会の方に協力していただき、2回にわたってTシャツや手ぬぐいなどを染める活動を楽しんだ。身近な草花できれいな染め物ができること、自分たちの手で衣服を染めることができることを発見する機会となった。													

学校の概要		学校名	辰野町 立 辰野西小 学校	学校長	袖山 秀明	児童生徒数	415 名
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について							
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について			
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○		会議の委員構成		○ ボランティアのリストがある	
				市町村教委		自治会代表	
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○		公民館代表		PTA代表	
				地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		学校長・教頭以外の学校職員	
名称		学校運営委員会		[その他の委員]*具体的な役職名を記入		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)	
						地域コーディネーター 1 人	
						地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者) 1 人	
会議開催数(予定)		3 回		今年度開催日(予定)		①6月7日 ②11月10日 ③2月22日	
						中心的なコーディネーターの立場(リストより選択) 教育委員会職員	
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入) 学校支援主事	
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況							
学校教育目標		○よく見 よく聞き つとめる ○手をつなぎ 体をきたえる ○ずくを出して やりぬく					
地域と共有された育てたい子どもの姿		辰野町 及び 辰野西小学校に愛着をもち、生き生きと学ぶ子ども					
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況			
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○		1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○	
2 学校運営への必要な支援について		○		2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○	
3 地域の実情や課題について		○		3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○	
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○		4 協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 130 人	
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○				参加者延べ人数 40 人	
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り ○		読み聞かせ ○		児童会、生徒会	
		清掃		ICT		学習ボランティア	
		土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動 ○		子ども食堂(子どもカフェ)との連携	
		人権教育		国際理解		託児	
							
		読み聞かせ(1・2学期)		脱穀:米づくり応援隊(10月26日)		生け花(時節に合わせて)	
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)							
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)							
○今年度も、5年生の米づくりに関して、地域の『米づくり応援隊』の皆さんと共に取り組んできた。感染症対策を行った上で、田植えや稲刈り、脱穀等の作業を行った。応援隊の皆さんの、草刈りをはじめとする日々の手入れ等のお陰で、たくさんのお米を収穫することができた。作業中、応援隊の方々に関わる中で、先人の知恵を教わりながら、子ども達は、楽しく米作りをすることができた。この活動は外で行うので、コロナ禍においても地域の方と触れ合う貴重な機会となっている。また、地域の方からも「子ども達と関わるのは、とても楽しい。」といった感想をいただいた。							
○ボランティアの方が、時節に合った花を、職員玄関等に活けて下さり、職員はもちろん、来校された方の気持ちを温かくして下さっている。							
○本年度は感染症対策に留意しながら、1学期から本の読み聞かせを、ボランティアさんに行っていた。毎週月曜日の朝に朝読書の時間をとって、読み聞かせもこの時間に実施している。本に親しむ貴重な機会になっていて、読み聞かせをきっかけに本を借りている児童もいる。							

学校の概要		学校名	辰野町立 辰野東小 学校		学校長	片桐 広文		児童生徒数	244 名			
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について												
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について						
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○ 会議の委員構成				○ ボランティアのリストがある						
		市町村教委		○ 自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)						
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表		PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある						
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の学校職員		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある						
名称	あさひ運営委員		[その他の委員]※具体的な役職名を記入				学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター		4 人	
			学校評議員						地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		1 人	
会議開催数(予定)	3 回	今年度開催日(予定)	5月27日 9月28日 2月15日				中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		地域住民			
				具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)								
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況												
学校教育目標		1 本気で考えよう 2 自分のいいところをのぼそう 3 命を大切にしよう										
地域と共有された育てたい子どもの姿		朝日の地に立つ「あさひ」の子〜つながりあう「あさひ」〜 1 声と心がつながる合う「あいさつ」 2 つながり合う「学習」 3 つながりあう「あさひの時間」										
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況						
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○				1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○				
2 学校運営への必要な支援について		○										
3 地域の実情や課題について		○				2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○				
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○				3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)						
5 教職員の任用に関する一般的な要望について						4 協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数		158 人		
								参加者延べ人数		約140 人		
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り		○ 読み聞かせ		○ 児童会、生徒会		クラブ、部活動		給食		休み時間	
	清掃		ICT		学習ボランティア		総合的な学習の時間支援		○ コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習	
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		○ 子ども食堂(子どもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)	
	人権教育		国際理解		託児							
	学校・家庭・地域の協働した取組例											
		5年お米作り(4月～10月)		読み聞かせ(6/15 年間10回予定)		運営委員さんとの交流(9/28)						
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)												
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)												
<p>・6年生が中心となって、全校が楽しめる縦割り班でのなかよしレクに、地域コーディネーター、学校評議員、PTA代表、町教委担当をお呼びして、縦割り班に入っていただき、一緒に活動していただいた。また、給食の配膳の様子をみてもらいながら、一緒に食べていただいた。あさひ運営委員の方々に授業場面だけでなく児童の様子をみてもらい、交流をすること自体に価値があり、地域とともにある学校づくりの一助になるだろう。また、学校からは児童の活動の幅を広げるボランティアさんの発掘も依頼することができた。子どもたちは、あさひ運営委員の方と触れ合った時間は多いわけではないが、全体的に自分たちの活動の様子を受け入れてくれる姿勢に喜びを隠さないようであった。今回のような交流は、今後も考えていきたい。様々なボランティアさんを紹介してもらうことで、子どもたちは活動を通して、多様な価値観に触れながら、自己肯定感を高めていくことにつながるが大いに期待できると考えている。</p>												

学校の概要		学校名	辰野町	立辰野南小	学校	学校長	堀米 英徳	児童生徒数	102 名									
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について																		
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について													
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある										
		市町村教委		○		自治会代表		○										
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○			公民館代表			○										
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○		PTA代表			○									
		○			学校長・教頭以外の学校職員			○		ボランティアと学校の情報交換会がある								
名称	辰野南小学校コミュニティスクール運営委員会			[その他の委員]*具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)		ボランティアの方を対象とした研修会がある									
				地域住民 社会教育委員			地域コーディネーター		2 人									
会議開催数(予定)		3 回		今年度開催日(予定)		4/12 11/2 2/9		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		地域住民								
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		社会教育委員(CS運営委員会会長)								
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況																		
学校教育目標		自らすすんで課題を見つけ、よりよく解決していく子ども (知)本気で考え、自ら学ぶ子ども (徳)明るく素直で、思いやりのある子ども (体)丈夫な体で、やり抜く子ども (美)美しい心を持ち、郷土を愛する子ども																
地域と共有された育てたい子どもの姿		・恵まれた環境を生かし、自然や地域の人・歴史・伝統とふれあう子どもたち ・直接体験を通して、五感を働かせる子どもたち																
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況													
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○			1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○									
2 学校運営への必要な支援について																		
3 地域の実情や課題について		○			2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。											
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて					3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)											
5 教職員の任用に関する一般的な要望について					4		協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 119 人 参加者延べ人数 110 人									
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り		○		読み聞かせ		○		児童会、生徒会		クラブ、部活動		給食		休み時間			
	清掃				ICT				学習ボランティア		○		総合的な学習の時間支援		○		コロナウイルス対策の消毒・清掃	
	土日・長期休業教科・体験学習				地域の伝統文化の継承に係る活動		○		子ども食堂(こどもカフェ)との連携				防災学習(避難訓練)				遠足・登山	
	人権教育				国際理解				託児		○							
	学校・家庭・地域の協働した取組例																	
																		
		「育ちの森(春)」(6/16)		花台づくり(8/31)		栗拾い(9/14)												
代表的な協働した活動の取組例																		
(上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)																		
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)																		
・育ちの森(学校林)の活動は、『四季折々、林の中で触れる自然を通して、羽北地域の良さを感じる経験をしてほしい』という地域の人々の思いから始まり、現在まで16年間続いている活動で、例年春と秋の年2回行っている。学校から25分先の育ちの森(学校林)で、地域のボランティアの方々と一緒に取り組んでいる。ふるさとの良さを未来につなげるために、自分たちはどんなことができるのかを考えようとする意識が育っている。																		

学校の概要		学校名	箕輪町	立箕輪中部小	学校	学校長	原 浩範	児童生徒数	580 名												
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について																					
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について																
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある													
		市町村教委		自治会代表		○		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)													
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○			公民館代表		PTA代表		○												
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○		学校長・教頭以外の学校職員		○													
地域ボランティア代表者会		[その他の委員]※具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター		1 人												
名称							地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		0 人												
会議開催数(予定)		2 回		今年度開催日(予定)		2022/6/3 2023/2/6		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)													
							学校職員(教頭及び教頭以外の職員)														
							具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		教頭												
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況																					
学校教育目標		健やかに 暖かに 正直に																			
地域と共有された育てたい子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> ・「人」「もの」との関わりを深める中で、生命の尊厳に気づき、畏敬・思いやり等豊かな情操の育成 ・「もの」「こと」の本質を見極め、自らを高めようとする責任感と実行力の育成 ・何事にも進んで取り組む心と体力の育成 																			
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況																
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○			1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○												
2 学校運営への必要な支援について		○			2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○												
3 地域の実情や課題について		○			3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○												
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○			4		協働活動に参加したボランティアの人数		55 人												
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○			5		参加者延べ人数		3000 人												
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り		○		読み聞かせ		○		児童会、生徒会		クラブ、部活動		○		給食		○		休み時間	
		清掃		ICT		学習ボランティア		総合的な学習の時間支援		○		コロナウイルス対策の消毒・清掃		○		放課後教科・体験学習		○			
		土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(こどもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		○		遠足・登山		○		キャリア教育(職場体験を含む)		○			
		人権教育		国際理解		託児															
学校・家庭・地域の協働した取組例																					
		読み聞かせボランティア(通年)				クラブ活動(6～11月)				脱穀(10月28日)											
代表的な協働した活動の取組例																					
(上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)																					
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)																					
<p>クラブ活動</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの興味・関心のあるものと、指導者の確保ができるものとをマッチングさせて、クラブ活動を成立させてきた。学校職員だけでは成立させがたいクラブも、地域ボランティアの方を募り、クラブを成立させることができています。 ・コロナ禍で外部の方との関わりが制限されたり、学級閉鎖等により急にクラブ活動が中止となってしまったりすることもあったが、できるだけ子どもたちの楽しみにしている活動を成立させようと努力してきた。 ・子どもたちにとっては、自分の好きな活動に取り組むことができる貴重な時間である。教員だけでなく、地域の大人のの人に教えていただくことで、貴重な学びの場となっている。 																					

学校の概要		学校名	箕輪町	立箕輪北小	学校	学校長	小林 みゆき	児童生徒数	332 名
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について									
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について				
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○			会議の委員構成			ボランティアのリストがある	
		市町村教委		自治会代表		○		ボランティアの団体がある(組織化されている)	
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○			公民館代表		PTA代表		○
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○		学校長・教頭以外の学校職員		○	
名称		箕輪北小学校コミュニティスクール運営委員会			[その他の委員]※具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)	
					コーディネーター(元町教育委員会教育長)総務部、学習支援部(地域住民社会体育指導者代表、クラブ指導者、ボランティアグループ代表)環境安全支援部(地区長寿クラブ代表)、地区区長、地区安教代表、通学パトロール代表)ふれあい福祉支援部(福祉施設代表、民生児童委員代表)			地域コーディネーター 1 人	
会議開催数(予定)		3 回		今年度開催日(予定)		例年3回開催(今年度は、未実施、未定) 今年度開催予定日 5月26日(木)延期→中止 10月14日(金)延期→中止 2月15日(水)未定		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)	
								地域住民	
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)	
								元町教育委員会教育長	
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況									
学校教育目標		『まなぶ子 きたえる子 つとめる子』 学ぶ子…自ら問いを立て、追及していく子を目指して きたえる子…体と心をたくましく つとめる子…児童が作る学校							
地域と共有された育てたい子どもの姿		自立につながる体験や地域学習を通して、自己肯定感を持ち、箕輪を愛する子ども							
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況				
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○			1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		
2 学校運営への必要な支援について		○			2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		
3 地域の実情や課題について		○			3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○			4		協働活動に参加したボランティアの人数		
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○			79		ボランティア登録者人数		
					94		参加者延べ人数		
地域学校協働活動の概要									
登下校の見守り		○		読み聞かせ		○		児童会、生徒会	
清掃				ICT				学習ボランティア	
土日・長期休業教科・体験学習				地域の伝統文化の継承に係る活動		○		子ども食堂(子どもカフェ)との連携	
人権教育				国際理解				託児	
クラブ、部活動		○		給食				休み時間	
総合的な学習の時間支援		○		コロナウイルス対策の消毒・清掃				放課後教科・体験学習	
防災学習(避難訓練)				遠足・登山				キャリア教育(職場体験を含む)	
学校・家庭・地域の協働した取組例		北小パトロール(毎日)		卓球クラブ(前期週に1時間)		しめ縄づくり(12月)			
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)									
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)									
○クラブ活動 昨年度は外部の方を呼んだのは外で活動するマウンテンバイククラブだけだったが、今年は生け花、卓球、太鼓、ニュースポーツと地域の方に講師としてかかわっていただくクラブが多くなった。生け花クラブでは、2名の地域の方に指導者になっていただき活動することができた。指導に来てくれた方は母校である学校にきて子供たちと一緒に活動できたことをたいへんうれしかったと喜んでいただいた。太鼓クラブでは地元の太鼓サークルの方に講師になっていただいた。クラブでの練習の成果を70周年記念式典のオープニングで披露することができた。また、講師の方の関わりから、中学生、高校生の太鼓グループと一緒に練習をし、町の文化祭で演奏をする機会にも恵まれた。クラブ活動が、学校だけでなく地域で発表したり、地域の方々との関わりが増えたりするなど活動が広がっている。									

学校の概要		学校名	箕輪町	立箕輪西小	学校	学校長	田中 早苗	児童生徒数	100 名	
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について										
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある		
		市町村教委		自治会代表		○		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)		
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表			PTA代表			○		
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		学校長・教頭以外の学校職員			○		ボランティアと学校の情報交換会がある	
名称	西小コミュニティスクール運営委員会				[その他の委員]*具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)		
	地域住民ボランティア代表							地域コーディネーター	0 人	
							地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)	0 人		
会議開催数(予定)	2	回	今年度開催日(予定)	6月21日 2月24日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		学校職員(教頭及び教頭以外の職員)		
							具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)			
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況										
学校教育目標		気づき 考え やり抜く子ども ~ふるさとに学ぶ~								
地域と共有された育てたい子どもの姿		「未来を創る子どもの生きる力を育む」あいさつを交わし合う子【人間関係力】 自分の思い出や考えを伝え合う子【表現力】 自分から動き出す子【探究力】								
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況					
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○			1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○	
2 学校運営への必要な支援について		○			2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○	
3 地域の実情や課題について		○			3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○	
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○			4		協働活動に参加したボランティアの人数		61 人	
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○			4		ボランティア登録者人数		30 人	
		ボランティア参加者延べ人数								
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り		○		読み聞かせ		○		児童会、生徒会	
	清掃		○		ICT		○		学習ボランティア	
	土日・長期休業教科・体験学習		○		地域の伝統文化の継承に係る活動		○		子ども食堂(こどもカフェ)との連携	
	人権教育		○		国際理解		○		託児	
									クラブ、部活動	
								給食	休み時間	
								総合的な学習の時間支援	コロナウイルス対策の消毒・清掃	
								防災学習(避難訓練)	遠足・登山	
									キャリア教育(職場体験を含む)	
学校・家庭・地域の協働した取組例										
		4年生・森林作業(10月27日)			古田人形クラブ練習(水曜日放課後)			6年生・わら細工(11月17日)		
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)										
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)										
5年の時に体験した米作りで、収穫後の藁の利用方法について興味をもった子ども達が、地域の方々に支えられながら総合的な学習の時間に「わら細工」に取り組んできた。今年度は、佐渡島に行った修学旅行でも「わら細工」に関係した体験をした。棚田見学やわら細工が盛んな集落を訪ね、地元の方からわら作りを教えていただいた。また、地域の方に自分達から依頼をして藁を集めたり、「わら細工」の達人を紹介していただき、藁をつかったむしろや俵、こもを編む道具を使って体験活動につなげることができた。これらの活動を通して、藁細工に関わって頂いた方々に感謝の気持ちを持つとともに、昔の人々の器用さや知識の奥深さを学ぶことができた。										

学校の概要		学校名	箕輪町	立箕輪南小	学校	校長	池上 浩人	児童生徒数	113 名	
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について										
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○			会議の委員構成			ボランティアのリストがある		
		市町村教委		○		自治会代表		○		
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○			公民館代表			○		
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○		PTA代表			○	
		○			学校長・教頭以外の学校職員			○		
名称		南小を語る会			[その他の委員]※具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)		
		町議会議員			地域コーディネーター		1 人			
					地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		0 人			
会議開催数(予定)		2 回		今年度開催日(予定)		5月21日 2月17日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		
								地域住民		
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況										
学校教育目標		さあやろう つづげよう あいさつしよう								
地域と共有された育てたい子どもの姿		自分の良いところ,地域の良さに誇りをもって生きていく子ども 自分の力で未来を切り開き、たくましく生き抜く子ども								
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況					
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○			1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○	
2 学校運営への必要な支援について		○			2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○	
3 地域の実情や課題について		○			3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)			
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○			4		協働活動に参加したボランティアの人数		45 人	
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○			4		参加者延べ人数		75 人	
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り		○		読み聞かせ		○		
		清掃		○		ICT		○		
		土日・長期休業教科・体験学習		○		地域の伝統文化の継承に係る活動		○		
		人権教育		○		国際理解		○		
		児童会、生徒会		○		クラブ、部活動		○		
		学習ボランティア		○		総合的な学習の時間支援		○		
		子ども食堂(こどもカフェ)との連携		○		防災学習(避難訓練)		○		
		託児		○		給食		○		
						休み時間		○		
						コロナウイルス対策の消毒・清掃		○		
						遠足・登山		○		
						キャリア教育(職場体験を含む)		○		
学校・家庭・地域の協働した取組例										
		稲刈り(9月27日)			七夕集会(7月7日)			交通安全人波作戦(9月15日)		
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)										
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)										
5年生の総合的な学習で、田んぼの活動を行った。学校からボランティアの募集をすると、地域の方から「手伝いたい」「一緒にやるよ」といった連絡をいただき、協力していただける方が増えた。田植えや稲刈りなどを教えていただきながら一緒に行っただけでなく、日常的な水の調節や田んぼの様子全般について、情報共有しながら一緒に進めていただいた。子どもたちの父母や祖父母、また田んぼの近くの地域の方も、田んぼの様子を気にかけてくださり、何かがあると対処してくださった。稲刈りでは、子どもたちが稲を刈っていく端から、束ねていただいたり、はざがけを一緒にしたりしていただいた。途中の休憩や終わった後に、田んぼの傍らで一緒にお茶を飲む雰囲気は、和やかで一緒に活動した連帯感があっただけでなく、お礼として、地域の方との交流会にお呼びして、練習を重ねてきた太鼓を発表して聞いていただいた。田んぼを通じた活動の子どもたちの様子やまた違った場面を見ていただき、「素晴らしかった」「かっこよかった」等と感想をいただいた。以前のように多くの行事等で一緒に直接関わることができる活動は少なくなったが、外での活動を中心に協力をお願いしていくことで、学校と地域の方がかかわる機会を継続することができたと思う。										

学校の概要		学校名	箕輪町	立箕輪東小	学校	学校長	宮澤 朋弘	児童生徒数	129 名	
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について										
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある					
		市町村教委		自治会代表	○ ボランティアの団体がある(組織化されている)					
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表	○	PTA代表	○ ボランティアと学校の情報交換会がある					
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	○	学校長・教頭以外の学校職員	○ ボランティアの方を対象とした研修会がある					
名称	箕輪東小CS運営委員会			[その他の委員]*具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター	1 人
				・長寿(高齢者)クラブ代表 ・なつめ文庫(読書ボランティア)代表 ・クラブ講師代表 ・見守り隊(登下校のボランティア)代表					地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)	0 人
会議開催数(予定)	2	回	今年度開催日(予定)	5月20日(金) 2月2日(木)			中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		地域住民	
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況										
学校教育目標	正しく 強く 美しく									
地域と共有された育てたい子どもの姿	学校・家庭・地域で、自分から進んで挨拶をし、地域の温かさを知って、地域の良さを見つけ、地域を元気にしていく子ども									
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況					
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1			学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。	○	
2	学校運営への必要な支援について			○	2			地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。	○	
3	地域の実情や課題について				3			ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて				4			協働活動に参加したボランティアの人数	107 人	
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				4			ボランティア登録者人数	600 人	
		登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食	休み時間
		清掃		ICT		学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習
		土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(子どもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)		遠足・登山	キャリア教育(職場体験を含む)
		人権教育		国際理解		託児				
地域学校協働活動の概要	学校・家庭・地域の協働した取組例									
			読み聞かせ(通年)		総合的な学習の時間・地域行事について(7/20)		校長講話・地域の方のお話(9/8)			
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)										
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)										
(校長講話・地域の方のお話) 校長講話の中で、学校長が依頼した地域の方のお話を聞いた。5月、9月、2月の3回計画されているうち、5月と9月は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、全校が各教室で配信された講話を見た。子ども達は、実際に地域の方に会うことはできなかったが、地域にやってくるアサギマダラの話から地域の自然や地域の方の活動に興味をもったり、学区の地名の由来を聞いて地域の歴史について学んだりすることができた。										

学校の概要		学校名	南箕輪村 立 南箕輪小 学校		学校長	大島 俊彦		児童生徒数	769 名						
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について															
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について									
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○ 会議の委員構成				○ ボランティアのリストがある									
		市町村教委		自治会代表		ボランティアの団体がある(組織化されている)									
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表		PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある									
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		学校長・教頭以外の学校職員		ボランティアの方を対象とした研修会がある									
名称	桜香丘応援隊		[その他の委員]*具体的な役職名を記入				学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター		1 人				
			地域住民						地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)				人		
会議開催数(予定)	2	回	今年度開催日(予定)		・5月12日 ・2月(予定)		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		地域住民						
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)									
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況															
学校教育目標	考えよう 仲良くなろう きたえよう														
地域と共有された育てたい子どもの姿	人・もの・ことに意欲的に関わろうとする子ども 一人一人が輝く活動の中で互いに認め合う子ども 気づき・考え・実行するたくましさをもつ子ども														
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況									
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について				○	1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。				○					
2	学校運営への必要な支援について				○										
3	地域の実情や課題について				○	2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。				○					
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて				○	3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)									
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				○	4 協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数	620 人						
								参加者延べ人数	90 人						
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食	休み時間						
	清掃		ICT		学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習						
	土日・長期休業教科・体験学習	○	地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(こどもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)		遠足・登山	○	キャリア教育(職場体験を含む)					
	人権教育		国際理解		託児										
	学校・家庭・地域の協働した取組例														
PTA作業(6/18)						環境整備作業[花壇・プランター](4/28)						5学年田植え学習(6/3)			
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)															
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)															
<p>本校では、桜香丘応援隊(地域ボランティア)の皆様が、校地内の環境整備(花壇の整備・花の植え替え・樹木の剪定作業等)や、学校行事(低学年遠足・マラソン大会・交通安全教室等)の補助、5学年総合的な学習の時間(米作り)や各種クラブ活動等の指導・補助をしてくださっている。</p> <p>米作りは通年の学習であり、5学年が「田植え・稲刈り・脱穀」等の活動内容を仕組んでいるが、その際には地域の方々を指導者に迎え、現地で手ほどきを受けながら活動に臨むよう進めている。子どもたちは皆、地域でお米を育てている方々の労苦を知り「おいしいお米を作るためには、大変な手間をかけなくてはいけない」ということを、体験を通して学ぶことができています。</p> <p>また、稲刈り等危険を伴う作業を行う際には、地域ボランティアの皆様方に加え、保護者の方々にも声をかけさせていただき、複数の指導者が見守る中、安全に学習を行うことができた。</p>															

学校の概要		学校名	南箕輪村	立 南部小	学校	伊藤 幹高	児童生徒数	256 名			
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について											
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について						
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○ 会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある						
		市町村教委		○	自治会代表		○	○ ボランティアの団体がある(組織化されている)			
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表		○	PTA代表		○	○ ボランティアと学校の情報交換会がある			
		地域コーディネーターや 地域学校協働活動推進員		○	学校長・教頭以外の 学校職員		○	○ ボランティアの方を対象とした研修会がある			
名称	南部小ふくろうの会		[その他の委員]※具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体 や地域との連携調整を行う コーディネーター等が学校 職員以外にいます(それぞ れの人数を記入)		地域コーディネーター 1 人			
						地域学校協働活 動推進員(教育 委員会の委嘱を 受けた者)		人			
会議 開催数 (予定)	2	回	今年度 開催日 (予定)	第1回 令和4年5月6日 第2回 令和5年3月3日		中心的なコーディネーター の立場(リストより選択)		学校職員(教頭及び教頭以外の職員)			
						具体的な役職(その他を選択し た場合は立場・役職を記入)		教頭			
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況											
学校教育目標	学校目標 きらきらと みんながみんな かがやく学校 教育目標 自立して 自分の足で 自分らしく歩く子ども ~ひとりでもできる みんなとできる~										
地域と共有され た育てたい子 どもの姿	自分の考えをもち 自ら行動できる子ども 自他を認め合い 支え合える子ども										
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況						
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子ども の姿」が共有されている。	○			
2	学校運営への必要な支援について			○							
3	地域の実情や課題について			○	2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有 できている。	○			
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて				3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。 (専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)				
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				4		協働活動に参加したボランティアの 人数	ボランティア 登録者人数 278 人 参加者延べ 人数 216 人			
地域学校 協働活 動の概 要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食	休み時間		
	清掃		ICT		学習ボランティア	○	総合的な学習の 時間支援	○	コロナウイルス対策 の消毒・清掃	放課後教科・ 体験学習	
	土日・長期休業 教科・体験学習		地域の伝統文化の 継承に係る活動		子ども食堂(子ども カフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山	○	キャリア教育(職場 体験を含む)
	人権教育		国際理解		託児						
	学校・家庭・地域 の協働した取組 例										
		5年総合米作り体験(稲刈り:10月3日)		4年総合キャリア 上農との交流		3年総合りんご学習(7月1日他)					
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)											
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)											
3年総合りんご学習(地域の農業学習) 南箕輪でりんご園を営んでいる加藤さんの農園にお邪魔し、受粉(今年は活動が間に合わず行っていない)、摘果、生長の観察、収穫の学習 を行っている。今年はそれに加え、地域の方とのふれあいの場を広げるために、JAにご協力いただきながらスイートコーンの収穫や選果場の 見学など、地域の農業について学習を進めてきた。 子どもたちは、摘果の体験から作業の難しさを知り、90才になる加藤さんのお話から、消毒や広い畑の摘果をひとりで全部を行っていることの 大変さに気づくなど農業の大変さを感じる姿が見られた。また、生長の観察のたびに大きくなっているりんごに、生長の喜び、そこから生まれる 農業の楽しさに触れる機会になっている。さらに、選果場の見学など地域の農業関係の見学では、選別から各地への配送なども知ることが でき、自分たちの食生活が生産者やそれをお店へ運んでくれる人などたくさんの人に支えられていることを知り、感謝の気持ちをもつようになっ た。今後は、関わってきた方々にお礼の活動ができるように進めていく予定である。											

学校の概要		学校名	伊那市	立伊那小	学校	学校長	福田 弘彦	児童生徒数	596 名
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について									
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について				
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○ 会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある				
		市町村教委		自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)			
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○ 公民館代表		○ PTA代表		ボランティアと学校の情報交換会がある			
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の学校職員		ボランティアの方を対象とした研修会がある			
名称	みまよせの子等を育てる会		[その他の委員]*具体的な役職名を記入 交通安全協会代表			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター	1 人
								地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)	人
会議開催数(予定)	2	回	今年度開催日(予定)		5月17日 11月29日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		学校職員(教頭及び教頭以外の職員)
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)			
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況									
学校教育目標	眞事 眞言 誠								
地域と共有された育てたい子どもの姿	①明るく元気で、やる気のある礼儀正しい子どもを育てる。②地域の教育力を高め、地域に寄与する子どもを育てる。③あらゆる危険や非行から子どもを守るために、危機管理を行う。④伊那小学校を地域に開かれた学校にする。								
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況				
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○		1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○
2	学校運営への必要な支援について		○						
3	地域の実情や課題について		○		2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○		3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		
5	教職員の任用に関する一般的な要望について		○		4		協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 58 人 参加者延べ人数 32 人
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	給食	休み時間	
	清掃		ICT		学習ボランティア	○ 総合的な学習の時間支援	○ コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習	
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(こどもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)	遠足・登山	キャリア教育(職場体験を含む)	
	人権教育		国際理解		託児				
	学校・家庭・地域の協働した取組例					写真			
		4年運動会南中ソーラン地域講師指導(9/15)		親子文庫の方による読み聞かせ(7/12)		活動名(日付)			
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)									
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)									
読書週間では3年ぶりに親子文庫の方の読み聞かせを行った。コロナ禍で2年間実施できておらず心配であったが、会員の皆さんも子どもたちも楽しいひとときを過ごすことができた。また、今までは親子文庫の方は保護者だけだったが、地域の方にも会員になっていただいた。さらに活動が発展していくとよい。									

学校の概要		学校名	伊那市	立伊那東小	学校	校長	浦山 哲雄	児童生徒数	599 名		
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について											
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について						
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある			
		市町村教委		自治会代表		○		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)			
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表			PTA代表			○ ボランティアと学校の情報交換会がある			
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の学校職員			○ ボランティアの方を対象とした研修会がある				
名称		伊那東小信州型CS運営委員会			[その他の委員]※具体的な役職名を記入 ・各ボランティア代表			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外に在るか(それぞれの人数を記入)			
		地域コーディネーター		4		人					
		地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		1		人					
会議開催数(予定)		3		回		今年度開催日(予定)		7月14日(木)、12月、2月			
		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)			保護者(PTA)						
		具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)			各ボランティア代表						
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況											
学校教育目標		かしこく やさしく たくましく ～互いのよさを認め、切磋琢磨しあいながら共に生きる道を切り拓いていく東小の子～									
地域と共有された育てたい子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> ・ふるさとを愛し、ふるさとの人々に感謝する気持ちをもてる子ども。 ・地域の人々の生き方に学び、自分の生き方を切り開いていく子ども。 									
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況						
1		上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○		1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		
2		学校運営への必要な支援について			○		2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		
3		地域の実情や課題について			○		3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		
4		子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○		4		協働活動に参加したボランティアの人数		
5		教職員の任用に関する一般的な要望について			○		60		人		
							ボランティア登録者人数		6		
							参加者延べ人数		6		
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り		○		読み聞かせ		○		児童会、生徒会	
		清掃				ICT				学習ボランティア	
		土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動				子ども食堂(子どもカフェ)との連携		○	
		人権教育		国際理解				託児			
		クラブ、部活動				給食		○		休み時間	
		総合的な学習の時間支援		○		コロナウイルス対策の消毒・清掃				放課後教科・体験学習	
		防災学習(避難訓練)				遠足・登山				キャリア教育(職場体験を含む)	
		A農業支援2年(大豆:5月)		B農業支援3年(ネギ:6月)		C読み聞かせ1年(10月)					
代表的な協働した活動の取組例											
(上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)											
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)											
【AおよびB 農業支援】											
A:2年生の大豆作りでは、畝を立てていただいた後、マルチ敷きの仕方を教わった。子どもたちは土の感触を楽しみながら、種を均等な間隔で蒔けるように作ってくださった器具もあり、わかりやすく指導いただいた。子どもたちは大豆作りにより関心を持つことができた。											
B:3年生のネギづくりでは、ネギづくりをされている農家さんをお招きして、生産に向けての苦労や工夫についてお話いただく機会を設けた。プロジェクターでの画面をみながら、目の前にあるネギを見て、日頃何気なく食しているネギにも、たくさんの苦労や工夫があることを知り、より野菜作りに関心をもつことができた。											

学校の概要		学校名	伊那市 立 伊那北小 学校	学校長	久保田 雅樹	児童生徒数	291 名					
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について												
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について								
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○		会議の委員構成		○ ボランティアのリストがある						
				市町村教委		○						
				自治会代表		○						
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○		公民館代表		○						
				PTA代表		○						
				地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○						
				学校長・教頭以外の学校職員		○						
学校応援団運営委員会		○		[その他の委員]※具体的な役職名を記入 地域住民、ボランティア代表		ボランティアの方を対象とした研修会がある						
名称	学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター		5		人					
	地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)						人					
会議開催数(予定)	3	回	今年度開催日(予定)	学校応援団運営委員会① 5月23日(月) 学校応援団運営委員会② 9月28日(水) 学校応援団運営委員会③ 1月25日(水)		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択) 地域住民						
				具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)								
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況												
学校教育目標		かしこく なかよく たくましく 伊那北の自然・地域とともにある学校 すべての子に学びの場がある学校										
地域と共有された育てたい子どもの姿		「わたしていいな」自己肯定感をもてる子 「わたしはこう思う」自分の思いを自分の言葉で語れる子 「○○さんだいじょうぶ」思いやることのできる子										
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況								
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。	○				
2	学校運営への必要な支援について			○	2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。	○				
3	地域の実情や課題について			○	3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)	○				
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	4		協働活動に参加したボランティアの人数	180 人				
5	教職員の任用に関する一般的な要望について			○	4		参加者延べ人数	40 人				
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食		休み時間		
	清掃		ICT		学習ボランティア	○	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習	○
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(子どもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)	
	人権教育		国際理解		託児							
	学校・家庭・地域の協働した取組例											
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)												
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)												
里山学習として、3年生はキノコの駒うち体験、4年生は炭焼き体験、5年生は田んぼの活動、6年生は里山整備作業を行っている。本年度の5年生は、田んぼの学習として「里山を守る会」の皆さんの指導のもと、代掻き、田植え、稲刈り、脱穀、そして収穫祭ではお餅つきを行った。また、毎月15日に行われるいいききサロン(2時間目の休み時間に地域の方から昔の遊びを教えてください)も、新型コロナウイルスの感染状況を考慮しながら行うことができた。												




学校の概要		学校名	伊那市 立 伊那西小 学校	学校長	有賀 大	児童生徒数	58 名					
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について												
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について								
運営委員会(信州型コミュニティスクール)	○	会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある							
		市町村教委		自治会代表	○	○ ボランティアの団体がある(組織化されている)						
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表	○	PTA代表	○	○ ボランティアと学校の情報交換会がある						
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	○	学校長・教頭以外の学校職員	○	○ ボランティアの方を対象とした研修会がある						
名称	伊那西小学校コミュニティスクール(伊那西応援隊)			[その他の委員]※具体的な役職名を記入 伊那西地区を考える会事務局 同窓会長 各種ボランティア代表		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)	地域コーディネーター 5 人 地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者) 人					
	会議開催数(予定)	3	回	今年度開催日(予定)	5月20日 7月29日 2月21日	中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)	地域住民					
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)	伊那西地区を考える会事務局 局長					
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況												
学校教育目標	「かしこさ やさしさ たくましさ」											
地域と共有された育てたい子どもの姿	地域を愛し、自然を愛し、仲間を愛し、自分を愛することができる子どもを育てよう											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況								
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○					
2	学校運営への必要な支援について			○								
3	地域の実情や課題について			○	2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○					
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○					
5	教職員の任用に関する一般的な要望について			○	4 協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 54 人 参加者延べ人数 106 人					
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食		休み時間		
	清掃	○	ICT		学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習		
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(子どもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)		遠足・登山	○	キャリア教育(職場体験を含む)	○	
	人権教育		国際理解		託児							
学校・家庭・地域の協働した取組例							読み聞かせボランティア(6月～2月)		アンネのバラボランティア交流会(6月8日)		地域の皆雅による草刈り(8月20日)	
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)												
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)												
<p>アンネのバラボランティアさんと一緒に 16名のバラボランティアさんが、愛情深く手入れをしてくださる伊那西小学校のアンネのバラ。 6月8日、バラボランティアさんと6年生との交流会を行った。アンネのバラがアンネ・フランクに由来すること、平和を祈るバラであることを知った子どもたちは、「図書館でアンネの日記を読みたい。」「私たちも、アンネのバラを大事に守っていきたい。」と思いを語った。 11月、6年生の子どもたちは、バラの根元に敷き詰めるための枯れた松葉を、林間(学校林)からたくさん集め、バラボランティアさんに届けた。バラボランティアさんの喜ぶ姿を見た6年生の子どもたちは、「がんばってよかった。ぼくたちが卒業しても、伊那西小学校に、アンネのバラがずっと咲いてほしい。」と思いを語った。</p>												

学校の概要		学校名	伊那市 立 西箕輪小 学校			学校長	太田 聖尚		児童生徒数	383 名													
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について																							
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について																	
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○		会議の委員構成				○ ボランティアのリストがある															
				市町村教委		自治会代表		○		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)													
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)				公民館代表		PTA代表		○		○ ボランティアと学校の情報交換会がある													
				地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		学校長・教頭以外の学校職員		○		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある													
名称		西箕輪コミュニティスクール		[その他の委員]※具体的な役職名を記入 育成会長、学習支援員、スポーツ少年団代表者、部活動指導員、伊那市(西箕輪支所長)				学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外に在るか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 2 人													
								地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		人													
会議開催数(予定)		2 回		今年度開催日(予定)		4月21日 12月15日(予定)		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		公民館職員(公民館長・公民館主事)													
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		公民館長													
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況																							
学校教育目標		よく考え すすんでやりぬく子 体を鍛え たくましい子 美しき温かさのわかる 心豊かな子																					
地域と共有された育てたい子どもの姿		「友だち、保護者、地域とのつながりの中で生きる子ども」 ・あいさつができる子ども ・地域の行事に積極的に参加できる子ども ・ふるさとを知る子ども																					
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況																	
1		上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について				○		1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○											
2		学校運営への必要な支援について				○		2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○											
3		地域の実情や課題について				○		3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○											
4		子どもにどんな地域貢献ができるかについて				○		4		協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 350 人											
5		教職員の任用に関する一般的な要望について				○		4		参加者延べ人数		70 人											
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り		○		読み聞かせ		○		児童会、生徒会		クラブ、部活動		○		給食		○		休み時間			
		清掃				ICT				学習ボランティア		○		総合的な学習の時間支援		○		コロナウイルス対策の消毒・清掃		○		放課後教科・体験学習	
		土日・長期休業教科・体験学習				地域の伝統文化の継承に係る活動		○		子ども食堂(こどもカフェ)との連携				防災学習(避難訓練)				遠足・登山				キャリア教育(職場体験を含む)	
		人権教育				国際理解				託児													
学校・家庭・地域の協働した取組例																							
		2年生 クマの生態学習会(9月15日)				5年生 稲刈り(9月27日)				4, 5, 6年生 クラブ活動(6月21日)													
		代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)																					
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)																							
・本校学区在住で信州大学農学部でツキノワグマの生態について研究している先生に、クマの生態学習会で指導してもらった。食性や性格等について正しい知識を得るとともに、日常生活における対策についても学ぶことができた。																							


学校の概要		学校名	伊那市 立 東春近小 学校			学校長	小池 創		児童生徒数	290 名			
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について													
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について							
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○ 会議の委員構成				○ ボランティアのリストがある							
		市町村教委		自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)							
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○ 公民館代表		○ PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある							
		○ 地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の学校職員		ボランティアの方を対象とした研修会がある							
名称		東春近小コミュニティスクール運営委員会				[その他の委員]※具体的な役職名を記入		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 1 人			
		地区学識経験者 主任児童委員 民生委員長 東春近子ども育成会長						地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		人			
会議開催数(予定)		2 回		今年度開催日(予定) 7月7日 2月3日(予定)		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		公民館職員(公民館長・公民館主事)					
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		公民館長					
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況													
学校教育目標		〇たくましく 思いやりのある 子ども 《失敗しても だいじょうぶ やってみよう》 ・伝え合って深めよう～考えを持つ～ ・自分からあいさつを広げよう ・よく遊び、よく働こう											
地域と共有された育てたい子どもの姿		地域とのかかわりを増やし、地域への親しみを深めていくことで、地域のもの、こと、ひとを大切にしようとする子どもを育てたい。											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況							
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○				1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。					
2 学校運営への必要な支援について													
3 地域の実情や課題について						2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。					
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて						3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)					
5 教職員の任用に関する一般的な要望について						4		協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 43 人			
								参加者延べ人数		76 人			
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り ○		読み聞かせ ○		児童会、生徒会		クラブ、部活動		給食		休み時間	
		清掃		ICT		学習ボランティア ○		総合的な学習の時間支援 ○		コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習	
		土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動 ○		子ども食堂(子どもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)	
		人権教育		国際理解		託児							
													
		安全見守り隊(通年)		5年 脱穀(10月26日)		6年 太鼓演奏の指導(7月)							
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)													
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)													
○広い学区において、通行量の多い道路も多く、朝夕の登下校時の児童の安全確保のため、安全見守り隊の皆さんに街頭指導に立っていただいている。学校では、4月当初に安全見守り隊の方々にご来校いただき、紹介式を行った。例年であれば、体育館に集まって、地区ごとに分かれてあいさつをするところではあるが、コロナの関係で集まることができず、放送で挨拶をしてもらった。 ○5年生の米づくりや2年生の大豆づくりでは、年間を通して、作業の指導をしていただいた。機械や肥料、薬剤などの手配もしていただき、学校だけでは、できないところを助言していただきありがたかった。 ○6年生の総合的な学習の時間に太鼓の活動に取り組み、地域に伝わる「車屋太鼓」の皆さんをお招きして、太鼓の指導をしていただいた。コロナの影響でお祭りや各種イベントが縮小される中、校内音楽会や太鼓交流会で披露することができ、地域の伝統行事に触れるいい機会となった。													

学校の概要		学校名	伊那市	立富県小	学校	校長	小出 豊	児童生徒数	123 名	
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について										
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある					
		市町村教委		自治会代表	○ ボランティアの団体がある(組織化されている)					
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表	○	PTA代表	○ ボランティアと学校の情報交換会がある					
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	○	学校長・教頭以外の学校職員	○ ボランティアの方を対象とした研修会がある					
名称	とみがたっ子応援団運営委員会		[その他の委員]※具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター	4 人	
			地域住民の方々					地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)	人	
会議開催数(予定)	2 回	今年度開催日(予定)	5月20日・2月16日			中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		地域住民		
					具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)					
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況										
学校教育目標	「自立共同の力を高める子ども」 ○よく考え、やりぬく子ども ○仲よくみんなと支え合う子ども ○いつも明るくじょうぶな子ども									
地域と共有された育てたい子どもの姿	①郷土を愛し、地域(富県)に誇りをもてることも ②学校教育目標達成についてご理解、ご協力をお願いしている。									
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況					
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○	
2	学校運営への必要な支援について			○						
3	地域の実情や課題について			○	2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。			
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)			
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				4		協働活動に参加したボランティアの人数		40 人	
							ボランティア登録者人数		70 人	
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食	○	休み時間
	清掃		ICT		学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	○	放課後教科・体験学習
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(子どもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)		遠足・登山	○	キャリア教育(職場体験を含む)
	人権教育		国際理解		託児					
学校・家庭・地域の協働した取組例										
		大豆の種まき(7月1日)		しめ縄づくり体験(12月17日)		読み聞かせボランティア(4~2月)				
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)										
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)										
地域の「貝沼の自然を守る会」にご協力いただき、栽培活動に取り組んでいる。(大豆、小麦、そば)上記の写真は2年生が大豆をまいている場面であるが、この活動の直前には、同じ場所で4年生の麦の収穫が行われた。本校は自然豊かな環境の中にはあるが、実際に農業体験をしている児童は少ない。このように、土地を無償で提供していただき、経験豊富な方々から指導していただきながら収穫までの体験ができることは、児童にとって貴重な機会となっている。この活動のコーディネーターの方からは、「地域の方にとっても、子どもたちとかかわれることは励みにつながる。」という言葉をいただいた。このことから、地域・学校の両方にメリットがある活動であると考えられる。また、収穫した大豆は、これも地域の方のご指導の下みそに加工されたり、小麦は保育園との交流活動に利用したりと、学習の展開が広がっている。										




学校の概要		学校名	伊那市立	立新山小	学校	学校長	曾根原 浩	児童生徒数	47 名													
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について																						
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について																	
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある														
		市町村教委		自治会代表		○		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)														
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表			PTA代表			○ ボランティアと学校の情報交換会がある														
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		学校長・教頭以外の学校職員			○		ボランティアの方を対象とした研修会がある													
名称	新山小学校コミュニティスクール運営委員会				[その他の委員]※具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)														
					<ul style="list-style-type: none"> ・地域内市議会議員 ・保育園園長 ・地域有識者 ・保育園保護者会長 ・民生児童委員 ・同窓会会長 ・新山定住促進協議会 ・区長 			地域コーディネーター	1 人													
地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)							0 人															
会議開催数(予定)		5 回		今年度開催日(予定)		4月28日 7月14日 9月27日 11月18日 2月8日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)														
								学校職員(教頭及び教頭以外の職員)														
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)														
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況																						
学校教育目標		たくましく 心豊かな 新山っ子																				
地域と共有された育てたい子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> ○よく考え自分から実践する子 ○友の中で自分らしさを表現する子 ○健康に関心をもち心身を鍛える子 																				
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況																	
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○		1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。			○													
2 学校運営への必要な支援について		○		2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。			○													
3 地域の実情や課題について		○		3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)																
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○		4		協働活動に参加したボランティアの人数			ボランティア登録者人数 22 人													
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○		5		参加者延べ人数			40 人													
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り		○		読み聞かせ		○		児童会、生徒会		○		クラブ、部活動		○		給食		○		休み時間	
	清掃		○		ICT		○		学習ボランティア		○		総合的な学習の時間支援		○		コロナウイルス対策の消毒・清掃		○		放課後教科・体験学習	
	土日・長期休業教科・体験学習		○		地域の伝統文化の継承に係る活動		○		子ども食堂(子どもカフェ)との連携		○		遠足・登山		○		防災学習(避難訓練)		○		キャリア教育(職場体験を含む)	
	人権教育		○		国際理解		○		託児		○				○				○			
	学校・家庭・地域の協働した取組例		○		合鴨の小屋作り(R4.5.20)		○		竹の子採り(R4.6.10)		○		CS清掃ボランティア(R4. 7.26)		○				○			
代表的な協働した活動の取組例																						
(上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)																						
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)																						
豊かな自然の中で、児童は伸び伸びと生活している。ハッチョウトンボの観察会・トマト狩り・竹の子狩り・新山まつりなど新山の特色を生かした活動では、地域の方や自然とふれ合う中で、郷土への愛着を育む「ふるさと学習」になっている。また、それらの活動は、学校を核とした地域の活性化や地域の教育力の向上につながっている。これからも、地域と共に子どもを育てるという方向性を大事にしていきたい。																						

学校の概要		学校名	伊那市立美篤小		学校	校長	大日野 剛		児童生徒数	295 名									
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について																			
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について													
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○				会議の委員構成				○		ボランティアのリストがある							
		市町村教委				自治会代表						ボランティアの団体がある(組織化されている)							
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○				公民館代表		○		PTA代表		○		ボランティアと学校の情報交換会がある					
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○		学校長・教頭以外の学校職員		○						ボランティアの方を対象とした研修会がある					
名称		みすずっ子応援委員会				[その他の委員]*具体的な役職名を記入				学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター		1 人					
						地域有識者・歴代PTA会長会代表・農事組合法人理事・資料館運営委員長・クラブ地域講師代表・青少年育成会長・読み聞かせボランティア代表・市社協地域福祉コーディネーター・市社協ボランティアコーディネーター				地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)				1 人					
会議開催数(予定)		2 回		今年度開催日(予定)		6月10日 2月15日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		公民館職員(公民館長・公民館主事)									
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)				公民館長									
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況																			
学校教育目標		本気 根気 和気 元気																	
地域と共有された育てたい子どもの姿		本年度の重点 「本気」・・・学習:聞こう話そう 本気で学ぼう 「根気」・・・そうじ:時間いっぱいびかびかそうじ 「和気」・・・あいさつ:笑顔であいさつ 「元気」・・・体と命:体を動かし思い切り遊ぼう 自分(命)も友達(命)も大切に																	
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況													
1		上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について				○		1				学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。							
2		学校運営への必要な支援について				○													
3		地域の実情や課題について						2				地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。							
4		子どもにどんな地域貢献ができるかについて						3				ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)							
5		教職員の任用に関する一般的な要望について						4		協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 90 人 参加者延べ人数 200 人							
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り		○		読み聞かせ		○		児童会、生徒会		クラブ、部活動		給食		休み時間			
		清掃				ICT				学習ボランティア		総合的な学習の時間支援		○		コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習	
		土日・長期休業教科・体験学習		○		地域の伝統文化の継承に係る活動		○		子ども食堂(子どもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)				遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)	
		人権教育				国際理解				託児									
																			
		春・秋の桜並木活動(4月13日・10月31日)				四者共催による親子青空教室(5~12月)				開校記念日資料館体験学習(12月1日)									
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)																			
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)																			
《資料館体験学習》毎年12月1日の開校記念日に合わせ、現校舎横にある資料館(旧木造校舎)に展示されている道具等を使った体験学習を行うことが恒例となっている。縄ない・舞割り式発火法・篤竹(すずたけ)細工・縄文時代の丸太加工(特別講師:雨宮国広さん)・もろこしもぎ・鶏のえさやり・手押しポンプ・石臼でのきな粉づくり・薪風呂・味噌づくり・資料館考古館見学・機織り等、地域の委員の皆さんをはじめ、30人程の方が講師となり、いろいろな体験活動が行われる。現代では使われなくなり、目にすることさえ珍しくなった道具を実際に動かして直接触れながらの体験活動とおし、昔の暮らしに触れ、その大変さを感じながら、改めて今の暮らしの便利さや快適さを学ぶ貴重な機会となっている。さらに、地域産業であった篤竹職人の仕事ぶりや縄ない、味噌づくり等引継がれている先達の技術に触れることをとおして、環境問題や食の循環、地球に暮らす生命としての自分を見つめ直す等、教科学習だけでは学ぶことのできない豊かな学びにつながっている。なお、資料館の運営は資料館運営委員会として、地域の方が中心となって関わってくださっている。																			

学校の概要		学校名	伊那市	立手良小	学校	学校長	浜田 康敬	児童生徒数	100 名												
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について																					
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について																
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○			会議の委員構成			ボランティアのリストがある													
		市町村教委		自治会代表		○		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)													
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○			公民館代表		○		○ ボランティアと学校の情報交換会がある												
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○		PTA代表		○													
				○		学校長・教頭以外の学校職員		○													
名称		手良の子どもを守り育てる会			[その他の委員]*具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)													
					学校評議員 主任児童委員 子ども育成会会長 交通安全協会会長 環境ボランティア代表 読み聞かせボランティア代表 消毒ボランティア代表 公民館			地域コーディネーター 1 人													
								地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者) 1 人													
会議開催数(予定)		2 回		今年度開催日(予定)			4月26日 本年度の活動計画、それぞれの立場からの意見や要望 12月8日 学校支援ボランティアのこれまでのまとめと次年度の見通し、授業参観、情報交換		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)												
								公民館職員(公民館長・公民館主事)													
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)													
								公民館長													
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況																					
学校教育目標		やさしい子【情操】 かしこい子【創造】 やりぬく子【意志】 元気な子【活力】																			
地域と共有された育てたい子どもの姿		心身共に健康で、自分や人・手良を好きになり、友と共に学び続ける手良の子ども																			
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況																
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○			1			学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○											
2 学校運営への必要な支援について		○			2			地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○											
3 地域の実情や課題について		○			3			ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○											
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○			4			協働活動に参加したボランティアの人数		66 人											
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○			4			参加者延べ人数		4435 人											
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り		○		読み聞かせ		○		児童会、生徒会		クラブ、部活動		給食		休み時間					
		清掃		○		ICT		○		学習ボランティア		○		総合的な学習の時間支援		○		コロナウイルス対策の消毒・清掃		○	
		土日・長期休業教科・体験学習		○		地域の伝統文化の継承に係る活動		○		子ども食堂(子どもカフェ)との連携		○		防災学習(避難訓練)		遠足・登山		○		キャリア教育(職場体験を含む)	
		人権教育		○		国際理解		○		託児		○									
																					
		トランペット鼓隊の指導(5月12日)		まめまめクラブ昔の遊び体験(6月13日)		子どもの安全見守り隊紹介式(4月15日)															
代表的な協働した活動の取組例																					
(上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)																					
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)																					
<ul style="list-style-type: none"> 本校の伝統である「トランペット鼓隊」の演奏指導は、音楽専科によるものであったが、楽器の寄贈があった当時の本校卒業生によって、演奏や隊形移動などの指導を受けることができた。 楽器の指導ばかりでなく、楽器の手入れまで協力をいただくことができ、数年来手が入っていなかった楽器の清掃を進めていただき、よりよい音を響かせることができた。 コロナ禍で活動は制限されたが、運動会でのオープニングでは、ご指導いただいたことを大切にしながら、児童は自信をもって発表することができた。 一連の活動を通して、楽器を大切にしたいボランティアの方の思いに触れ、手良小学校の伝統を守っていきたいという気持ちが児童に生まれた。更に演奏の機会を持ち、発表したいという意欲を子どもたちが持つことができた。5年生では、音楽会で発表したいという願いから、初めて音楽会でトランペット鼓隊として発表することができた。 																					

学校の概要		学校名	伊那市 立 西春近北小 学校	学校長	北原 克己	児童生徒数	173 名					
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について												
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について								
運営委員会(信州型コミュニティスクール)	○	会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある							
		市町村教委		自治会代表	○	○ ボランティアの団体がある(組織化されている)						
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)	○	公民館代表	○	PTA代表	○	○ ボランティアと学校の情報交換会がある						
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	○	学校長・教頭以外の学校職員	○	ボランティアの方を対象とした研修会がある						
名称	[その他の委員]※具体的な役職名を記入 ・学校評議員、同窓会正副会長、同窓会幹事、同窓会監事、主任民生児童委員、財産区議会議長、区長、スポーツ少年団長、読み聞かせ代表、育成会会長、PTA元正副会長、PTA正副会長			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)	地域コーディネーター	3	人					
				地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		0	人					
会議開催数(予定)	3	回	今年度開催日(予定) 第一回運営委員会 5/12(木) 第二回運営委員会 10/5(水) 第三回運営委員会 2/8(水) この他に、コーディネーター会議を運営委員会開催の前 後で10月までに2回行っている。	中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)	地域住民							
				具体的な役職(その他を選択した場合)は立場・役職を記入)								
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況												
学校教育目標	○明るい子ども ○あたたかい子ども ○かしこい子ども ○たくましい子ども											
地域と共有された育てたい子どもの姿	○楽しい学校・魅力ある学校・・・「よく遊びよく学ぶ」の精神が息づく学校 「からだ」を使って子ども職員も学べる学校 ○家庭・地域に信頼され、共に歩む学校 ○人を大切にできる・しなやかな子ども・・・自分の発する「ことば」大切にできる子ども 相手の話を聴く子ども やわらかく、しなやかな											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況								
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について	○	1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。	○							
2	学校運営への必要な支援について	○										
3	地域の実情や課題について	○	2	地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。	○							
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて	○	3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)	○							
5	教職員の任用に関する一般的な要望について	○	4	協働活動に参加したボランティアの人数	60	人	参加者延べ人数 104 人					
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	○	クラブ、部活動	○	給食		休み時間	
	清掃		ICT		学習ボランティア	○	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習	○
	土日・長期休業教科・体験学習	○	地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(子どもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山	○	キャリア教育(職場体験を含む)	
	人権教育		国際理解	○	託児	○						
												
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)												
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)												
・コーディネーター会が中心になって講師やボランティアを募り、安全見守り・読み聞かせ・行事・環境・学習(英語・音楽・放課後学習・家庭科【ミシン】・理科・クラブ【囲碁・手芸】)の各支援に取り組んでいる。その中で年間を通して多くのボランティアの方々に教科学習のサポーターとして支援をしていただくことができた。理科では5年「流れる水の働き」、6年「地層」の単元で、それぞれ支援に入っていたが、校外へ出かけて地域を教材に学習を組み立て、実際に見て触れて感じて学ぶ学習を進めることができた。このほか、家庭科では5・6年「ミシン」、外国語では3年生以上の授業支援に加え、1・2年生で英語遊びを取り入れて楽しみながら英語に親しむ学習を行うことができた。教材研究、道具や教具・プリント資料や学習カードの準備等、ボランティアの方からアドバイスをいただきながら授業を協力して進めることができ、担任にとっても学ぶことの多い貴重な機会となった。また、担任の授業準備の時間が充実した中で短縮され、働き方改革にも繋がりが大変ありがたかった。児童は、多様な方々から多様な学びを得ることができた。また多くの目で見ていただく良さを感じた。参加したボランティアの皆さんからは、児童とのかかわりが楽しかった、学校の大変さがわかったとの感想をいただき、学校の様子を肌で感じていただくよい交流の機会にもなった。今後も取り組みを継続し、さらに、地域の方の知識や体験、技能などを活動に生かし、教師も児童とともに学ばせていただきたい。												


学校の概要		学校名	伊那市 立 西春近南小 学校	学校長	松崎 和美	児童生徒数	122 名			
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について										
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について						
運営委員会(信州型コミュニティスクール)	○	会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある					
		市町村教委	○	自治会代表	○	○ ボランティアの団体がある(組織化されている)				
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)	○	公民館代表	○	PTA代表	○	○ ボランティアと学校の情報交換会がある				
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	○	学校長・教頭以外の学校職員	○	○ ボランティアの方を対象とした研修会がある				
名称	○西春近南コミュニティスクール運営支援委員会 ○西春近南小子どもを育てる会	[その他の委員]*具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)	地域コーディネーター	1 人			
		同窓会長, 区長(自治会), 社会教育委員(市教委), 育成会長, 主任児童委員, 南小応援隊, 南小見守りボランティア(学校評議員)				地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		人		
会議開催数(予定)	3 回	今年度開催日(予定)	○第1回 5月20日(金) ○第2回 11月18日(金) ○第3回 2月8日(水)		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)	地域住民				
					具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)					
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況										
学校教育目標	「怒」の心をもって自己の生き方を拓く子どもの育成									
地域と共有された育てたい子どもの姿	○よく学びよく考える子ども ○思いやりのあるやさしい子ども ○明るく元気な子ども									
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況						
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について	○	1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。	○					
2	学校運営への必要な支援について	○								
3	地域の実情や課題について	○	2	地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。	○					
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて		3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)	○					
5	教職員の任用に関する一般的な要望について		4	協働活動に参加したボランティアの人数	約50 人	ボランティア登録者人数	約100 人			
						参加者延べ人数	約100 人			
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食		休み時間
	清掃		ICT		学習ボランティア	○	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(こどもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山	キャリア教育(職場体験を含む)
	人権教育	○	国際理解		託児					
学校・家庭・地域の協働した取組例										
	クラブ「講師」(年5回)		地域交流作業 (5月20日)		ユカイナ(小型楽器)演奏指導(各学年)					
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)										
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)										
○「ユカイナ演奏活動」 今年度「創立150周年記念事業」の一環としての取り組み。「ユカイナ」とは木の笛。材料の木は、長い間本校を見守ってきた校庭の桜の木を伐採して加工。全校児童はこの伝統ある桜の木に思いを寄せ、地域の方にご指導いただきながら、一人一人がオリジナルのデザインをしてマイユカイナを作った。その後、その楽器を使って、本校の同窓会長さんをはじめとする地域の方に、曲の演奏を教えていただく活動へと進んだ。150周年記念式典当日11月12日に向けて、朝の活動の時間に定期的に演奏練習を重ねてきている。 児童にとっては、自分だけの記念楽器「ユカイナ」の制作や演奏を地域の方々と共に行え、自分が地域に大事に見守られていることや150周年の節目の今、南小で生活している喜びを感じることができている。地域の方にとっては、児童と共に明るく、一つのことを創り上げていく喜びを味わっていただけている。										

学校の概要		学校名	伊那市	立長谷小	学校	学校長	塩澤 秀彦	児童生徒数	53 名
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について									
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について				
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○ 会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある				
		市町村教委		○ 自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)			
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表		○ PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換がある			
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の学校職員		ボランティアの方を対象とした研修会がある			
名称		長谷地区地域支え合いの会			[その他の委員]*具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)	
		社会福祉協議会 保育園長・保育園保護者会長 中学校長・中学校PTA会長 プランニングチーム代表 高齢者クラブ代表			地域コーディネーター		3 人		地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)
会議開催数(予定)		3 回		今年度開催日(予定)		5月19日(木) 9月15日(木) ※中止 2月8日(水)		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)	
								学校職員(教頭及び教頭以外の職員)	
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)	
								教頭	
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況									
学校教育目標		輝け長谷っ子 ともに学び ともに育つ							
地域と共有された育てたい子どもの姿		長谷(人・もの・こと)に学び、人とつながる。多様な価値観の育成。人と関わる力を学ぶ。郷土への愛着							
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況				
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○		1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○	
2 学校運営への必要な支援について		○		2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○	
3 地域の実情や課題について		○		3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○	
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○		4		協働活動に参加したボランティアの人数		34 人	
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○		5		ボランティア登録者人数		66 人	
						参加者延べ人数			
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り		○		読み聞かせ		○	
		清掃		○		ICT		○	
		土日・長期休業教科・体験学習		○		地域の伝統文化の継承に係る活動		○	
		人権教育		○		国際理解		○	
		児童会、生徒会		○		クラブ、部活動		○	
		学習ボランティア		○		総合的な学習の時間支援		○	
		子ども食堂(こどもカフェ)との連携		○		防災学習(避難訓練)		○	
		託児		○		給食		○	
						休み時間		○	
						コロナウイルス対策の消毒・清掃		○	
						遠足・登山		○	
						キャリア教育(職場体験を含む)		○	
学校・家庭・地域の協働した取組例									
		孝行猿集会		長谷っ子講座(マレットゴルフ)		読み聞かせ			
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)									
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)									
<p>孝行猿集会は、平成元年から始まり現在まで続いている。最近では9月の参観日の授業参観後に体育館で行っている。毎年その年の3年生が孝行猿の劇を創作している。話の大筋は変えず、登場人物の台詞・動き・挿入歌等々、子どもたちと担任や音楽専科が話し合っている。また、社会科の長谷地区の地域探検から孝行猿のお墓を見学したり地元の方にお話を聞いたりして孝行猿の劇に向けて一学期から学習を進めている。孝行猿集会では、親への感謝の気持ちを確かめる機会とし、手紙やメッセージに表して親へ届けている。</p> <p>クラスの人数が少ない分、劇では全員が大役を任されている。保護者の方は毎年楽しみにしている。コロナ流行以前は、老人福祉施設の方や地域の方々も招待していた。</p> <p>3年生は劇の発表を通して、自己表現力や発想力・演技力等付けることができた。また、昨年度から中尾座での公演も行われるようになり、コロナ禍で来校できない地域の方には好評だった。</p>									

学校の概要		学校名	伊那市	立 高遠北小	学校	学校長	中山 貴史	児童生徒数	57 名		
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について											
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について						
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある			
		市町村教委		○		自治会代表		○			
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○			公民館代表			○			
		地域コーディネーターや 地域学校協働活動推進員		○		PTA代表			○		
		○			学校長・教頭以外の 学校職員			○			
ボランティアと学校の情報交換会がある											
ボランティアの方を対象とした研修会がある											
名称	北小子どもを守る会			[その他の委員]*具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体 や地域との連携調整を行う コーディネーター等が学校 職員以外にいるか(それぞ れの人数を記入)		地域コーディネーター	4 人	
	公民館地区分館長 地区育成会長 民生児童委員							地域学校協働活 動推進員(教育 委員会の委嘱を 受けた者)			人
会議 開催数 (予定)	2	回	今年度 開催日 (予定)	R4. 7. 6	R5. 2. 1(予定)	中心的なコーディネーター の立場(リストより選択)		地域住民			
						具体的な役職(その他を選択し た場合は立場・役職を記入)					
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況											
学校教育目標	なかよし学校 がんばり学校										
地域と共有され た育てたい子ど もの姿	○なかよしの輪を広げます ○学び合い、発言力と表現力を高めます ○心と体を鍛えます										
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況						
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○		1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子ども の姿」が共有されている。			
2	学校運営への必要な支援について			○		2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有 できている。		○	
3	地域の実情や課題について			○		3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。 (専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)			
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○		4		協働活動に参加したボランティアの 人数		60 人	
5	教職員の任用に関する一般的な要望について			○		4		ボランティア 登録者人数		40 人	
		参加者延べ 人数									
地域学校 協働活 動の概 要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	給食	休み時間			
	清掃		ICT		学習ボランティア	総合的な学習の 時間支援	○	コロナウイルス対策 の消毒・清掃	放課後教科・ 体験学習	○	
	土日・長期休業 教科・体験学習		地域の伝統文化の 継承に係る活動	○	子ども食堂(子ども カフェ)との連携	防災学習(避難訓練)		遠足・登山	○	キャリア教育(職場 体験を含む)	○
	人権教育		国際理解		託児						
	学校・家庭・ 地域の協 働した取 組例										
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)											
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)											
地域の方を講師に、児童が自分の住む地区の名所や施設を見学して学ぶ全校行事「地域を学ぶ日」。学区内3地区それぞれの区長会長・育成会長・公民館分館長の方に見学について立案していただき、当日は朝からその場所に向いた。ふるさとを大切に思い、地域との連携を深めることを目的に平成21年度から続く、大切な学校行事である。今年度は、藤沢地区が太陽光発電所見学、長藤地区が小豆坂トンネルを歩き、なぜトンネルがつけられたのかを考える、三義地区が石仏(ののさま)巡りを行うことができた。地域の方に説明していただくことで、自分だけでは知ることのできないその場所や施設の意味・役割、良さを感じることができ、新たな物の見方を得たり、ふるさとへの思いを高めることにつながったりと感じられる。 ＜児童の感想から＞ ・車で通ったことはあるけど、実際に歩いて、今までの苦勞がわかったのでよかった。トンネルができて自由に行き来できるから、みよしの人にとって大切な物だとわかった。											

学校の概要		学校名	伊那市 立 高遠小 学校			学校長	下島 弘子		児童生徒数	195 名		
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について												
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について						
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○ 会議の委員構成				○ ボランティアのリストがある						
		市町村教委		自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)						
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○ 公民館代表		○ PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある						
		○ 地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の学校職員		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある						
名称	高遠小学校コミュニティスクール運営委員会		[その他の委員]*具体的な役職名を記入 ボランティア代表				学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター	1	人	
							地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)			0	人	
会議開催数(予定)	4	回	今年度開催日(予定) 6月15日 8月29日 12月15日(予定) 2月22日(予定)			中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		公民館職員(公民館長・公民館主事)				
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		公民館長				
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況												
学校教育目標	清らかで 美しく やさしく たくましい 高遠の子ら											
地域と共有された育てたい子どもの姿	【知】基礎基本の力が定着し総合的な学力がついている子ども 【徳】安心して過ごせる学級をつくれる子ども 【体】自分の健康を自分でつくる子ども											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況						
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について				○	1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○		
2	学校運営への必要な支援について				○	2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○		
3	地域の実情や課題について				○	3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)				
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて					4		協働活動に参加したボランティアの人数		47	人	
5	教職員の任用に関する一般的な要望について					4		参加者延べ人数		300	人	
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	○	クラブ、部活動	○	給食		休み時間	
	清掃		ICT		学習ボランティア	○	総合的な学習の時間支援		コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習	
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(子どもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)	
	人権教育		国際理解		託児							
	学校・家庭・地域の協働した取組例											
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)												
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)												
○高遠囃子クラブ活動内容 活動場所:高遠小学校さくらルーム、体育館 クラブ員:3年生~6年生(34名) 活動日:水曜、金曜 放課後 指導者:桜奏会、高遠囃子保存会婦人部												
○成果と課題 今年度も城下祭りや燈籠祭りなどが中止となり、発表の場は少なくなりましたが、音楽会や伊澤修二記念音楽祭で、校内の友達や家族・地域の方々に高遠囃子を聞いてもらおうと、真剣に練習に励むことができた。ボランティアの方々が、それぞれの楽器ごとに丁寧に指導くださったことで、伝統のお囃子を大事にしていこうという気持ちも育っている。												

学校の概要		学校名	宮田村	立宮田小	学校	学校長	田中 稔	児童生徒数	513 名															
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について																								
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について																			
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある																
		市町村教委		○		自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)																
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○			公民館代表		PTA代表		○															
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○		学校長・教頭以外の学校職員		○ ボランティアと学校の情報交換会がある																
名称		宮田小学校 学校運営委員会			[その他の委員]※具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)																
					商工会事務局長 JA支所長 ボランティア代表 保育園代表			地域コーディネーター 1 人																
								地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者) 人																
会議開催数(予定)		2 回		今年度開催日(予定)		第1回 R4年5月9日 第2回 R5年2月中(予定)		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択) 教育委員会職員																
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)																
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況																								
学校教育目標		みんなが笑顔で登校 笑顔で帰宅できる学校 「わかる授業」「あたたかい言葉で包まれる学校・家庭」																						
地域と共有された育てたい子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> 「できた」「またやってみよう」…自分や他者・地域との協働により「わかる」ことへの喜び、学習の楽しさを実感する子ども。 「あたたかい言葉で包まれる」…あたたかい言葉、積極的に使おうとする子ども。 地域の方々とのふるさと宮田への思いを知り、自分のその一員であることに誇りを持ち、この地域を好きになる子ども。 																						
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況																			
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○			1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○																	
2 学校運営への必要な支援について					2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。																			
3 地域の実情や課題について					3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)																			
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて					4 協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 412 人		参加者延べ人数 71 人															
5 教職員の任用に関する一般的な要望について																								
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り		○		読み聞かせ		○		児童会、生徒会		○		クラブ、部活動		○		給食		○		休み時間			
	清掃				ICT				学習ボランティア				総合的な学習の時間支援		○		コロナウイルス対策の消毒・清掃				放課後教科・体験学習			
	土日・長期休業教科・体験学習		○		地域の伝統文化の継承に係る活動		○		子ども食堂(子どもカフェ)との連携				防災学習(避難訓練)				遠足・登山		○		キャリア教育(職場体験を含む)		○	
	人権教育				国際理解				託児															
学校・家庭・地域の協働した取組例																								
	校内花壇整備作業(6月21日)				商店街でインタビュー(9月5日)				地域外部講師による金管指導(通年)															
	代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)																							
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)																								
<p>現6年生は、一昨年度から商店街とのつながりがある。商店街に人が集まり、昔のような活気を取り戻してほしいと願った子どもたちは、手作りの楽器を使ったコンサートを開催したり、手作りのプランターに花を植えたりし、来る人の目を楽しませてきた。そこから発展し、祇園祭のことを学習し、地域の方々とのふるさと宮田に対する強い思いを感じ取った。思いを感じ取った子どもたちは、積極的に挨拶をしたり、より環境整備に取り組みだすなど、「自分たちにできることは何か」という視点で村のことは見る目が育ってきた。商店街の方々にもよくしてもらい、子どもたちは家庭に帰ってからもお家の方と一緒に商店街で買い物するようになってきていると聞く。</p> <p>11月11日に「宮田祭り」と題して、商店街でのお祭りを企画した6年生は、他学年児童の参加も呼びかけたり、手作りのお神輿を製作したりし、地域と共に在ろうとしている。11月18日の150周年記念式典では祇園祭祭典委員の皆さんによる、村に伝わる伝統の「あばれ神輿」の披露を、全校で心待ちにしている。</p>																								

学校の概要		学校名	駒ヶ根市 立 赤穂小 学校	学校長	高嶋 義人	児童生徒数	585 名				
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について											
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について							
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある						
		市町村教委	○	自治会代表	○	○ ボランティアの団体がある(組織化されている)					
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表	○	PTA代表	○	○ ボランティアと学校の情報交換会がある					
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	○	学校長・教頭以外の学校職員	○	○ ボランティアの方を対象とした研修会がある					
名称	赤穂小学校コミュニティスクール			[その他の委員]※具体的な役職名を記入 保育園長 元小学校長 主任児童委員		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が 学校職員以外 にいるか(それぞれの人数を記入)	地域コーディネーター	1	人		
						地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)	14	人			
会議開催数(予定)	4	回	今年度開催日(予定)	1回目 4月22日(金) 2回目 5月27日(金)【中止】 3回目 12月16日(金) 4回目 2月21日(火)	中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)	地域住民					
				具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		元PTA会長					
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況											
学校教育目標	「考えよう 友だちになろう やりぬこう」										
地域と共有された育てたい子どもの姿	自分・友だち・学校・ふるさとがだいすきな子										
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況							
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○			
2	学校運営への必要な支援について			○							
3	地域の実情や課題について			○	2	地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○			
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○			
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				4	協働活動に参加したボランティアの人数	120	人			
						ボランティア登録者人数	60	人			
						参加者延べ人数					
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食	○	休み時間	
	清掃		ICT		学習ボランティア	○	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	○	放課後教科・体験学習
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(子どもカフェ)との連携		遠足・登山		防災学習(避難訓練)		キャリア教育(職場体験を含む)
	人権教育		国際理解		託児						
											
代表的な協働した活動の取組例											
(上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)											
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)											
<p>・生け花クラブでは、毎回講師の下平先生が、季節に応じた花や、花器を用意していただき、子どもたちが限られた時間で生け花の楽しさや、生ける雰囲気を楽しむように工夫をしてくださっている。講師の手ほどきを受けながら、子どもたちは見よう見まねで用意された花と真剣な表情で向かい合っている。花を生けるだけでなく、その花の知識や特徴などのお話が活動をより豊かなものとしている。</p> <p>・手芸クラブでは、アドバイザーである赤穂公民館長さんに、地域の手作りクラブの北原先生を紹介していただいた。北原さんの呼びかけで毎回3名ほどの地域の方にお越しいただいた。子どもたちの活動は、手縫いの子もいれば、ミシンを使う子、編み棒を使う子などさまざまであるが、それぞれの子どもの姿に応じてやさしく指導をしてくださった。</p> <p>・感染症対策で人と人との関わりに制限がある中、一つの「もの」を介して地域の方と触れる貴重な機会となった。</p>											

学校の概要		学校名	駒ヶ根市 立 赤穂東小 学校		学校長	吉越 秀之		児童生徒数	432 名						
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について															
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について									
運営委員会(信州型コミュニティスクール)			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある									
			市町村教委		自治会代表	○	○ ボランティアの団体がある(組織化されている)								
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)			○	公民館代表	○	PTA代表	○	○ ボランティアと学校の情報交換会がある							
				地域コーディネーターや 地域学校協働活動推進員	○	学校長・教頭以外の 学校職員		ボランティアの方を対象とした研修会がある							
名称			すずらん東薬舎			[その他の委員]※具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体 や地域との連携調整を行う コーディネーター等が学校 職員以外にいないか(それぞ れの人数を記入)			地域コーディネーター 3 人			
			民生児童委員 ボランティア代表						地域学校協働活 動推進員(教育 委員会の委嘱を 受けた者)			人			
会議 開催数 (予定)		3	回	今年度 開催日 (予定)	5月6日 10月22日 2月17日		中心的なコーディネーター の立場(リストより選択)			地域住民					
									具体的な役職(その他を選択し た場合は立場・役職を記入)						
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況															
学校教育目標		かしこく(和) やさしく(徳) たくましく(体)													
地域と共有され た育てたい子 どもの姿		自分の考えを持ち、自分で判断し、自ら実践する子ども キャッチフレーズ「けんこう チャレンジ きらきらアクション 東小」													
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況									
1		上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について				○	1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子ども の姿」が共有されている。			○			
2		学校運営への必要な支援について				○									
3		地域の実情や課題について				○	2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有 できている。			○			
4		子どもにどんな地域貢献ができるかについて				○	3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。 (専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)			○			
5		教職員の任用に関する一般的な要望について					4		協働活動に参加したボランティアの 人数		ボランティア 登録者人数	50 人			
									参加者延べ 人数		150 人				
地域学校協働活動の概要															
登下校の見守り		○	読み聞かせ		○	児童会、生徒会		クラブ、部活動		○	給食		休み時間		
清掃			ICT			学習ボランティア		総合的な学習の 時間支援		○	コロナウイルス対策 の消毒・清掃		○	放課後教科・ 体験学習	
土日・長期休業 教科・体験学習			地域の伝統文化の 継承に係る活動			子ども食堂(子ども カフェ)との連携		防災学習(避難訓練)			遠足・登山			キャリア教育(職場 体験を含む)	
人権教育			国際理解			託児									
学校・家庭・ 地域の協働した取 組例															
		樹木の伐採作業(6月3日)				クラブ講師(6月23日)				読み聞かせボランティア(10月14日)					
		代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)													
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)															
すずらん東薬舎のみなさんによって、倒木や落枝の危険が心配される状態にあった樹木の伐採作業が行われた。子どもたちに作業の様子を見せたいとの願いから平日に行われ、児童が見学したり落ちた枝の片付けをしたりして、子どもたちもかかわることができた。当日は、高所作業車や重機を持ち込み、朽ち木を根元から伐採したり、大木の枝払いや枯れ枝の除去が行われたりした。これにより、倒木や落枝の心配なく、子どもたちが安全に学校生活を送ることができるようになった。															




学校の概要		学校名	駒ヶ根市 立 赤穂南小 学校	学校長	土橋 浩一郎	児童生徒数	366 名					
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について												
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について								
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある							
		市町村教委	○	自治会代表	○	○ ボランティアの団体がある(組織化されている)						
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表		PTA代表	○	○ ボランティアと学校の情報交換会がある						
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	○	学校長・教頭以外の学校職員	○	ボランティアの方を対象とした研修会がある						
名称	学校運営協議会			[その他の委員]*具体的な役職名を記入 ・各サポート部会の部長		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)	地域コーディネーター 1 人					
						地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)	人					
会議開催数(予定)	3	回	今年度開催日(予定)	①5月26日(木) ②9月27日(火) ③2月10日(金)		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)	地域住民					
				具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		元区長						
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況												
学校教育目標	◎げんきに 合い言葉 あかるくちようせん ◎やさしく 合い言葉 ほがらか あったかい心 ◎ねばりづよく 合い言葉 みんなみんなで考え 話し合おう											
地域と共有された育てたい子どもの姿	◎げんきに ○楽しみ、挑戦し、乗り越えていく学級中核活動 ○SDGs,地域や世界を意識した活動への取り組み ○食育,歯と口の健康づくり ◎やさしく ○多様性を大切にする学級づくり ○気持ちのよい日常生活づくり ○道徳,人権学習の推進 ○子どもに応じた個別の支援 ◎ねばりづよく ○学習問題について話し合いを中心とした学習 ○最後に学習問題が生まれて終わる授業 ○問いから問いへ学びが自然と深まる学習											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況								
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。	○				
2	学校運営への必要な支援について			○	2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。	○				
3	地域の実情や課題について			○	3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)	○				
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	4		協働活動に参加したボランティアの人数	92 人				
5	教職員の任用に関する一般的な要望について			○	5		参加者延べ人数	500 人				
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食		休み時間		
	清掃		ICT		学習ボランティア	○	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	○	放課後教科・体験学習	○
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(子どもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)	
	人権教育		国際理解		託児							
	学校・家庭・地域の協働した取組例							学校花壇作り(6/14)		読み聞かせ(7/5)		学習サポート(7/19)
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)												
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)												
<学習サポート> ・学習サポーター部会の方が、学習プリントの答え合わせ、低学年の学習支援、総合的な学習の時間のお手伝い等を先生方の要望に応じて行っている。本年度は、3年生が小麦を収穫し、乾燥した小麦を脱穀する活動のお手伝いをお願いした。また、1年生で支援が必要な児童の漢字学習を1対1で隣で励ましながら漢字学習をすすめる支援をしていただいた。子どもに寄り添っていただくことで、意欲的に安心して学習や活動を行うことができる。												

学校の概要		学校名	駒ヶ根市立 中沢小 学校			学校長	島尻 理恵子		児童生徒数	82 名		
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について												
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について						
運営委員会(信州型コミュニティスクール)			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある						
			市町村教委	○	自治会代表	○	○ ボランティアの団体がある(組織化されている)					
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)			公民館代表	○	PTA代表	○	○ ボランティアと学校の情報交換会がある					
			地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	○	学校長・教頭以外の学校職員	○	ボランティアの方を対象とした研修会がある					
名称			中沢小学校応援隊運営委員会			[その他の委員]※具体的な役職名を記入 同窓会長、民生児童委員会、主任児童委員、中学校保護者代表、保育園保護者代表、保護士、地域住民代表、育成会長			地域コーディネーター	16	人	
						学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外に在るか(それぞれの人数を記入)			地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)	20	人	
会議開催数(予定)		4	回	今年度開催日(予定)		5月9日、9月1日、12月1日、2月10日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		地域住民		
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		元同窓会長		
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況												
学校教育目標		思いやる・考える・やり抜く										
地域と共有された育てたい子どもの姿		『仲よくできる子・求めて学ぶ子・たくましい子』子どもを中心に考え、地域の人とふれあいながら、伝統産業、農業、自然などに関わり、中沢のよさを伝えることで、地域の未来を担う子どもたちを育てていく。そのために、中沢小学校応援隊員が、誰でも、気軽にできる活動を無理なく継続していくことで、学校を地域コミュニティの拠点、世代を超えた交流の場ともなることを目指している。										
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況						
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○		1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。				○		
2 学校運営への必要な支援について		○		2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。				○		
3 地域の実情や課題について		○		3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)				○		
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○		4		協働活動に参加したボランティアの人数				100 人		
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○		5		参加者延べ人数				500 人		
地域学校協働活動の概要												
登下校の見守り		○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	○	クラブ、部活動	○	給食	○	休み時間	○
清掃		○	ICT	○	学習ボランティア	○	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	○	放課後教科・体験学習	○
土日・長期休業教科・体験学習		○	地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(こどもカフェ)との連携	○	防災学習(避難訓練)	○	遠足・登山	○	キャリア教育(職場体験を含む)	○
人権教育		○	国際理解	○	託児	○		○		○		○
学校・家庭・地域の協働した取組例												
		伝統産業「炭焼き」(5～10月)		世代間交流「駄菓子屋」(5、7、3月)		全身で感じる「稲作」(5～10月)						
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)												
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)												
中沢の伝統である炭焼きを、年4回行っている。年度当初、PTA作業で原木を山から運び出し、薪割り機などで整える。それを、5月のなかよし旬間で全校が協力して窯詰めし、焼き上がったあとは炭を出して形を整え、計量して袋詰めする。この一連の活動で、応援隊コーディネーターやPTA、地域の人が子どもたちをサポートして活動する。炭焼き活動を通して、世代を超えた異年齢交流が進み、多様な価値観に触れて視野を広げることができるとともに、多くの人に活動の様子を認めてもらうことで自己肯定感を高めている。また、地域を愛し、大切にしたい気持ちを高めている。												


学校の概要		学校名	駒ヶ根市	立	東伊那小	学校	校長	久保田 智之	児童生徒数	106 名	
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について											
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		会議の委員構成				○ ボランティアのリストがある					
		市町村教委	○	自治会代表	○	○ ボランティアの団体がある(組織化されている)					
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表	○	PTA代表	○	○ ボランティアと学校の情報交換会がある					
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	○	学校長・教頭以外の学校職員	○	ボランティアの方を対象とした研修会がある					
名称	東伊那小学校運営協議会				[その他の委員]*具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター	2 人
									地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		人
会議開催数(予定)	3	回	今年度開催日(予定)	第1回 4月27日	第2回 8月29日	第3回 2月24日	中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		公民館職員(公民館長・公民館主事)		
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		公民館長	
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況											
学校教育目標	直く 明るく 健やかに										
地域と共有された育てたい子どもの姿	<ul style="list-style-type: none"> ・友と関わり、よく考え表現する子 ・感性豊かで明るく思いやりのある子 ・健やかな心と身体でねばり強く取り組む子 										
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況					
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について				○	1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○	
2	学校運営への必要な支援について				○						
3	地域の実情や課題について				○	2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○	
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて				○	3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)			
5	教職員の任用に関する一般的な要望について					4		協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 77 人 参加者延べ人数 120 人	
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食		休み時間	
	清掃		ICT		学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習	
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(子どもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)		遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)	
	人権教育		国際理解		託児						
	学校・家庭・地域の協働した取組例										
		しいたけの駒打ち(5月2日)		クラブ活動(6月17日～)		ふるさと学習(9月5日)					
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)											
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)											
<p>地域の伝統文化の継承に係る活動の一つとしてふるさと学習をコロナ禍を乗り越えて3年ぶりに実施した。低学年は、学校近くにある天王川での川遊びを行い、ボランティアの方々に見守られながら、沢ガニなどの生き物探しをしたり、水遊びをした。高学年は、希望する講座に分かれ、地域めぐりサイクリング、ツリークライミング、地域食材を使ったお菓子作り、陶芸、わら細工などの活動を地域の方々を講師にして、活動した。</p> <p>地域の専門家の方々の指導により、ふるさと東伊那の魅力や、伝統文化について学ぶことができた。</p>											

学校の概要		学校名	飯島町	立 飯島小	学校	学校長	塚田 琢磨	児童生徒数	292 名	
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について										
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○			会議の委員構成			ボランティアのリストがある		
		市町村教委		○		自治会代表		○		
		公民館代表		○		PTA代表		○		
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○			地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員			○		
		○			学校長・教頭以外の学校職員			○		
いいじまっこ応援運営委員会		[その他の委員]*具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)			ボランティアの方を対象とした研修会がある		
名称		学校評議員			地域コーディネーター			1 人		
					地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)					
会議開催数(予定)		2 回		今年度開催日(予定)		第1回 5月27日(金) 第2回 2月21日(火)		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		
								教育委員会職員		
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況										
学校教育目標		心の窓を開く よく考える なかよし がんばる じょうぶなからだ								
地域と共有された育てたい子どもの姿		自分のことばで表現する子ども 挑戦する子ども ~豊かな体験や活動に根ざして~								
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況					
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○			1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。			○		
2 学校運営への必要な支援について		○								
3 地域の実情や課題について		○			2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。			○		
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて					3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)			○		
5 教職員の任用に関する一般的な要望について					4 協働活動に参加したボランティアの人数			ボランティア登録者人数 70 人		
								参加者延べ人数 185 人		
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り		○		読み聞かせ		児童会、生徒会		
		清掃				ICT		学習ボランティア		
		土日・長期休業教科・体験学習		○		地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(こどもカフェ)との連携		
		人権教育		○		国際理解		託児		
		クラブ、部活動		○		給食		休み時間		
		総合的な学習の時間支援		○		コロナウイルス対策の消毒・清掃		○		
		防災学習(避難訓練)				遠足・登山		放課後教科・体験学習		
								キャリア教育(職場体験を含む)		
学校・家庭・地域の協働した取組例										
		生け花ボランティア(毎週)			飯小タイム(クラブ活動)(年8回)			総合的な学習(3年)(9月,10月)		
		代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)								
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)										
・年8回のクラブ活動「飯小タイム」には、講師として地域の方にご指導をいただいているものがある。「手芸」「科学」「工作」「サッカー」「将棋」には1または2名の方が毎回来て、子どもたちの興味・関心をより高めて下さっている。子どもたちは、家族や教員以外の大人とのやりとりに緊張している様子も初めはあったが、しだいに慣れ、熱心に質問する様子もある。専門的な技術・技能を身近で目にして、尊敬や憧れの気持ちを感じながら、毎回楽しみにしている時間である。今年度は、昨年度のパラリンピックを受け、ニューススポーツとして「囲碁ボール」や「ボッチャ」を体験できるクラブが設置され、毎回2名の方が指導に来て下さった。新しいものに触れ、経験できる貴重な場となっている。										


学校の概要		学校名	飯島町 立 七久保小 学校			学校長	有賀 和美		児童生徒数	118 名		
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について												
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について						
運営委員会(信州型コミュニティスクール)			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある						
			市町村教委	○	自治会代表	○	○ ボランティアの団体がある(組織化されている)					
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)			公民館代表	○	PTA代表	○	○ ボランティアと学校の情報交換会がある					
			地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員	○	学校長・教頭以外の学校職員	○	○ ボランティアの方を対象とした研修会がある					
名称	七久保小学校運営協議会			[その他の委員]*具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター		人	
							地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)			1	人	
会議開催数(予定)	3	回	今年度開催日(予定)	4月27日 7月13日 1月27日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		学校職員(教頭及び教頭以外の職員)				
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)						
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況												
学校教育目標	こつこつ学ぶ なかよしの学校											
地域と共有された育てたい子どもの姿	自らもとめ 学び 共に生きる子ども											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況						
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について					○	1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。			○	
2	学校運営への必要な支援について					○						
3	地域の実情や課題について					○	2	地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。				○
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて					○	3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)				
5	教職員の任用に関する一般的な要望について						4	協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数	53	人
								参加者延べ人数		364	人	
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食		休み時間		
	清掃		ICT	○	学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習	○	
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(こどもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)		遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)		
	人権教育		国際理解		託児							
	学校・家庭・地域の協働した取組例											
開校150周年記念事業(通年)		わくわくサイエンスショー(10月26日)			見守り隊による登下校見守り(毎日)							
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)												
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)												
「開校150周年記念事業」 今年度本校は開校150周年を迎え、様々な記念事業を行った。PTA役員中心の実行委員会には地域部として区長と公民館長に入っていた地域との連携を務めていただいた。6月に行った音楽会では、地域で音楽に携わっている方々(鼓笛隊・雅楽・歌唱)をお招きしミニコンサートを行った。9月に行った運動会は屋外でありコロナ感染も下火であったので、地域の皆様にも感染防止対策をとっていただいたうえで、の参観を呼びかけた。11月の千人塚マラソンにはゲストランナーとして地域の方5名に参加していただいた。沿道では地域の多くの方に子どもたちの頑張りを応援いただいた。150周年にあたり区民の方からの寄付金や地元企業からの協賛金をたいへんいただき、記念品をいくつか購入させていただいたうえ、記念花火大会や木製のタイムカプセル製作なども実現できた。10月末には、七久保地区の皆さんに立ち上げていただいた『つなぐ』なくぼイサ!(御柱レプリカ木曳行)のイベントが開催され、コロナの影響で今春実施できなかった御柱曳行を地域をあげて行った。子どもたちは、子ども木遣り(希望者)が伝統の木遣りを受け継ぎ、曳き縄作りなどにも参加した。当日は子ども区間を子ども曳行区間を担当し(写真)、小学校の校庭の隅に御柱が建てられる様子を見守った。その日の夜は、記念花火大会で子どもたちのデザイン花火の打ち上げ、校庭での庭花火を行い、地域の方にも観ていただいた。11月の記念式典は、来賓の他に子どもたちがこれまでの学習でお世話になった方々も招待し、生活科・総合的な学習の時間で地域の自然や人と関わりながら学んできたことをクラス毎発表した。150周年の今年、地域を挙げて「子どもたちの思い出に残ることを」と取り組んでくださった。子どもたちも地域の立派な一員としての自覚をもつことができ、より一層地域や学校への愛着が深まったと思う。												

学校の概要		学校名	中川村	立中川西小	学校	学校長	松崎 善幸	児童生徒数	139 名				
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について													
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について								
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○			会議の委員構成			○		ボランティアのリストがある			
		市町村教委		自治会代表				ボランティアの団体がある(組織化されている)					
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○			公民館代表		○		ボランティアと学校の情報交換会がある				
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○		PTA代表		○		ボランティアの方を対象とした研修会がある			
名称		西小中学校支援ボランティア運営委員会			[その他の委員]*具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 1 人			
								地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		人			
会議開催数(予定)		2 回		今年度開催日(予定)		4月22日(金)、2月22日(水)		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		その他			
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		学校評議員			
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況													
学校教育目標		○心身ともに健康でがんばり合える子ども ・すすんでやろう ・考えてやろう ・なかよくやろう											
地域と共有された育てたい子どもの姿		【中川村子育て5ヶ条】 1 早寝 早起き 朝ご飯・生活リズムは生きる力、2 日々積み重ね 家庭学習・予習 復習 継続は力なり、3 野外で活動元気な子・群れ 遊び 家の仕事でたくましく、4 あいさつ 読書で豊かな心・ゲーム テレビからぬけだそう、5 はずむ仲間 家族の絆・みんなの話題で安心 信頼											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況								
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○			1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○				
2 学校運営への必要な支援について		○			2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○				
3 地域の実情や課題について					3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)						
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて					4		協働活動に参加したボランティアの人数		30 人				
5 教職員の任用に関する一般的な要望について							ボランティア登録者人数		120 人				
							参加者延べ人数						
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り ○		読み聞かせ ○		児童会、生徒会		クラブ、部活動 ○		給食		休み時間	
		清掃		ICT		学習ボランティア		総合的な学習の時間支援 ○		コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習	
		土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(子どもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む) ○	
		人権教育		国際理解		託児							
													
		クラブ活動(4/21~10/13)		ブッポウソウの観察会(7/11)		5年 学校田稲刈り(9/30)							
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)													
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)													
今年度のクラブ活動は、文化的クラブ(中川人形、囲碁・将棋、手芸、パソコン、茶道)、体育的クラブ(卓球、バドミントン)の計7講座を設け、地域住民および本校職員を講師として依頼し、校内の教室や体育館、また校庭で取り組んだ。4年生以上の児童たちは、自分が希望する講座へ入り(昨年度のうちにある程度希望調査を行っている)、講師から専門的な知識や技能を身につけようとした。今年度は創立150周年記念式典に中川人形クラブが発表を行った。地域に伝わる伝統文化とそれを継承していきたいと願う地域の方の熱い思いに触れることができた。少ないクラブの時間であり、他のクラブも子どもたちは講師の先生方から学ぼうとする意欲をもち、回を重ねるたびに進んで取り組んでいこうとする姿勢が高まっていた。													

学校の概要		学校名	中川村	立中川東小	学校	学校長	清水 秀朗	児童生徒数	109 名	
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について										
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある		
		市町村教委		自治会代表		○		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)		
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○			公民館代表		PTA代表		○	
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○		学校長・教頭以外の学校職員		○		
東小応援隊		[その他の委員]*具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)			地域コーディネーター 1 人		
名称		どうだんの会会長(歴代PTA会長、副会長、歴代校長、教頭の会)、祖父母の会会長、校長、教頭			地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)			人		
会議開催数(予定)		2 回		今年度開催日(予定)		4月14日、2月9日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		
								地域住民		
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況										
学校教育目標		「みんなで本気」 みんなで大切にしたい気持ち ・めあてに真剣に向かう気持ち ・みんなを大切にしたい気持ち								
地域と共有された育てたい子どもの姿		学校生活の中で児童一人ひとりが「本気」になって取り組む姿。仲間を大切に、めあてに向かって真剣に取り組む姿。								
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況					
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○			1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○	
2 学校運営への必要な支援について		○			2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○	
3 地域の実情や課題について		○			3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用可能な部屋との兼用でも可)		○	
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○			4		協働活動に参加したボランティアの人数		○	
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○			4		ボランティア登録者人数		21 人	
							参加者延べ人数		172 人	
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り		○	読み聞かせ		○	児童会、生徒会		○
		清掃			ICT			学習ボランティア		○
		土日・長期休業教科・体験学習		○	地域の伝統文化の継承に係る活動		○	子ども食堂(こどもカフェ)との連携		○
		人権教育			国際理解			託児		
		クラブ、部活動		○	給食			休み時間		
		総合的な学習の時間支援		○	コロナウイルス対策の消毒・清掃		○	放課後教科・体験学習		
		防災学習(避難訓練)			遠足・登山		○	キャリア教育(職場体験を含む)		
学校・家庭・地域の協働した取組例		東小学校応援隊の方との顔合わせ会 (5月13日)		裁縫支援(5月～10月)7回		ポップコーンを作る(5月～10月)				
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)										
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)										
本校は、年間を通して、東小学校応援隊の皆様へ多くの活動で支えていただいている。年度初めに、1年間お世話になる皆様を学校にお呼びして、「東小学校応援隊の方との顔合わせ会」を実施した。お一人ずつ自己紹介やお手伝いして下さる内容についてお話ししていただいた。児童を代表して児童会長より、挨拶をした。顔合わせ会後、各クラスの朝の会や1時間目の授業を参観していただいた。児童が応援隊のみなさんの顔や名前を知ることや応援隊の皆さんが日頃の児童の様子を知ることによって、よりよい交流につながっていった。朝の検温チェックの際に子どもが「○○さんいつもありがとうございます」と声をかける姿、そして応援隊の皆さんには、子どもの成長や変化等も感じていただけている。										

学校の概要		学校名	辰野町 立 辰野中	学校	学校長	矢島 和明	児童生徒数	439 名
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について								
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について			
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○			○ ボランティアのリストがある			
		会議の委員構成			ボランティアの団体がある(組織化されている)			
		市町村教委	○	自治会代表	○	ボランティアと学校の情報交換会がある		
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表		PTA代表		ボランティアの方を対象とした研修会がある		
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		学校長・教頭以外の学校職員	○			
名称	辰野町学校支援実行委員会・辰野町地域教育協議会				[その他の委員]※具体的な役職名を記入		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)	
					町役場産業振興課企業支援係長 町社会福祉協議会福祉活動専門員 町商工会事務局長 JA上伊那辰野支店長 信州豊南短期大学代表 辰野高校代表 幼稚園長 保育園長		地域コーディネーター	2 人
会議開催数(予定)	2	回	今年度開催日(予定)	4/20、2/16		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		教育委員会職員
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		学校支援主事
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況								
学校教育目標	正しい知恵を学び 心豊かに たくましく生き抜く							
地域と共有された育てたい子どもの姿	優しく麗しき人(「辰野中人権宣言」を意識し、他者を思いやる心・違いを受けとめる心) 高き人(「新しく正しい知恵を学び、伸びようとする心・自ら考え、判断し行動する心」) 強き人(「たくましく生き抜く心・SOSを出せる心」)							
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況			
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。	
2	学校運営への必要な支援について			○	2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。	
3	地域の実情や課題について				3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)	
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて				4		協働活動に参加したボランティアの人数	
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				5		ボランティア登録者人数	85 人
							参加者延べ人数	567 人
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食	休み時間
	清掃	ICT		学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習
	土日・長期休業教科・体験学習	地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(こどもカフェ)との連携	防災学習(避難訓練)	○	遠足・登山	○
	人権教育	国際理解		託児				○
	学校・家庭・地域の協働した取組例							
		1・3学年 学生大会(7/6、8/25)		読み聞かせ(6/14～16、8/29～31)		3学年「町の未来を考える」講演会(5～7月)		
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)								
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)								
本校では、グランドデザインにある「地域と共に在る辰中」の具現化に向けて、日頃より家庭や地域との連携・協働による教育活動の充実を図っている。その取組の一環として、3年生は、総合的な学習の時間に「町の未来を考える～辰野を魅力的な町にするために」をテーマに、町や市民のために取組をされている方々を招いて学習を進めてきた。5/13に町役場まちづくり政策課の方々、5/20に町役場産業振興課の方、5/24に町内でお店を営む方、7/4に町地域おこし協力隊の方、7/8に武居保男町長様からお話を伺った。一人ひとりが、辰野町をさらに魅力的な町にするためのヒントを得ようと、講師の方々のお話真剣に耳を傾ける姿が見られた。生徒からは、「人生の先輩や町内で活躍している方々の経験や思いを参考に、これからの自分の進路選択に生かしていきたいです」「私は辰野町について知らなかったことがたくさんあり、辰野町をもっと知ることが大切だと思いました」「自然を大切に、ほたるなどの生き物と人が安心して楽しく暮らせる町にしていきたいです」などの感想が聞かれた。また、4月末には、町商工会の方から、6月の「信州辰野はたる祭り」を盛り上げるイベント「スタンプラリー」の企画考案や景品のオリジナルタオルの図案作りについての協力依頼があり、3年生5名が協力を申し出た。生徒が考案した企画は実現し、スタンプラリー景品のタオルはスタンプラリーを達成した方にプレゼントされた。地域の方々との様々な交流を通して、生徒の地域に対する理解が深まり、地域への愛着や誇り、地域の発展に主体的に参加する意欲や態度が育まれることが期待される。								

学校の概要		学校名	箕輪町	立箕輪中	学校	学校長	赤羽 隆	児童生徒数	710 名				
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について													
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について								
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○ 会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある								
		市町村教委		自治会代表			ボランティアの団体がある(組織化されている)						
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○ 公民館代表		PTA代表			○ ボランティアと学校の情報交換会がある						
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の学校職員			ボランティアの方を対象とした研修会がある						
名称		箕輪中学校コミュニティスクール運営委員会			[その他の委員]※具体的な役職名を記入		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 1 人				
		会社員、箕輪進修高校校長、会社役員、松島保育園長、箕輪中学校同窓会役員、箕輪町社会福祉協議会事務局長、公民館長、放課後学習支援員、ICT環境支援員					地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		人				
会議開催数(予定)		2	回	今年度開催日(予定)	令和4年6月17日(金) 令和5年1月17日(火)		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		学校職員(教頭及び教頭以外の職員)				
							具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		教頭				
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況													
学校教育目標		【学】 1 確かな学力:気づき・考え・高め合う活動で伸びを実感する生徒 【心】 2 豊かな心:誠実・素直で伸びやかな心、心触れ合い分かり合う思いやりの心をもつ生徒 【鍛】 3 心身を鍛錬:命を尊び、心や体を鍛え逞しく生きる生徒											
地域と共有された育てたい子どもの姿		・自立した生徒(A:自分と向き合う生徒 B:仲間と関係を築ける生徒 C:社会とのつながりを自覚できる生徒) ・箕輪中のよさを実感し、地域に誇りをもち、地域を担う生徒 ・ふるさと学習「箕輪学」等を通して、学びの場を地域に広げ、地域の活動を大事にする生徒											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況								
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○			1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○						
2 学校運営への必要な支援について		○			2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。								
3 地域の実情や課題について		○			3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)								
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○			4 協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 10 人						
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○					参加者延べ人数 80 人						
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り ○		読み聞かせ		児童会、生徒会		クラブ、部活動 ○		給食		休み時間	
		清掃		ICT ○		学習ボランティア ○		総合的な学習の時間支援 ○		コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習 ○	
		土日・長期休業教科・体験学習 ○		地域の伝統文化の継承に係る活動 ○		子ども食堂(子どもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む) ○	
		人権教育		国際理解		託児							
													
		1学年福祉体験学習(10月～11月)		2学年わくワークみのわ(5月31日)		3学年ふるさと箕輪学(4月～12月)							
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)													
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)													
<p>コロナ禍でもできるキャリア学習ということで、近年ワークショップ形式(体験・実践型ワークショップ、パネルや製品の展示など)で「ひと」や「もの」に直接的に触れる機会として『わくワークみのわ』(ミニ職場体験学習)を実施している。現2年生は新型コロナの感染拡大を受け、1年での実施は見送ったが、関係各所のご理解とご協力をいただき、2年の5月に実施することができた。箕輪町を中心に例年並みの約20の上伊那地域の企業、公共機関にご来校いただき、生徒は2つの体育館を巡りながら、興味のあるブースを回り、各企業や公共機関の仕事体験したり、各職場の方の話を聞いたりした。こうした直接の体験や会社の方から聞いた話から、「仕事とは何か」「働くとはどういうことか」について深く考えることができた。また、地域でやりがいや誇りを持って働く大人の姿に触れ、自分たちの住む地域のよさや働く姿への憧れを感じる生徒もいた。幅広い職種の企業の参加があり、キャリア教育の充実のため、実りある企画となった。この体験を受け計画していた8月の職場体験学習は、新型コロナの感染拡大を受け、直前で中止となってしまった。実際に職場に行くことはできなかったが、『わくワークみのわ』で少しでも体験できたことは大変ありがたかったと改めて感じる。</p>													

学校の概要		学校名	南箕輪村	立南箕輪中	学校	校長	桐山 清一	児童生徒数	529 名	
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について										
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○			会議の委員構成			ボランティアのリストがある		
		市町村教委		自治会代表		ボランティアの団体がある(組織化されている)				
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○			公民館代表		PTA代表		○	
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○		学校長・教頭以外の学校職員		○		
ボランティアと学校の情報交換会がある		ボランティアの方を対象とした研修会がある								
名称	南箕輪中学校学校運営委員会			[その他の委員]*具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター	1 人
	南箕輪中学校同窓会会長 南箕輪村社会福祉協議会事務局長 統合型スポーツクラブ NPO法人南箕輪わくわくクラブ マネージャー							地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		人
会議開催数(予定)	3	回	今年度開催日(予定)	6月6日 9月15日 2月3日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		地域住民		
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		南箕輪村 こども館館長		
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況										
学校教育目標	人には やさしく 暖かく 自らは厳しく 正しく 健やかに たくましく									
地域と共有された育てたい子どもの姿	<input type="checkbox"/> 互いの考えを伝え、学び合う生徒 <input type="checkbox"/> 自ら高い理想をもって、心身を磨き合う生徒 <input type="checkbox"/> 自他の存在を大切にし、認め合う生徒									
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況					
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。			○	
2	学校運営への必要な支援について			○	2	地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。				
3	地域の実情や課題について			○	3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)				
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	4	協働活動に参加したボランティアの人数			17 人	
5	教職員の任用に関する一般的な要望について			○	5	ボランティア登録者人数			43 人	
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	読み聞かせ	児童会、生徒会	○	クラブ、部活動	給食	休み時間			
	清掃	ICT	学習ボランティア		総合的な学習の時間支援	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習	○		
	土日・長期休業教科・体験学習	地域の伝統文化の継承に係る活動	子ども食堂(こどもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)	遠足・登山	キャリア教育(職場体験を含む)			
	人権教育	国際理解	託児							
学校・家庭・地域の協働した取組例				写真			写真			
	放課後学習(10月～1月)			活動名(日付)			活動名(日付)			
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)										
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)										
○放課後学習について ・3年生を対象として、英語と数学の2教科の学習支援をする。今年度は73名の参加希望があり、年間25回の開催を予定している。 ・地域住民へ講師募集案内を出し、本校卒業の高校生(伊那北、伊那弥生ヶ丘、上伊那農業)にもボランティアスタッフとして呼びかけた。今年度は同村内ということもあり、上伊那農業高校にも呼びかけた。今年度は地域住民7名、高校生10名の登録があった。 ・中学生の声を聞くと、少人数グループの学習で聞きやすく、また、高校生に学習や進路選択のアドバイス、高校生活の様子を聞くこともできるので、高校生活への期待をもち、学習に意欲的に取り組めるようである。										



学校の概要		学校名	伊那市 立 伊那中 学校			学校長	有賀 稔		児童生徒数	321 名			
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について													
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について							
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○ 会議の委員構成				○ ボランティアのリストがある							
		市町村教委		自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)							
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表		PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある							
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		学校長・教頭以外の学校職員		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある							
名称		伊那中学校コミュニティスクール運営委員会				[その他の委員]*具体的な役職名を記入		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 1 人			
		・育成会代表 ・民生児童委員代表 ・よりよい教育環境推進協議会代表						地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		人			
会議開催数(予定)		2 回		今年度開催日(予定)		5月31日、1月23日		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		地域住民			
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		PTA会長			
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況													
学校教育目標		<ul style="list-style-type: none"> 志を持って(夢や目標に向かい、主体的に行動できる生徒) 勉強せよ(自主的・主体的に学び、学力を伸ばす生徒) 親切に(人やものの“いのち”を大切に作る生徒) 											
地域と共有された育てたい子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> 地域を愛する心を持った生徒 地域を創生する力を持った生徒 											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況							
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○				1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○					
2 学校運営への必要な支援について		○											
3 地域の実情や課題について		○				2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○					
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○				3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○					
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○				4 協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 12 人		参加者延べ人数 90 人			
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り		読み聞かせ		○ 児童会、生徒会		クラブ、部活動		給食		休み時間	
		清掃		ICT		○ 学習ボランティア		総合的な学習の時間支援		○ コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習	
		土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(子どもカフェ)との連携		○ 防災学習(避難訓練)		○ 遠足・登山		○ キャリア教育(職場体験を含む)	
		人権教育		国際理解		託児							
													
		高校生と語る会(6月21日)		上伊那めぐり(7月13日)		探究の時間マインクエスト(9月30日)							
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)													
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)													
<p>本校では「ふるさと伊那谷学」と称し、地域のことを地域のひとと地域のやり方で学ぶ学習を大切にしている。上伊那めぐり(1学年)ーアントレプレナーシップ教育(全校)ー5日間に及ぶ職場体験学習(2学年)ー地域を学び場とした総合的な学習の時間(全校)ー卒業後の進路選択(3学年)といった一連の流れは、本校の学校づくりの根幹を成すものである。</p> <p>3年前から「教科の枠」を飛び出し、自分の「好き」を追求する「探究学習」を推進する中、特に、今年度は、地域の方や高校生、保護者等に講師を募り、様々な探究に触れる「探究の時間(マインクエスト)」を文化祭で企画。多くの地域の皆さんの参画を得て、35講座を開設した。全校生徒が探究のおもしろさを体感することができた。自分の好きを追求できることで、自己肯定感あふれる生徒たちが育ちつつある。</p>													

学校の概要		学校名	伊那市	立 東部中	学校	校長	有賀 泰司	児童生徒数	759 名	
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について										
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○ 会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある					
		市町村教委		自治会代表		ボランティアの団体がある(組織化されている)				
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表		PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある				
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		学校長・教頭以外の学校職員		ボランティアの方を対象とした研修会がある				
名称	東部中コミュニティスクール運営委員会		[その他の委員]※具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター	10 人	
			主任児童委員 同窓会長					地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)	人	
会議開催数(予定)	2	回	今年度開催日(予定)	6月27日(月) 1月30日(月)		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		その他		
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		同窓会長兼学校評議員		
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況										
学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> ・真剣にねばり強く学習する生徒 ・広く豊かな心を持つ生徒 ・勤労を尊び、仕事に打ち込む生徒 									
地域と共有された育てたい子どもの姿	すず竹・・・すず竹のごとくねばり強く 自分で考え、学習や勤労に自ら取り組む 学び舎に魂合わせ・・・ともに認め合い・助け合い、お互いを尊重しあえる生徒									
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況					
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○		
2	学校運営への必要な支援について			○						
3	地域の実情や課題について				2	地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○		
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて				3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)				
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				4	協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数	34 人	
								参加者延べ人数	160 人	
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	○	クラブ、部活動	○	給食	休み時間
	清掃		ICT		学習ボランティア	○	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(子どもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山	キャリア教育(職場体験を含む)
	人権教育		国際理解		託児					
	学校・家庭・地域の協働した取組例									
		放課後学習支援(10月～2月)		部活動支援(通年)		1年総合的な学習(10月5日)				
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)										
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)										
1学年では、総合的な学習の時間において「食育」を題材に、クラスごとの課題を決め、地域の方の話を聞いたり、実際に果樹園等を訪問したりして、地域の特色ある食べ物について知識を深めた。写真の学級では、リンゴ農園に訪問し、生産者の方からお話を聞き、実際に葉摘みや玉回しをしたり、りんごを食したりして、生産者の苦労や流通の仕組みを知り、思いを共有することができた。また、伊那地域の食をPRするために、直接お店を訪問し、名物が作られている様子や料理をしている方たちの思いを取材し、食の魅力伝える活動を行った。これらの取り組みから、より地域の食に関する意識を高め、地域の食を継承していくためには何が必要か考えることができた。										

学校の概要		学校名	伊那市 立 西箕輪中 学校	学校長	根橋 健治	児童生徒数	211 名
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について							
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について			
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○		会議の委員構成		○ ボランティアのリストがある	
		市町村教委		自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)	
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○		公民館代表		○ PTA代表	
		○		PTA代表		○	
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○		○	
		○		学校長・教頭以外の学校職員		○	
名称		西箕輪コミュニティスクール運営委員会		[その他の委員]※具体的な役職名を記入 育成会会長、学習支援員、スポーツ少年団代表者、部活動指導員、伊那市(西箕輪支所長)		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)	
						地域コーディネーター 2 人	
						地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者) 人	
会議開催数(予定)		2 回		今年度開催日(予定)		4月21日、12月15日	
						中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)	
						公民館職員(公民館長・公民館主事)	
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)	
						公民館長	
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況							
学校教育目標		剛健質実 ~思いやりのある自立した生徒~ こつこつ勉強しよう 厳しく鍛えよう 良い友だちをつくらう					
地域と共有された育てたい子どもの姿		地域との関係性の中で、自己肯定感を高めていく生徒たち					
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況			
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○		1 学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○	
2 学校運営への必要な支援について		○		2 地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○	
3 地域の実情や課題について		○		3 ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○	
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○		4 協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数 100 人	
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○				参加者延べ人数 240 人	
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り ○		読み聞かせ		児童会、生徒会 ○	
		清掃		ICT		学習ボランティア ○	
		土日・長期休業教科・体験学習 ○		地域の伝統文化の継承に係る活動 ○		子ども食堂(子どもカフェ)との連携	
		人権教育		国際理解		託児	
							
		スマイル花壇定植(6月22日)		技術・家庭科「浴衣の着付け」(7月14日、7月25日)		放課後学習支援(10月24日～2月13日)	
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)							
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)							
6月22日に、西箕輪ふるさと活動委員会の皆さんと、本校緑化委員の生徒が、学校近くの五叉路にある西箕輪地区花壇(スマイル花壇)づくりを行った。作業日程やデザインなどについて、正副委員長を中心に事前に打ち合わせを行い、ふるさと活動委員会に用意していただいた苗を、生徒が考えたデザインに合わせ、協力して定植をした。デザインが採用された生徒は、「直線で交互に、放射線状に植えるという難しいデザインだったので、自分自身無理だと思ったけど、地域の方に教えていただいたおかげで植えることができた。いつもこの花壇の横を通って通学しているが、この花壇を見るたびに今日も頑張ろうと前向きに、笑顔になることができる。」と育成会だよりに思いを綴っている。その後、自主的に草取りをする姿も見られた。							

学校の概要		学校名	伊那市 立 春富中 学校			学校長	沼野 俊彦		児童生徒数	373 名			
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について													
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について							
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○ 会議の委員構成				ボランティアのリストがある							
		市町村教委		自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)							
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○ 公民館代表		○ PTA代表		○ ボランティアと学校の情報交換会がある							
		○ 地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の学校職員		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある							
名称		矢羽根の会(春富中学校コミュニティスクール運営協議会)				[その他の委員]※具体的な役職名を記入 同窓会会長、市議会議員、社会教育委員、主任児童委員、交通安全協会会長、駐在所所長、読み聞かせボランティア代表		学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター 1 人 地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者) 0 人			
会議開催数(予定)		2 回		今年度開催日(予定)		5月20日と10月31日 第1回の5月20日は新型コロナウイルス感染警戒レベルが高かったため中止		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		学校職員(教頭及び教頭以外の職員)			
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		教頭					
学校教育目標		理想を目指し、たくましく実践する人になろう											
地域と共有された育てたい子どもの姿		○「社会に生き、幸せを培う拓く学力」の育成 ○「違いと想いを共有し、人権感覚を自ら磨く生徒」の育成 ○「人・地域と関わり、恩をおくる意志を持った生徒」の育成											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況							
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○		1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。				○			
2 学校運営への必要な支援について		○		2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。				○			
3 地域の実情や課題について		○		3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)				○			
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○		4		協働活動に参加したボランティアの人数				22 人			
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○		4		参加者延べ人数				101 人			
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り ○		読み聞かせ ○		児童会、生徒会 ○		クラブ、部活動 ○		給食		休み時間	
		清掃		ICT		学習ボランティア		総合的な学習の時間支援 ○		コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習 ○	
		土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動 ○		子ども食堂(こどもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山 ○		キャリア教育(職場体験を含む) ○	
		人権教育		国際理解		託児							
学校・家庭・地域の協働した取組例													
		地区奉仕活動(6月28日・10月4日)				読み聞かせ(6月8日・7月6日・10月5日・11月9日)				どんぴちや祭り(10月16日)			
		代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)											
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)													
<p>・どんぴちや祭り 西春近地区と東春近地区を結ぶ殿島橋を利用して行われていた祭りで、東西春近の交流の場となっていた。しかし、平成18年の豪雨災害の影響で橋が使えなくなって以来、行われていなかった。令和元年度に当時の3年生が「夏フェスin殿島橋」として復活。令和2年度は新型コロナウイルスの影響で中止となったが、令和3年度から総合的な学習の時間の企画として開催。地域と生徒の交流を深める効果があった。</p>													

学校の概要		学校名	伊那市 立 長谷中 学校	学校長	清水 慶一	児童生徒数	30 名		
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について									
学校運営に必要な支援に係る協議の場				ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○		会議の委員構成		○ ボランティアのリストがある			
		市町村教委		○ 自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)			
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○		公民館代表		○ PTA代表			
		○		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○ 学校長・教頭以外の学校職員			
						ボランティアと学校の情報交換会がある			
						ボランティアの方を対象とした研修会がある			
名称	長谷学区地域支え合いの会			[その他の委員]※具体的な役職名を記入 主任児童委員、PTA副会長、前PTA会長、社会福祉協議会(係長)、保育園長			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)		
							地域コーディネーター 3 人 地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者) 1 人		
会議開催数(予定)	2	回	今年度開催日(予定)	第1回会議 5月19日、本校にて、長谷保育園と長谷小学校と合同開催。 第2回会議 2月8日、本校を会場に開催予定。			地域住民 具体的な役職(その他を選択した場合)は立場・役職を記入)		
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況									
学校教育目標	心豊かに たくましく 創造力溢れる 生徒								
地域と共有された育てたい子どもの姿	(1) 思いやりの心を育む (2) 自主的、自発的な学習態度を育み、学力、体力の向上を目指す (3) 自分で考え、判断し、行動できる力をつける								
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)				地域と協働した活動状況					
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。	○	
2	学校運営への必要な支援について			○	2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。	○	
3	地域の実情や課題について			○	3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)	○	
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	4		協働活動に参加したボランティアの人数	30 人	
5	教職員の任用に関する一般的な要望について			○	4		参加者延べ人数	80 人	
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食	○	休み時間
	清掃		ICT	学習ボランティア	○	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(こどもカフェ)との連携	○	防災学習(避難訓練)	○	キャリア教育(職場体験を含む)
	人権教育		国際理解	託児					
	学校・家庭・地域の協働した取組例								
	長谷の縁側(5月28日 唐辛子の定植)			ミニ運動会(10月1日 地域参加種目)			高齢者施設での太鼓演奏(10月13日)		
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)									
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)									
<p>「長谷の縁側」の活動は、地域の方と一緒に学校で作業をして、懇親会を持つ取り組み。新型コロナウイルス感染拡大防止策として、お茶の会等の飲食を伴う活動は行わなかったが、毎月最終金曜日を基本に、地域の方と一緒に畑や花壇の作業を行った。今年度は5月:とうがらし苗の植え付け、6月学校花壇の苗定植、7月長谷の縁日(中止)、8月大根の種まき、9月くろゆり祭での運動会、10月さつま芋の収穫・ニンニクの植え付けを行った。場所は長谷中学校横の学校の畑や花壇など、生徒会本部が計画し全校で参加した。地域の方には、回覧板や地域放送での呼びかけと、高齢者クラブ代表者への電話連絡にて希望者に参加していただいた。</p> <p>老人福祉施設での太鼓演奏は社会福祉協議会と支え合いの会の協力を得ながら、屋外で演奏を行うなど、演奏と感染対策を両立して開催することができた。生徒たちは地域の方々に支えられていることや、自分たちも地域を盛り上げるための活動を行う大切さを、地域の方と一緒に作業することを通して実感している。</p>									

学校の概要		学校名	伊那市	立 高遠中	学校	学校長	山崎 茂則	児童生徒数	124 名	
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について										
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある		
		市町村教委		○	自治会代表		○	○ ボランティアの団体がある(組織化されている)		
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		○			公民館代表		○	○ ボランティアと学校の情報交換会がある		
		地域コーディネーターや 地域学校協働活動推進員		○	学校長・教頭以外の 学校職員		○	○ ボランティアの方を対象とした研修会がある		
名称	高遠中学校学校運営委員会			[その他の委員]*具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体 や地域との連携調整を行う コーディネーター等が学校 職員以外にいないか(それぞ れの人数を記入)		地域コーディネーター	1 人
							地域学校協働活 動推進員(教育 委員会の委嘱を 受けた者)			人
会議 開催数 (予定)	2	回	今年度 開催日 (予定)	4月26日, 2月1日			中心的なコーディネーター の立場(リストより選択)		地域住民	
								具体的な役職(その他を選択し た場合は立場・役職を記入)		
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況										
学校教育目標	学則得									
地域と共有され た育てたい子ど もの姿	・挨拶愛語 ・清掃不言 ・花作相見 ・歌声響合									
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況					
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1	学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子ども の姿」が共有されている。			○	
2	学校運営への必要な支援について			○						
3	地域の実情や課題について			○	2	地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有 できている。			○	
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	3	ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。 (専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)			○	
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				4	協働活動に参加したボランティアの 人数		ボランティア 登録者人数	45 人	
								参加者延べ 人数	50 人	
地域学校 協働活動 の概要	登下校の見守り	読み聞かせ	○	児童会、生徒会	クラブ、部活動	給食	休み時間			
	清掃	ICT	○	学習ボランティア	総合的な学習の 時間支援	○	コロナウイルス対策 の消毒・清掃	放課後教科・ 体験学習		
	土日・長期休業 教科・体験学習	地域の伝統文化の 継承に係る活動	○	子ども食堂(子ども カフェ)との連携	防災学習(避難訓練)	遠足・登山	キャリア教育(職場 体験を含む)			
	人権教育	国際理解		託児						
学校・家庭・ 地域の協働した 取組例										
		観桜期活動(4/2, 3, 9)		森林学習(10/7)雨天のため校内で実施			パワーアップ学習室(10/11)			
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)										
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)										
1学年の総合的な学習の時間では、森林の生態系サービスを知り、山地の災害防止や土壌保全機能、特に森林災害防止機能について学びます。その一環で学校林の整備作業に取り組みます。地域の森林保全に向けた意欲の醸成をねらっています。残念ながら、本年度は天候に恵まれず、伐採木を用いた木材加工を行いました。										

学校の概要		学校名	宮田村	立 宮田中	学校	学校長	齊藤 博	児童生徒数	279 名	
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について										
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある		
		市町村教委		○	自治会代表		○	○ ボランティアの団体がある(組織化されている)		
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表			PTA代表			○ ボランティアと学校の情報交換会がある		
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○	学校長・教頭以外の学校職員			ボランティアの方を対象とした研修会がある		
名称		宮田村コミュニティスクール			[その他の委員]*具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)		
					商工会事務局長 JA支所長 ボランティア代表 保育園代表			地域コーディネーター 1 人		
								地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者) 13 人		
会議開催数(予定)		2 回		今年度開催日(予定)			第1回 5月9日 第2回 令和5年2月(予定)			
								中心的なコーディネーターの立場(リストより選択) 教育委員会職員		
								具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入) コミュニティスクール・コーディネーター		
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況										
学校教育目標		自分の姿を見つめ、心豊かに伸びる								
地域と共有された育てたい子どもの姿		○宮田村教育大綱「郷育」に寄せて:「故郷を愛し、故郷を創る」 ・学んだことを人生やふるさと宮田に生かそうとする生徒 ・宮田村の良さを存分に知り、宮田村の自然や文化、産業、伝統に囲まれて育ってきた自分を見つめ、自分や宮田村の将来のありようを自信を持って表現する。								
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況					
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○			1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○	
2 学校運営への必要な支援について		○			2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○	
3 地域の実情や課題について		○			3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○	
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて		○			4		協働活動に参加したボランティアの人数		○	
5 教職員の任用に関する一般的な要望について		○			5		ボランティア登録者人数 150 人 参加者延べ人数 60 人		○	
地域学校協働活動の概要										
登下校の見守り		読み聞かせ		児童会、生徒会		○ クラブ、部活動		給食		休み時間
清掃		ICT		学習ボランティア		○ 総合的な学習の時間支援		○ コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習
土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		○ 子ども食堂(こどもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山		○ キャリア教育(職場体験を含む)
人権教育		国際理解		託児						
学校・家庭・地域の協働した取組例										
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)										
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)										
<p>・本校では、総合的な学習の時間(プラムタイム)の3年生の題材として「より良くしよう宮田村」が位置づいている。1年生、2年生における総合的な学習の時間では、宮田村の魅力を経験的な活動を通じて学び、そのことをベースにして、宮田村の地域課題に向き合う学習に取り組んでいる。毎年11月には、宮田村議会や宮田村役場の全面的な協力のもと、「こども議会」に3年生が参加し、総合的な学習の時間に取り組んできた地域課題への解決策や提言事項を宮田村に伝えている。今年度は、宮田村の豊かな自然を活かした観光振興について、ライチョウの復活プロジェクトに関わる取り組みをしたり、移住定住促進の一環として、村内の空き家対策に何らかの貢献をする取り組みを考えたり、地産地消を促進するため、地域で生産されている食材を用いた給食のメニューを新たに開発したりする活動が行われている。こういった学習活動を通じて、地域の特徴を事実としてつかむだけでなく、地域を特徴づける重要な要素として、そこに暮らす人々の人格や個性の豊かさがあることを学んだり、地域の魅力を事物の存在だけでなく、その存在を魅力的にしている人の存在や役割に気づいたり、そこから生徒自身が人間的な成長に必要な言葉や経験を得たりすることができている。総合的な学習の時間がねらいとする、自らのあり方や生き方を問い、考える姿が、地域の方々の存在を介して豊かに見られる。</p>										

学校の概要		学校名	駒ヶ根市 立 赤穂中		学校	学校長	竹松 寿寛		児童生徒数	711 名			
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について													
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について							
運営委員会(信州型コミュニティスクール)			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある							
			市町村教委		自治会代表		ボランティアの団体がある(組織化されている)						
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)			公民館代表		PTA代表		ボランティアと学校の情報交換会がある						
			地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		学校長・教頭以外の学校職員		ボランティアの方を対象とした研修会がある						
名称			赤穂中学校 学校運営協議会			[その他の委員]※具体的な役職名を記入			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)				
			<ul style="list-style-type: none"> ・同窓会副会長 ・保育園園長 ・高校教頭 ・児童委員 			地域コーディネーター		1		人			
						地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		人					
会議開催数(予定)		3 回		今年度開催日(予定)		5月16日(月) 11月28日(月) 2月2日(木)		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		学校職員(教頭及び教頭以外の職員)			
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)							
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況													
学校教育目標		○たしかな学力 ○たくましい体力 ○ゆたかな心											
地域と共有された育てたい子どもの姿		一人一人に違いがあることを前提としつつ、違いのある一人一人が、関わり合い、つながり合って、その時々課題に自分事として向かうことをとおして、一人一人に応じた成長をしていく。											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況							
1 上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について		○		1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。				○			
2 学校運営への必要な支援について				2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。							
3 地域の実情や課題について				3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)							
4 子どもにどんな地域貢献ができるかについて				4		協働活動に参加したボランティアの人数				ボランティア登録者人数 40 人			
5 教職員の任用に関する一般的な要望について						参加者延べ人数				300 人			
地域学校協働活動の概要													
登下校の見守り		読み聞かせ		児童会、生徒会		クラブ、部活動		給食		休み時間			
清掃		ICT		学習ボランティア		総合的な学習の時間支援		コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習			
土日・長期休業教科・体験学習		○ 地域の伝統文化の継承に係る活動		子ども食堂(子どもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山		○ キャリア教育(職場体験を含む)			
人権教育		国際理解		託児									
学校・家庭・地域の協働した取組例													
		職場体験学習(7月26日)				ホッケー北信越大会(7月29日)				西駒登山引率(8月29日)			
		代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)											
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)													
本校は、運動部は18、文化部は6の部で活動を行っている。その中で特徴的な部活動がいくつかあるが、男女ホッケー部においては、県内で唯一の部となっている。活動の様子は、日常の部活動においては校内で行い、それに加えて、夜間や休日においては、地域の外部指導者に指導をうけながら活動を行っている。本年度は、北信越大会の会場となり、準備や運営において、地域指導者、行政担当者、保護者、学校関係者が協力して対応した。日常の活動へのサポートに加え、大会参加にあたり、選手が安心して競技を行うことができた。													

学校の概要		学校名	駒ヶ根市立 東中 学校		校長	三ツ井 邦仁		児童生徒数	190 名			
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について												
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について						
運営委員会(信州型コミュニティスクール)			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある						
			市町村教委	○	自治会代表	○ ボランティアの団体がある(組織化されている)						
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)			○	公民館代表	○	PTA代表	○ ボランティアと学校の情報交換会がある					
			地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		学校長・教頭以外の学校職員	○	○ ボランティアの方を対象とした研修会がある					
名称	東中コミュニティスクール			[その他の委員]※具体的な役職名を記入 主任児童委員			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいます(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター	1	人	
							地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)			3	人	
会議開催数(予定)	2	回	今年度開催日(予定)	(1)4月25日(月) (2)2月16日(木)			中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		学校職員(教頭及び教頭以外の職員)			
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)						
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況												
学校教育目標	明るく美しい心 強くたくましい体 広く豊かな知識											
地域と共有された育てたい子どもの姿	自立した生徒、地域に貢献する生徒											
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況						
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1			学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。			○	
2	学校運営への必要な支援について			○								
3	地域の実情や課題について			○	2			地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。			○	
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	3			ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)			○	
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				4			協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数	80	人
									参加者延べ人数		80	人
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	○	読み聞かせ	児童会、生徒会	クラブ、部活動	○	給食			休み時間		
	清掃	○	ICT	学習ボランティア	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	○	放課後教科・体験学習		○	
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動	○	子ども食堂(子どもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山		○	
	人権教育		国際理解	○	託児				キャリア教育(職場体験を含む)		○	
	学校・家庭・地域の協働した取組例											
			山林作業(5/12)			環境整備作業(7/30)			大根種まき(8/25)			
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)												
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)												
今年で44回目となる、東伊那財産区有林での「山林作業」は、本校のスローガン「ふるさとへ心」を具現する重要な伝統行事である。新型コロナウイルス感染症の影響で、ここ2年間は実施を見送ってきたが、今年度は、感染対策をして行うことができた。今回は、財産区作業員の方による倒伏実技の様子を見学した後、ふるさと班(全校縦割12班)に分かれて、作業員の方に指導をいただきながら、刈った下草やはらった枝の整備を行った。雨の影響で、時間を短縮しての作業となったが、ふるさと班の良さである3年生のリーダーシップで、協力しながら作業を終えることができた。東伊那財産区の方々には、前日までの準備、当日の安全に対する配慮等をしていただいた。												

学校の概要		学校名	飯島町立 飯島中 学校		学校長	横山 英志		児童生徒数	240 名												
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について																					
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について															
運営委員会(信州型コミュニティスクール)			○			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある												
			市町村教委			○ 自治会代表			○ ボランティアの団体がある(組織化されている)												
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)			○			公民館代表			○ PTA代表			ボランティアと学校の情報交換会がある									
			地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員			○			学校長・教頭以外の学校職員			○			ボランティアの方を対象とした研修会がある						
名称		飯島町コミュニティスクール				[その他の委員]※具体的な役職名を記入 社会福祉協議会会長、学校評議員				学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいるか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター		人							
										地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		1		人							
会議開催数(予定)		2		回		今年度開催日(予定)		5月中旬、2月下旬				中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		教育委員会職員							
												具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		指導主事							
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況																					
学校教育目標		明るく 心豊かに 健やかに 逞しく 自ら求め 自ら学ぶ																			
地域と共有された育てたい子どもの姿		<ul style="list-style-type: none"> ・明るく心豊かに:地域の方々に挨拶ができる。気軽に話をしたり、行事に関わったりすることができる。 ・すこやかに、たくましく:部活動や社会体育の場で地域の方々と共に活動したり、指導していただいたりする。 ・自ら求め、自ら学ぶ:ふるさと飯島の歴史や現状について課題を持ち、積極的に地域に出かけ調べたり、話を聞いたりする。 																			
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況															
1		上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について				○		1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。				○							
2		学校運営への必要な支援について				○		2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。											
3		地域の実情や課題について				○		3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)											
4		子どもにどんな地域貢献ができるかについて				○		4		協働活動に参加したボランティアの人数				ボランティア登録者人数 50 人							
5		教職員の任用に関する一般的な要望について				○		5		参加者延べ人数				200 人							
地域学校協働活動の概要		登下校の見守り		○		読み聞かせ		児童会、生徒会		クラブ、部活動		○		給食		休み時間					
		清掃		○		ICT		学習ボランティア		○		総合的な学習の時間支援		○		コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習			
		土日・長期休業教科・体験学習		○		地域の伝統文化の継承に係る活動		○		子ども食堂(子どもカフェ)との連携		○		防災学習(避難訓練)		○		遠足・登山		○	
		人権教育		○		国際理解		○		託児		○									
		学校・家庭・地域の協働した取組例																			
		いじま未来塾(5月～2月)				傘山登山ボランティア(7/7)				総合的な学習の時間「絆秋祭」(11/3)											
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)																					
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)																					
<p>今年度も、新型コロナウイルス感染状況を考慮しつつ、感染対策を講じて学校行事を実施している。外部の方との会合を見送ったものも多い。</p> <p>そのような中でも、地域の方々は生徒たちの活動に積極的に関わること考えてくださっている。3学年では、昨年11月から「総合的な学習の時間」で「地域を学ぶ」学習を進めてきた。大正琴・わら細工・地域食材・祭り・地域PRの5つの講座に別れ、調べ学習や講師を招いての学習会、現地での取材活動を重ねた。「道の駅」「きのこ栽培農家」「りんご農家」「味噌製造会社」「仙人塚公園」「南信州米俵保存会」「琴伝流大正琴」「リノベーションした民宿」など、多くの地域の方々と触れ合う中で、自分たちができることを考えてきた。今年度は「地域に発信」する催しを行うことを学習のゴールに据えた。活動資金を得るため、8月に町商工会主催の夏祭り会場で、生徒たちが家庭で不要となった品々を持ち寄りバザーを行った。また、大正琴や吹奏楽部も演奏し、活躍する生徒の姿を地域の方々に見ていただいた。バザーで得た資金を元に、11月3日(木)に「絆秋祭(ばんしゅうさい)」を開催した。飯島町に移住してきた宿泊施設の敷地をお借りし、大正琴の発表、わら細工体験、自分たちでレシピを考えたスイーツ・きのこ汁の無料提供を行った。多くの町の方に支えられ、自分の町の「人・もの・自然」を知り、町の良さを伝えていく良い機会となった。</p>																					

学校の概要		学校名	中川村	立 中川中	学校	校長	牛山 博行	児童生徒数	134 名	
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について										
学校運営に必要な支援に係る協議の場					ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について					
運営委員会(信州型コミュニティスクール)		○ 会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある					
		市町村教委		○	自治会代表		○	○ ボランティアの団体がある(組織化されている)		
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)		公民館代表			PTA代表		○	○ ボランティアと学校の情報交換会がある		
		地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		○	学校長・教頭以外の学校職員		○	ボランティアの方を対象とした研修会がある		
名称	中川村コミュニティスクール運営委員会			[その他の委員]*具体的な役職名を記入 学校評議員, 学校支援ボランティア代表			学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)			
	地域コーディネーター		1		人		地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)		1 人	
会議開催数(予定)	2	回	今年度開催日(予定)	令和4年6月23日(木) 令和5年2月14日(火)			中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		地域住民	
							具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)			
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況										
学校教育目標	○ 自考創造 自ら考え、創造的に追及する人 ○ 自鍛実行 心身を鍛え、たくましい実行力のある人 ○ 自他仁恕 思いやりの心を持つ人									
地域と共有された育てたい子どもの姿	・中川村の一員として、中川村に誇りを持ち、中川村と共に生きる大人になって欲しい。 ・挨拶を大切にし、小さな子やお年寄りに手を貸すことができる生徒になってほしい。									
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)					地域と協働した活動状況					
1	上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について			○	1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○	
2	学校運営への必要な支援について			○						
3	地域の実情や課題について			○	2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○	
4	子どもにどんな地域貢献ができるかについて			○	3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)		○	
5	教職員の任用に関する一般的な要望について				4		協働活動に参加したボランティアの人数		71 人	
							ボランティア登録者人数		32 人	
							参加者延べ人数			
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り	読み聞かせ	児童会、生徒会	○	クラブ、部活動	○	給食	休み時間		
	清掃	ICT	学習ボランティア	○	総合的な学習の時間支援	○	コロナウイルス対策の消毒・清掃	放課後教科・体験学習	○	
	土日・長期休業教科・体験学習	○ 地域の伝統文化の継承に係る活動	子ども食堂(こどもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		遠足・登山	○ キャリア教育(職場体験を含む)	○	
	人権教育	国際理解	託児							
学校・家庭・地域の協働した取組例										
未来塾(通年水曜日放課後)		家庭科布を用いた製作(製作期間中)			陣馬形山登山(5月27日)					
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)										
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)										
○ 毎週水曜日放課後1時間(通年)、「中川村未来塾」(中川村教育委員会が主催)を本校会場に実施している。学習支援ボランティアの皆さん(登録数:地域13名・村職員5名)が、生徒一人ひとりに寄り添い、学習を支援していただいている。また、長期休業(夏休み5日間・年末年始2日間)にも、改めて参加希望者を募集し、子どもたちへの学習支援の機会を増やしている。今年度から、夏休みのボランティア募集を、大学生や高校生へも広く呼びかけ、生徒に近い年齢のボランティアさんが支援者として参加した。「中川未来塾」は、生徒が「学びたい」と思う好きな教科の好きな内容に取り組むことができる。それを、ボランティアの皆さんが見守り・支え、生徒の学習意欲の向上や学習支援となっている。 令和4年度未来塾(通年)申込生徒数 42名 令和4年度夏休み未来塾申込生徒数 46名										

学校の概要		学校名	長野県伊那養護 学校		学校長	原 潤		児童生徒数	224 名							
「地域と共にある学校づくり」へ向けた仕組について																
学校運営に必要な支援に係る協議の場						ボランティアの組織化(地域学校協働本部)について										
運営委員会(信州型コミュニティスクール)			会議の委員構成			○ ボランティアのリストがある										
			市町村教委		自治会代表		○ ボランティアの団体がある(組織化されている)									
学校運営協議会(コミュニティ・スクール)			公民館代表		PTA代表		ボランティアと学校の情報交換会がある									
			地域コーディネーターや地域学校協働活動推進員		学校長・教頭以外の学校職員		○ ボランティアの方を対象とした研修会がある									
名称	交流支援委員会 学校評議員会		[その他の委員]*具体的な役職名を記入 学校評議員会には校長、教頭が出席				学校と協働する様々な団体や地域との連携調整を行うコーディネーター等が学校職員以外にいないか(それぞれの人数を記入)		地域コーディネーター		0 人					
							地域学校協働活動推進員(教育委員会の委嘱を受けた者)				0 人					
会議開催数(予定)	14	回	今年度開催日(予定)			・交流支援委員会は原則月1回校内会議を開催 ・学校評議員会は年2回開催本年度は第1回を7月12日に実施第2回は3学期に実施予定。		中心的なコーディネーターの立場(リストより選択)		学校職員(教頭及び教頭以外の職員)						
						具体的な役職(その他を選択した場合は立場・役職を記入)		教頭、交流係								
運営委員会または学校運営協議会の協議内容及び地域と協働した活動状況																
学校教育目標		「自分から 自分で 精いっぱい そしていっしょに」														
地域と共有された育てたい子どもの姿		・友だちや教師と「自分から 自分で 精いっぱい そしていっしょに」力を発揮し、成長を実感できる子ども。 ・地域と一緒に歩む子ども。 ・(人としての4つの幸せ)①人から愛されること、②人に褒められること、③人の役に立つこと、④人に必要とされること														
運営委員会または学校運営協議会での協議内容(本年度もしくは昨年度)						地域と協働した活動状況										
1		上記の「地域と共有された育てたい子どもの姿」について				○		1		学校とボランティアで上記「地域と共有された育てたい子どもの姿」が共有されている。		○				
2		学校運営への必要な支援について				○		2		地域の実情や課題について学校とボランティアで、情報共有できている。		○				
3		地域の実情や課題について				○		3		ボランティアの方の居場所や交流スペースが学校内にある。(専用の部屋や他の目的で使用する部屋との兼用でも可)						
4		子どもにどんな地域貢献ができるかについて				○		4		協働活動に参加したボランティアの人数		ボランティア登録者人数				
5		教職員の任用に関する一般的な要望について				○				参加者延べ人数		21 人				
地域学校協働活動の概要	登下校の見守り		読み聞かせ		○		児童会、生徒会		クラブ、部活動		給食		休み時間			
	清掃		ICT		○		学習ボランティア		総合的な学習の時間支援		コロナウイルス対策の消毒・清掃		放課後教科・体験学習			
	土日・長期休業教科・体験学習		地域の伝統文化の継承に係る活動		○		子ども食堂(子どもカフェ)との連携		防災学習(避難訓練)		○		遠足・登山		キャリア教育(職場体験を含む)	
	人権教育		国際理解		○		託児									
	学校・家庭・地域の協働した取組例														写真	
		働く車と触れ合おう(9月22日)		手作り入浴券渡し(10月19日)										活動名(日付)		
代表的な協働した活動の取組例 (上の写真の3つの取り組みの中から1つの活動を選択し、活動の内容を教えてください)																
○ 取組の内容(どのような内容を、どこで、誰と取り組み、どのような成果や効果があったか)																
・伊那市のご協力により、伊那市所有のモバイルオフィスや消防車などの働く車が学校を訪れ、小学部の子どもたちが見学を行った。子どもたちは、消防車やキャンピングカーなどの車を見たり、乗り込んだりすることができた。コロナ禍で校外学習がなかなか実施できず、外部の方との交流や様々な体験ができなかったため、学校に出向いていただきありがたかった。子どもたちは久しぶりにこのような体験の機会を得られて、とても嬉しそうだった。熱心に見学したり消防士さんに質問したり、楽しく学習をおこなうことができた。																